

官報

號外 昭和六年三月六日

○第五十九回 帝國議會 衆議院議事速記第二十三號

昭和六年三月五日(木曜日)
午後一時十八分開議

議事日程 第二十二號

昭和六年三月五日

午後一時開議

- 第一 電氣事業法改正法律案(政府提出) 第一讀會
- 第二 右議案ノ審查ヲ付託スヘキ委員ノ選舉 第一讀會
- 第三 土地收用法中改正法律案(政府提出) 第一讀會
- 第四 右議案ノ審查ヲ付託スヘキ委員ノ選舉 第一讀會
- 第五 著作權法中改正法律案(政府提出) 第一讀會
- 第六 貴族院送付) 第一讀會
- 第六 右議案ノ審查ヲ付託スヘキ委員ノ選舉 第一讀會
- 第七 大正十三年法律第二號中改正法律案(海軍軍備制限條約實施ノ件) 第一讀會
- 第八 右議案ノ審查ヲ付託スヘキ委員ノ選舉 第一讀會
- 第九 勞働者災害扶助法案(政府提出) 第一讀會
- 第十 勞働者災害扶助責任保險法案(政府提出) 第一讀會
- 第十一 勞働者災害扶助責任保險特別會計法案(政府提出) 第一讀會
- 第十二 右各案ノ審查ヲ付託スヘキ委員ノ選舉 第一讀會
- 第十三 入營者職業保障法案(政府提出) 第一讀會

- 第十四 右議案ノ審查ヲ付託スヘキ委員ノ選舉 第一讀會
- 第十五 明治四十二年法律第二十二號中改正法律案(立木ニ關スル件)(政府提出) 第一讀會
- 第十六 右議案ノ審查ヲ付託スヘキ委員ノ選舉 第一讀會
- 第十七 船員保險法案(政府提出) 第一讀會
- 第十八 右議案ノ審查ヲ付託スヘキ委員ノ選舉 第一讀會
- 第十九 前德軌道株式會社所屬軌道補償ノ爲公債發行ニ關スル法律案(政府提出) 第一讀會
- 第二十 右議案ノ審查ヲ付託スヘキ委員ノ選舉 第一讀會
- 第二十一 米穀法中改正法律案(政府提出) 第一讀會
- 第二十二 米穀需給調節特別會計法中改正法律案(政府提出) 第一讀會
- 第二十三 家祿賞典給與未濟ニ關スル法律案(末松信一郎君外四名提出) 第一讀會
- 第二十四 礦業法中改正法律案(丹下茂十郎君外一名提出) 第一讀會
- 第二十五 度量衡法中改正法律案(一松定吉君提出) 第一讀會
- 第二十六 計量土法案(一松定吉君提出) 第一讀會
- 第二十七 未成年者飲酒禁止法中改正法律案(長尾半平君外二十四名提出) 第一讀會

- 第二十八 恩給法中改正法律案(山下谷次君外一名提出) 第一讀會
- 第二十九 刑事訴訟法中改正法律案(一松定吉君外四名提出) 第一讀會
- 第三十 刑事訴訟法中改正法律案(長谷川陸郎君外二名提出) 第一讀會
- 第三十一 利息制限法中改正法律案(一松定吉君外四名提出) 第一讀會
- 第三十二 利息制限法中改正法律案(原夫次郎君外三名提出) 第一讀會
- 第三十三 民事訴訟法中改正法律案(村岡吾一君外三名提出) 第一讀會
- 第三十四 航空法中改正法律案(永田良吉君提出) 第一讀會
- 第三十五 河川法中改正法律案(山根儀重君外五名提出) 第一讀會
- 第三十六 借地借家調停法中改正法律案(小久江美代吉君提出) 第一讀會
- 第三十七 借家法中改正法律案(小久江美代吉君外二名提出) 第一讀會
- 第三十八 六大都市ニ關スル法律案(森田茂君外十八名提出) 第一讀會
- 第三十九 產業組合中央金庫法中改正法律案(山谷義治君外十四名提出) 第一讀會
- 第四十 產業組合中央金庫法中改正法律案(岸田正記君外二名提出) 第一讀會
- 第四十一 癩病優遇ニ關スル法律案(一松定吉君外一名提出) 第一讀會
- 第四十二 司法代書人法中改正法律案(斯波貞吉君外一名提出) 第一讀會
- 第四十三 農會法中改正法律案(半場清次郎君外三名提出) 第一讀會
- 第四十四 農會法中改正法律案(末松信一郎君外十二名提出) 第一讀會
- 第四十五 耕地整理法中改正法律案(半場清次郎君外三名提出) 第一讀會
- 第四十六 酒造稅法中改正法律案(古島義英君外一名提出) 第一讀會

- 第四十七 道路維持修繕費負擔法案(栗原彦三郎君提出) 第一讀會
- 第四十八 穀類搗粉製粉取締法案(大竹實一君外四名提出) 第一讀會
- 第四十九 私生子ノ名稱ニ關スル法律案(一松定吉君外六名提出) 第一讀會
- 第五十 負債整理組合法案(土井權大君外三名提出) 第一讀會
- 第五十一 產業組合法中改正法律案(土井權大君外三名提出) 第一讀會
- 第五十二 農工銀行法中改正法律案(土井權大君外三名提出) 第一讀會
- 第五十三 日本勸業銀行法中改正法律案(土井權大君外三名提出) 第一讀會
- 第五十四 北海道拓殖銀行法中改正法律案(土井權大君提出) 第一讀會
- 第五十五 米穀需給法案(土井權大君外三名提出) 第一讀會
- 第五十六 米穀需給特別會計法案(土井權大君外三名提出) 第一讀會
- 第五十七 計理士法中改正法律案(定塚門次郎君外二名提出) 第一讀會
- 第五十八 無盡業法中改正法律案(松田田一君外二名提出) 第一讀會
- 第五十九 古物採取取締法中改正法律案(石原善三郎君外二名提出) 第一讀會
- 第六十 身元保證ニ關スル法律案(一松定吉君外三名提出) 第一讀會
- 第六十一 辦理土法中改正法律案(名川侃市君外四名提出) 第一讀會
- 第六十二 大日本帝國國旗法案(石原善三郎君提出) 第一讀會
- 第六十三 大正十五年法律第五十二號中改正法律案(土地區劃整理ニ件ノ清算金等ニ關スル件)(安藤正純君外三十八名提出) 第一讀會
- 第六十四 震災ニ因ル土地區劃整理施行地區內ノ假建築著手制限變更ニ關スル法律案(戶井嘉作君外三十八名提出) 第一讀會

第六十五 鑛業法中改正法律案(大里廣次郎君外三十七名提出)

第一讀會ノ續(委員長報告)

第六十六 鑛業法中改正法律案(坂井大輔君外二名提出)

第一讀會ノ續(委員長報告)

○議長(藤澤幾之輔君) 諸般ノ報告ヲ致サセマス

〔書記官朗讀〕

一政府ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ
(第一號)昭和六年度歳入歳出總豫算追加案
(以上三月三日提出)

(特第一號)昭和五年度各特別會計歳入歳出豫算追加案
(特第二號)昭和六年度各特別會計歳入歳出豫算追加案
(追第一號)豫算外國庫ノ負擔トナルベキ契約ヲ爲スヲ要スル件
(以上三月五日提出)

労働者災害扶助法案
労働者災害扶助責任保險法案
労働者災害扶助責任保險特別會計法案
入營者職業保障法案
明治四十二年法律第二十二號中改正法律案(立本ニ關スル件)
船員保險法案
祐徳軌道株式會社所屬軌道補償ノ爲公債發行ニ關スル法律案
(以上三月四日提出)

一議員ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ
酒造稅法中改正法律案
提出者 永田 良吉君 井上 知治君
崎山 嗣朝君 崎山 武夫君
寺田 市正君
(以上三月三日提出)

關稅定率法中改正法律案
提出者 川島正次郎君 東 武君

津崎 尙武君 森 龜祖君

胎中補右衛門君 土井 權大君

今井 健彦君 東郷 實君

永田 良吉君 鈴木 隆君

銀行法中改正法律案

堤 康次郎君 菅村 太事君

小久江美代吉君 高橋 欽哉君

小山 令之君 長野 綱良君

岡田 素臣君 戸田 山美君

宮澤 胤男君 井上 剛一君

氏家 清君
(以上三月四日提出)

保稅工場法中改正法律案

末松偕一郎君 山杵 儀重君

八並 武治君 増田 義一君

三浦 虎雄君 西脇 晉君
(以上三月五日提出)

南洋諸島ニ於ケル邦人經營事業助成ニ關スル建議案
提出者 伊禮 肇君 岡本實太郎君

佐藤 正君 佐藤 與一君

豐岡島取間鐵道電化速成ニ關スル建議案

提出者 佐藤 喜八郎君 田 昌君

櫻内 辰郎君 原 夫次郎君

木村小左衛門君 山杵 儀重君

紫安新九郎君 山杵 義治君

錦木 忠正君 三好榮次郎君

伯備線經由大社大阪間直通列車運轉ニ關スル建議案

提出者 佐藤 喜八郎君 西村丹治郎君

原 夫次郎君 木村小左衛門君

櫻内 辰郎君 錦木 忠正君

紫安新九郎君 山杵 儀重君

由谷 義治君 三好榮次郎君

南洋諸島ニ於ケル邦人經營事業助成ニ關スル建議案

提出者 水島彦一郎君 永田 良吉君

坂本 一角君

北海道港灣漁港修築速成ニ關スル建議案

提出者 木下成太郎君 東 武君

松實喜代太君 板谷 順助君

佐々木平次郎君 三井 德寶君

東條 貞君

北海道國立公園設定ニ關スル建議案

提出者 木下成太郎君 東 武君

松實喜代太君 佐々木平次郎君

板谷 順助君 三井 德寶君

東條 貞君

比律賓ダヴァオ總領事館分館昇格ニ關スル建議案

提出者 伊禮 肇君 岡本實太郎君

佐藤 正君 佐藤 與一君

小學校長俸給國庫支辨ニ關スル建議案

提出者 服部 教一君 増田 義一君

末松偕一郎君 長尾 半平君

一松 定吉君 藤田 若水君

山田 毅一君 榑部 荒熊君

錦木 忠正君 最上 政三君
(以上三月三日提出)

低利資金融通條件緩和ニ關スル建議案

提出者 廣島高等工業學校ニ藥學科併置ニ關スル建議案

提出者 藤田 若水君 土屋 寬君

木原 七郎君 松田喜三郎君

廣島市ニ綜合大學設置ニ關スル建議案

提出者 藤田 若水君 木原 七郎君

土屋 寬君

(以上三月五日提出)

〔左ノ報告ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノ爲茲ニ掲載ス〕

一去三日幣原內閣總理大臣臨時代理ヨリ左ノ通發令アリタル旨ノ通牒ヲ受領セリ

農林書記官 村上龍太郎

同 荷見 安

同 井野 碩哉

第五十九回帝國議會農林省所管事務政府委員被仰付

一去三日常任委員補闕選舉ノ結果左ノ如シ

第四部選出 決算委員 宮澤 裕君(佐保畢雄君補闕)

第六部選出 決算委員 守屋 榮夫君(中谷貞賴君補闕)

一去三日議長ニ於テ辭任ヲ許可シタル常任委員左ノ如シ

第一部選出 決算委員 野澤 卯市君

一去三日理事補闕選舉ノ結果左ノ如シ

市制中改正法律案(政府提出)外三件委員理事 深水 清君(理事林平馬君二月二十七日委員辭任ニ付其ノ補闕)

簡易生命保險法中改正法律案(政府提出)委員 久山 知之君(理事高橋熊次郎君昨二日委員辭任ニ付其ノ補闕)

辯護士法中改正法律案(北浦圭太郎君外三名提出)外二件委員 理事 石橋 茂君(理事谷原公君昨二日委員辭任ニ付其ノ補闕)

一去三日ニ於ケル特別委員ノ異動左ノ如シ

辯護士法中改正法律案(北浦圭太郎君外三名提出)外二件委員 辭任服部 英明君 補闕木田彌市郎君

辭任西田 郁平君 補闕榑部 荒熊君

簡易生命保險法中改正法律案(政府提出)
委員

辭任村田虎之助君 補闕上田 孝吉君
抵當證券法案(政府提出)外九件委員

辭任松尾 四郎君 補闕松田 正一君
辭任山田 又司君 補闕牧野 賤男君

公娼制度廢止ニ關スル法律案(三宅磐君
外十名提出)委員

辭任久山 知之君 補闕高橋橋次郎君
米穀法中改正法律案(政府提出)外一件委

員
辭任高橋壽太郎君 補闕村上 國吉君
國立公園法案(政府提出)委員

辭任崎山 武夫君 補闕林 七六君
市制中改正法律案(政府提出)外三件委員

辭任中島 守利君 補闕本田 義成君
重要産業ノ統制ニ關スル法律案(政府提

出)委員
辭任松村 光三君 補闕堀切善兵衛君

一昨五日幣原內閣總理大臣臨時代理ヨリ左
ノ通發令アリタル旨ノ通牒ヲ受領セリ

社會局部長 大野綠一郎
同 石原雅二郎

第五十九回帝國議會內務省所管事務政府
委員被仰付

一昨四日當任委員補闕選舉ノ結果左ノ如シ
第一部選出

決算委員 當眞 嗣合君(野澤卯市君
補闕)

一昨四日議長ニ於テ辭任ヲ許可シタル常任
委員左ノ如シ

第三部選出
豫算委員 坂井 大輔君

第八部選出
豫算委員 宮脇 長吉君

一昨四日ニ於ケル特別委員ノ異動左ノ如シ
公娼制度廢止ニ關スル法律案(三宅磐君
外十名提出)委員

辭任北浦圭太郎君 補闕青木 亮貴君

抵當證券法案(政府提出)外九件委員

辭任石崎 敏行君 補闕中谷 貞頼君
辭任中谷 貞頼君 補闕石崎 敏行君

辭任磯部 清吉君 補闕横川 重次君
○議長(藤澤幾之輔君) 是ヨリ會議ヲ開キ

マス
○作田高太郎君 日程變更ノ動議ヲ提出致

シマス、即チ此際日程第二十一及第二十二
ニテ線上ガ議題ト爲シ、委員長ノ報告ヲ求

メ、其審議ヲ進メラレンコトヲ望ミマス
○議長(藤澤幾之輔君) 作田君ノ動議ニ御

異議アリマセヌカ
〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(藤澤幾之輔君) 御異議ナシト認メ
マス、仍テ日程ハ變更致サレマシタ、日程

第二十一、米穀法中改正法律案、第二十二、
米穀需給調節特別會計法中改正法律案ヲ一

括シテ第一讀會ノ續ヲ開キマス、委員長ノ
報告ヲ求メマス、委員長西村丹治郎君

第二十一 米穀法中改正法律案(政府
提出) 第一讀會ノ續(委員長報告)

報告書
一 米穀法中改正法律案(政府提出)

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致
候此段及報告候也

昭和六年三月三日 委員長 西村丹治郎
衆議院議長藤澤幾之輔殿

希望條項
本法附則第二項ノ規定ハ米穀生産費及家

計費ニ關スル資料ノ整備スル迄ノ暫定方
法トシテ已ムヲ得サルモノト認ムルモ政

府ハ米穀生産費及家計費ノ調査ヲ一日モ
速ニ完了シ之ヲ基準價格ノ決定ニ用ウル

ト共ニ内地ニ於ケル米穀生産保護ノ極メ
テ緊切ナル事實ニ鑑ミ最低基準價格ハ力

メテ米穀生産費ニ近カラシムル様最善ノ
考慮ヲ拂ハムコトヲ望ム
第二十二 米穀需給調節特別會計法中
改正法律案(政府提出) 第一讀會ノ續(委員長報告)

報告書

一 米穀需給調節特別會計法中改正法律案
(政府提出)

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致
候此段及報告候也

昭和六年三月三日 委員長 西村丹治郎
衆議院議長藤澤幾之輔殿

〔西村丹治郎君登壇〕
○西村丹治郎君 委員會ノ經過ト結果ヲ極

ク簡單ニ御報告申上ゲタイト思ヒマス、本
案ノ内容ニ關シマシテハ、既ニ本案提出ノ

際農林大臣竝ニ大藏大臣カラ詳シキ説明ガ
アッタノデアリマスルカラ、總テ申上ゲマセ

ス、尙又委員會ニ於ケル模様モ、既ニ皆様ガ
速記録ヲ御承知アラセラルコトト思ヒマ

スカラ、此點ニ付キマシテモ詳シキコトハ
一切之ヲ略シマス、唯僅ノ點ニ付テ御報告

申上ゲタイト思フデアリマス
第一ニ米穀對策ノ根本方針ハ如何ト云フ

ヤウナ質問ガアッタノデアリマス、之ニ對シ
マシテ當局者ヨリ、農村ノ經濟ヲ危機ニ瀕

セシメズ、又一面ニ於テハ、消費者ノ生活
ニ脅威ヲ與ヘザラシメンガ爲ニ、米價ノ暴

騰暴落ヲ防止シテ、兩者ノ利害關係ヲ調和
致スト云フコトガ、米價對策ノ根本方針デ

アル、斯ウ云フ答辯ガアッタノデアリマス、
更ニ本米穀法改正ハ根本的ノモノデハナイ

デハナイカ、斯ウ云フ御質問モアッタノデ
アリマス、之ニ對シマシテ當局者ハ、田中

內閣當時ニ出來マシタ米穀調査會ナルモノ
ガ、一年有半ノ長キニ亙リテ慎重審議致サレ

テ答申致サレタ、其答申ヲ基礎トシテ、此
度ノ米穀法ノ改正ハ提案致シテ居ルノデア

ル、殊ニ米價ノ最高最低ノ基準ヲ定メテ、
之ニ依ッテ米穀法ノ出動ヲ制限スルト云フ

ガ如キハ、可ナリニ根本的ニ觸レタ、又相
當重大ナル改正デアアル、故ニ政府ハ此度ノ
米穀法改正案ナルモノハ、根本改正ト認ム

更ニ又此米穀法ト云フモノト、モウ一ツノ

米穀需給調節特別會計法ト云フモノハ、切

離シ得ルモノデアアルカドウカト云フ質問ニ

對シマシテハ、無論別々ノ法律デアアルガ故

ニ、切離シ得ルト云ヘバ左様ナモノデア

ル、併ナガラ目下ノ狀態ニ照シテ、兩案共

ニ成立致スト云フコトガ、政治上且ツ刻下

ノ米穀事情カラ言ウテ最も必要事デアアル、

斯ウ云フ答辯デアッタノデアリマス、更ニ又

率勢米價ト云フコトニ付キマシテ、其基準

トナルベキ、其標準トナルベキ日本銀行ノ

物價指數ト云フモノハ、不完全ノヤウニ考

ヘルガ、政府ハドウ思フカ、斯ウ云フ質問

ニ對シマシテ、成程學理的ニ言ヘバ完全無

缺ト云フコトハ出來ヌカモ知ラヌ、併ナガ

ラ日本銀行ノ物價指數ナルモノハ、明治三

十三年ニ始メテ、今日ニ至ルマデ三十餘年間

繼續致シテ參テ居ルノデアアル、元來統計

云フモノハ、年ガ經テバ輕ツ程、ソレダケ

大勢ノ平均ヲ知ルト云フコトニ付テハ、

モ、未ダ今日はナラバ完全デアラウト云フヤウニ調べ上ツタモノガナイカラ、其調査ガ出來上ルマデ、暫定的ニ率勢米價一本デヤッテ行クノデアアル、斯ウ云フ答辯ガアツタノデアリマス、即チ是ハホンノ僅カナ間ノ暫定的ナモノデアアル、然ラバ其家計費及ビ生産費ノ調査ハ何時出來上ルノデアルカト云フ質問ニ對シテ、一年若クハ二年ノ間ニハ完成スル見込デアアル、併シ是ハ的確ニ何年何月何日ト云フヤウナ答辯ハ出來ヌケレドモ、兎ニ角一二年ノ間ニハ十分完成スル見込ヲ持テ居ル、斯ウ云フ力強キ答辯ガアツタノデアリマス、米穀法ニ對スル質問應酬ノ大要ハ先ヅ斯様ナモノデアリマス

更ニ米穀供給特別會計法改正案ニ對スル質問ハ、八千萬圓ヲ増加スルコト云フ事柄ハ、是ハ洵ニ不都合デアアル、現ニ米穀調査會ニ於テモ、是マデノ損失ハ一般會計ニ移シテ、之ヲ整理スベシト云フ答申ガアルニモ拘ラズ、何故斯様ナ姑息ヲモノヲ出シタカト云フ質問ガアツタノデアリマス、ソレニ對シマシテ當局者ノ答辯ハ、先年田中内閣當時ニ二億圓デアツタ所ノ資金ヲ七千万圓増加シテ、二億七千万圓ト云フ改正案ガ提出サレタコトガアル、其際ニ吾ガ立憲民政黨ハ、其七千万圓ヲ増加スルコトハ、恰モ其當時特別會計ノ損失ガ約七千万圓アツタカラ、取敢ヘズ其損失ヲ補填スル意味ニ於テ七千万圓ノ増加ニ賛成シタノデアアル、此度此會計年度ノ終リ、即チ三月三十一日迄ノ計算ヲ致シマスルト、約一億五千万圓ノ缺損ガ出來ルノデアリマス、既ニ田中内閣當時ニ於テ七千万圓ノ缺損ヲ補填シテアリマスカラ、其不足額八千万圓ヲ持テ行ケバ、丁度一億五千万圓ノ缺損ガ、ソレデ補ヒ得ラレルコトニナル、ソレ故ニ田中内閣當時ニ缺損補填ノ意味ニ於テ、七千万圓ノ増加ニ賛成シタト同ジ理由ノ下ニ、今度八千万圓ヲ増加致シタノデアアル、尙ホ此一億五千万圓ノ損失ト云フモノヲ一般會計ニ移スト云フコトハ、固ヨリ本

筋デアリ、政府ハ全ク同感デアアル、此本法ノ缺陷ハ此處ニアルノデアアル、ソレ故ニ損ガ行ツタモノハ、一日モ速ニ一般會計ニ於テ之ヲ整理スルコト云フコトガ當然ノ筋道デアアル、併ナガラ目下ノ財政事情ハ、之ヲ致スト云フコトガ頗ル困難ナ状態ニ置カレテ居ルノデアアル、ソレ故ニムヲ得ズシテ應急ノ手段ニ出デ、八千万圓ヲ増加シタノデアアル、是ハ一日モ速ニ一般會計ニ移シテ整理スルコト云フコトノ誠意ハ何處マデモアルカラ、將來極力其點ニ向テ努力スル、斯ウ云フ答辯デアツタノデアリマス、而シテ質問應酬ガ終了致シマシテ、兩案ヲ一括シテ可否ヲ諮ラフコトニナツタノデアリマス、所ガ民政黨ノ關矢孫一君ヨリ米穀法ニ付テ一ツノ希望條項ノ發議ヲ致サレタノデアリマス、其希望條項ヲ此處デ朗讀致シマス

本法附則第二項ノ規定ハ米穀生産費及家計費ニ關スル資料ノ整備スル迄ノ暫定方法トシテ已ムヲ得サルモノト認ムルモ政府ハ米穀生産費及家計費ノ調査ヲ一日モ速ニ完了シ之ヲ基準價格ノ決定ニ用ウルト共ニ内地ニ於ケル米穀生産保護ノ極メテ緊切ナル事實ニ鑑ミ最低基準價格ハカメテ米穀生産費ニ近カラシムル様最善ノ考慮ヲ拂ハムコトヲ望ム

斯ウ云フ附帶條項ノ提議ガアツタノデアリマス、又政友會ノ胎中補右衛門君カラハ、此場合贊否ノ意見ヲ保留シテ本會ニ於テ意見ヲ發表スルコト云フ、斯ウ云フコトニナリマシタ、他ニ何等ノ御發議モアリマセヌデ矢君ノ希望條項ヲ米穀法ニ附帶致シマシテ採決致シマシタ所ガ、多數ヲ以テ兩案共政府ノ原案ヲ可決致シタノデゴザイマス、此段御報告致シマス(拍手)

○議長(藤澤義之輔君) 質疑ガアリマセヌカラ直チニ討論ニ入りマス——胎中補右衛門君

○胎中補右衛門君 只今委員長ヨリ報告致サレマシタル二案ノ中、米穀供給調節特別會計法中改正法律案デアリマス、八千万圓増額ノ案ニ對シテハ吾々ハ賛成ヲ致シマス(拍手)併ナラガ米穀法中改正法律案ニ對シテハ反對ヲ表明スル者デアリマス、元來我國ノ米穀ノ問題ハ頗ル重大デアリマス、ト同時ニ、極メテ困難ナ問題デアリマス、此故ニ歷代ノ内閣ハ屢ニ此問題ノ解決ニ對シテ憂慮サレテ居ルノデアリマス、又吾々ト致シマシテモ、常ニ此米穀問題ノ解決ニ苦慮、盡力致シマシテ、今議會ニ於キマシテモ、私共同志ハ此米穀問題解決ノ爲ニ、米穀供給法案ヲ今提出致シテアルノデアリマス、是モ總テ諸君ノ御審議ヲ得ルコト、思フノデアリマス、此場合ニ於テ私ハ單ニ今回政府ガ出サレマシタル、此米穀法改正法律ニ付テノ論議ヲ進メテ見タイト思フノデアリマス、

此改正法ニ依リマスルト、米穀法ガ如何ナル場合ニ出動スルカ、其發動ノ時期ヲ基準價格ニ依テ決マルコト云フノデアリマス、之ニ依テ見マスルト云フコト、米穀法ノ本來ノ使命デアリマス、所ノ數量ノ調節、竝ニ價格ノ安定ト云フモノヲ、私共ハ見出スコトガ出來ナイ、譬ヘデ申シマスルナラバ、恰モ此米穀法ト云フモノハ傳家ノ寶刀デアリマス、此寶刀デアアルベキ所ノ米穀法ノ改正案ニ依テ見マスルト、其傳家ノ寶刀ガ正宗デアッテモ宜シイ、又刃コボレノ刀デアッテモ宜シイ、更ニ又鈍刀、ナマクラデアッテモ宜シイト云フノガ、此法案ノ中ニ現レテ居ル、唯其ナマクラデアッテモ宜イト云フ傳家ノ寶刀ナルモノ、按タ時ヲ、單ニ決マルコト云フノガ此改正法案デアリマス、此點ニ付テハ私共ハ米穀法ノ根本ノ精神ニ立脚致シマシテ多ク疑ヲ持ツ、併ナラガ茲ニハ政府ガ提出致シマシタル所ノ、此米穀法ノ出動ノ時期ヲ定マルコト云フ、所謂基準價格ガ如何ナル方法ニ依テ決メ

ラレカト申シマスルト、是ハ三ツノ要素ガアル、第一ハ家計費、第二ハ生産費、之ニ今回殆ド國民ノ總テニ諒解セシムルコトノ困難ナル、十數回ニ亙テ吾々ガ委員トシテ審議致シマシタケレドモ、今尙ホ諒解シ得ザル所ノ、ムヅカシイ高等數學ニ依ル率勢米價ナルモノヲ持チ來テ、此三者ヲ相對照セシメテ、茲ニ米價ノ基準ヲ決メヨウトスルノデアリマス、私ハ是ニ於テ此米價基準ヲ定メヨウト致シマス、此三要素ニ付テ、是ヨリ極メテ簡單ニ解剖致シテ見タイト思フ、本日ハ出來ルダケ議事ノ進行ヲ圖リタイト云フ申合モアルト云フコトデアリマス、成ベク時間ヲ取りマセヌ意味ニ於テ、私ガ茲ニ申述ベタイト思ヒマス、數字等ニ付テモ極メテ簡略ニ致スノデアリマス

第一家計費ノコトデアリマス、家計費ノ問題ト云フモノガ、未ダ當局ニ於テハ、統計局ニ於テ調査サレマシタル大正十五年ノ家計費ノ調査ヨリ外ニ無イ、此統計局ニ於テ大正十五年ニ調査セラレマシタル家計費、此中ヨリ拔萃致シマシテ、農林省ヨリ戴キマシタル表ニ依テ見マスルト、現下ノ米價ノ趨勢ハ、此家計費ニ依レバ、消費者側ニ對シテハ未ダ何等ノ痛痒ヲ感ゼザル程度デアアルト云フコトデアアル、更ニ之ヲ具體的ニ申シマスルナラバ、此家計費ノ調査ニ依リマスルト、米價ハ四十圓ヨリ四十七圓マデハ消費者ノ苦痛ニハナラナイト云フ數字ガ現レテ居ルノデアリマス、故ニ此家計費ノ問題ニ付テハ、多ク論議ガナカッタノデアリマス

次ニ然ラバ最も重大ナル關係ヲ持テ居リマスル所ノ米ノ生産費、此生産費ガドウ云フ風ニナツテ居ルカ、農林當局ニ於テハ無論此重大ナル生産費ニ付テハ御調ガアル筈デアリカラ、之ヲ示シテ戴キタイ、之ヲ要求致シマシタ結果、農林當局ヨリ二ツノ表ヲ得タノデアリマス、但シ此表ハ農林當局

ニ於テハ杜撰極マルモノデアッテ、諸君ノ參
考資料トシテ出スコトハ出來ナイ、唯斯ウ
云フ調モアルト云フダケノ價值ノモノデア
ルト承知シテ貰ヒタイ、斯ウ云フコトデア
リマスルカラ、私共ハ此農林省ヨリ得マシ
タル所ノ生産費ノ數字ニ對シテハ、其杜撰
ナルコトヲ當局ニ責メルコトハ致シマセ
ヌ、併ナガラ當局ガ此重大ナル問題ノ生産
費ヲ、未ダ調ガ出來テ居ラナカッタト云フ、其
怠慢ハ私共ハ責メ得ラレルト思フ（拍手）而
シテ此表ニ依リマス、大正十一年ヨリ昭
和四年ニ至ル間ノ米ノ生産費ノ調ノ表ガ出
テ居リマス、之ニ依リマス云フコト、昭和
四年ノ米ノ生産費ガ、平均致シマシテ一石
二十九圓六十二錢トナッテ居ル、無論大正十
一年ヨリ調ベラレルタル數ヲ申上ゲタイノデ
アリマスガ、議事ノ進行上之ヲ省略致シテ、
昭和四年ノミヲ申上ゲタイデアリマス
ソコニ其後ノ調ガアル管デアラウト云フ
ノデ、更ニ昭和五年ノ生産費ノ調ヲ戴イタ、
之ニ依リテ見マスル、昭和五年ノ米ノ生産
費ガ二十一圓三十五錢トナッテ居ル、昭和四
年ノ米ノ生産費ハ二十九圓六十二錢、昭和
五年ノ米ノ生産費ガ二十一圓三十五錢ト云
フデアリマスカラシテ、昭和四年ヨリ五
年ニ至ル間ノ生産費ノ調ガ、八圓二十七錢
ト云フ相違ガアルト云フコトハ、此處ニハ、
キリシテ居ル、米ノ値段ハ時々或ハ上リ、
或ハ下リ致シマシテ、相當値段ノ喰違フコ
トハ、是ハ聞キアルコトデアリマス、併ナ
ガラ生産費ノ調ニハ、昭和四年ノ生産費ノ
調ト、昭和五年ノ生産費ノ調ニ於テ、八圓
二十七錢ノ相違ガアルト云フコトハ、實ニ
私共ハ不可解デアアル、ソコニ私共ハ農林當
局ニ此意味ヲ以テ御伺致シマスル、農林
當局ガ言ヒマスルニハ、昭和四年度迄ノ
生産費ノ調ハ、是ハ單ニ聽取調デアアル、然
ルニ昭和五年ノ調ハ、全國十三縣ノ中カ
ラ、二十六戸ノ農家ヲ調ベ上ゲタモノデア
ッテ、昭和五年ノ方ガ稍、正確ニ近イモノデ

アルト云フ御話デアッタ、併ナガラ是トモ
政府當局ニ於キマシテハ、此生産費ノ調ト
云フモノニハ、責任ヲ持タナイト云フコト
ヲハ、キリ申シテ居ルノデアリマス、之ニ依
リマスルト政府當局ニ於テハ、責任ヲ持チ
得ナイ米ノ生産費ノ調ヲ一通吾々ニ示シタ
ノミデアアル、是ニ於テ吾々ハ此法律改正案
ヲ審議スルニ當リマシテ、非常ナル踴躍ヲ
來シタ、然ルニ偶ニ帝國農會ノ生産費ノ調ト
云フモノガ吾々ノ手ニ入ッタ、之ニ依リテ見
マスル、是ハ省略致シマシテ、昭和二年
是ハ大正十一年ヨリ昭和二年ニ至ル六年間
ノ米ノ生産費ヲ、帝國農會ガ調ベタモノデア
リマス、之ニ依リテ見マスル、昭和二年ノ
生産費ノ計數ガ、二十七圓十四錢トナッテ
居ル、更ニ私共ガ引續イテ帝國農會ヨリ得
マシタル材料ニ依リマスル、帝國農會ガ
昭和五年ニ、此米ノ生産費ヲ調ベマシタル
表ト云フモノガ手ニ入ッタ、此表ニ依リテ見
マスル、平均致シマシテ米ノ生産費ガ二
十六圓四十錢、而モ此帝國農會ノ調ハ、農
林省ガ調ベタガ如ク聽取調デモナシ、又
僅ニ二十六戸ノ農家ニ就テ調ベタト云フ、
ソコニ不確實ナルモノデアリナイデアリマス、
帝國農會ノ此昭和五年ノ生産費ノ調ハ、全
國四十六府縣ニ互リ、而モ七百七十一戸ノ
農家ニ就テ調ベタル所ノ生産費ノ調デアリ
マス、此生産費ノ調ニ依リマスル、昭和
五年ハ一石ノ生産費ガ二十六圓四十錢ト云
フコトガ、茲ニ明カニナッタノデアリマス、
然ルニ茲ニ奇怪ナルコトハ、此帝國農會ノ
生産費ノ調査ガ世ノ中ニ出マスルヤ、而シ
テ吾々ノ手ニ入リマスルヤ、各方面ニ於
テ相當ノ議論ガ起リタヤウデアアル、私ハ是ガ
敢テ政府當局カラ出タト云フコトハ申シマ
セヌガ、此帝國農會ノ生産費ノ調ト云フモ
ノガ、極メテ杜撰不確實ナルモノデアアルカ
ノ如キ説ガ傳ハタ、是ニ於テ帝國農會ニ於
キマシテハ、其幹事デアリマスル岡田溫君
ガ、此重大ナル米ノ問題、而モ此米ノ生産

費ノ問題ニ付テ、帝國農會ガ調ベタル所ノ
生産費ノ調ニ付テ、丁度此法律ノ改正案ノ
審議サレテ居リマスル時ニ、此事ニ依リテ
解テ生ズルコト云フコトハ、是ハ重大ナル問題
デアアルト致シマシテ、茲ニ帝國農會ノ名ヲ
以テ聲明書ガ發セラレテ居ル、是モ一々讀
メバ長イカラ略シマスルガ、要スルニ農林
省ノ昭和五年ノ生産費ノ調、帝國農會ノ昭
和五年ノ生産費ノ調ノ相違セル所以下、而
シテ帝國農會ノ調査ノ基礎ノ相當確實ナリ
ト云フコトガ、茲ニ明記サレタルノデア
リマス、斯様ニ致シマスル、政府デハ未
ダ生産費ノ調ガ出來テ居ラヌガ、偶ニ帝國
農會ノ調査ニ依リテ、吾々ハ相當程度マデ信
ズル所ノ根據ヲ得タノデアアル、然ルニ之ヲ
一面政府ガ今出シテ居リマスル率勢米價
ニ依リ昭和六年度ノ米ノ價ヲ見マスル、
是ガ昭和六年度ニ於テハ一石二十二圓八十
五錢デ、此上下二割ヲ割リマシタ時ニ、初
メテ是ガ高クナレバ賣リニ出ル、安クナレ
バ買ヒニ出ル、之ヲ明確ニ申シマスルナラ
バ、率勢米價ニ依リテ政府ガ算出サレマシタ
ル一石二十二圓八十五錢、是ヨリ更ニ二割
下ニ安クナッタト致シマスル、米ガ十八圓
二十五錢ヨリ下ラナケレバ、米穀法ノ出動
ヲセヌト云フコトニナリマス、一面米ノ
生産費トシテ帝國農會ニ依リテ調ベタル一
石二十六圓四十錢ヲ、政府ガ算出シテ提案
致シテ居リマスル所ノ、率勢米價ニ依ル米
ノ價ト對照致シマシタナラバ、單リ其率勢
米價ノ二割以下ニ割レタル場合——下ッ
場合デハナイ、其率勢米價ニ依リテ出テ居ル
所ノ二十二圓八十五錢モ、尙ホ農家ノ生産
費ヲ價ヒ得ザルコトガ、茲ニ明瞭ニナッテ居
ル（拍手）併ナガラ私共ハ此生産費ニ關スル
檢討ヲ致シテ此處ニ達シタノデアアル、政府
ノ申シマスルニハ、政府ハ追加豫算ニ六
萬五千圓ヲ、所謂家計費ノ調査費用トシテ
提出シテ、サウシテ此六萬五千圓ガ追加豫
算デ手ニ入ルト、直チニ此金ハ統計局ニ渡

シ、統計局ニ委託致シマシテ、本年九月ヨ
リ來年ノ八月マデノ家計費ノ調ベヲシテ貰
フ、一年十二萬圓ノ豫算ヲ取テ、サウシテ
生産費ノ調ベヲスル、ソレガ本年四月ヨリ
十一月マデノ間ニ、本年ノ生産費ヲ調ベル、
サウ云フコトニシテ出來ルダケ生産費ヲ早
ク調ベ得ラレルヤウニ致シタイ、但シ此的
確ナ生産費ヲ調ベ得ラレルコトガ、果シテ
何時デアアルカト云フコトガ明言出來ナイ、
二年掛ルカ、三年掛ルカ、或ハ又十年掛ル
カ、ソレハ分ラナイガ、成ベク一三三年ノ
中ニ調ベ上ゲタイ、斯ウ云フ話デアアル、デ
アリマスカラシテ、生産費ノ檢討ニ付テハ、
諸君ガ既ニ御諒承ガ出來タト思フ、然ラバ
茲ニ最後ニ率勢米價ノ問題、政府ハ此基準
額ヲ定ムルニハ三ツノ要素ニ依リテヤル、但
シ以上申述マシタ通り、家計費並ニ生産費
ニ付テハ未ダ其調ベガ出來ナイカラ、暫定
的ニ附則トシテ、今ハ率勢米價ノミニ依リテ
此法律改正ヲ致シタイ、斯ウ云フノデアリ
マス、デアリマスカラシテ最後ニ殘リタ率
勢米價ト云フモノハ、最モ重大ナル意義ヲ
持ツト云フコトハ明瞭デアリマス
私ハ此處ニ於テ委員長ノ報告ヲ拜聽シテ
居リマシタ時ニ、委員長ガ此率勢米價ニ付
テ、何モ一言モ御話ニナラナカッタ、他ノ事
ニ付テハ或程度マデ御報告ハアリマシタ
ガ、率勢米價ニ付テハ西村委員長ハ一言モ
觸レナカッタ、私ハ尤ダト思フ、實ハ分ラナ
カッタ、率勢米價ト云フノガ分ラナイ、嚴密
ニ言ヘバ吾々未ダ此率勢米價ト云フノガ本
當ニ腹ニ入ッテ居ナイ、唯政府ノ言フ所ニ依
ルト、率勢米價トハ、米價率ノ趨勢値ヲ見
出シタル米ノ値段ヲ總稱シテ率勢米價ト云
フ、サウシテ米價率トハ、一般物價指數ト
對照シテ、サウシテ長イ年月ノ間ニ米ノ値
段ヲ見出スノデアアル、然ラバ趨勢値トハ何
ゾヤト言ヘバ、米ハ一上一下シテ高カッタリ
安カッタリスル、其米ヲ明治三十七年カラ昭
和六年ノ今日マデ之ヲ平均シ、サウシテ押

シ均シテ米ノ値段ガ、他ノ一般物價指數ト、ドウ云フ風ニ進ンデ居ルカト見ルト、私共モ分ラナイ、高等數學ヲ申シマスル最小自乗法ニ依テ直線ニ行クトハ、米ノ趨勢値ト云フモノハ段々上テ行ク、段々上テ他ノ物價指數ヨリハ一割九分三厘上テ居ルカラシテ、此趨勢行ケバ茲ニ米ノ値段決メテ宜イト、斯ウ斷定——認定スル所ニ依テ、此米價率ヲ生ミ出シタノデアル、所ガ是ハ分ラナイ、私共ハ政府當局ニ向テ聞イタ、農林大臣モ御分リニナラナイ、石黒局長モ他ノ政府委員ノ方モ、誰モ説明ハ出來ナイ、ソコデ何人カ農林當局ニ於テモ此立案ヲスル以上ハ、此率勢米價ニ就テ、吾々ニ對スル十分ナル説明ヲ爲シ得ル方ガアルニ違ヒナイ、誰カアルカ、斯ウ御致シマスルト、實ハ農林省ニ新井技師ト云フノガ一人居ル、是ガ能ク分テ居ルケレドモ、ソレガ今病氣デ出ラレヌノデ説明ガ出來ヌ、ソコデ私共ハ更ニ誰カ分ル人ガアルデセウ、分ル人ヲ拉シ來テ、吾々ニ能ク説明シテ貰ヒタイ、ソコデ政府當局デハ、農事試驗場長デアリマスル所ノ安藤博士ヲ拉シ來テ、吾々ノ説明ノ任ニ當テ呉レタ、所ガドウシテモ分ラヌ(拍手)ソコデ私共ハ斯ウ云フ風ニ聞イタ、一體直線ニ最小自乗法デヤレバ、是ガ正シイト仰シヤリマスガ、其外ニ何カ數學上ノ方法ハアリマセヌカ、ソレハナイコトハアリマセヌ、アリマスケレドモ、要スルニハ數學上ノ根據ハアリマセヌ、所謂過去ニアッタ斯ノ如キモノヲ算出致シマスノニハ、其誤差ノ最モ少イノヲ見出スノニ、他ニモ色々方法ハアリマスルケレドモ、此最小自乗法ニ依テ直線デ出スト云フコトガ一番宜イト、斯様ニ私共ハ認定シマス、併ナガラハ是ハ數學上ノ根據ハアリマセヌト云フ話デス、實ハ私共ニ數學上ノ知識ガアリマシタナラバ、此時ニ私共ハ質問ガ出來タ、此時ニモト深ク切込ンデ聞クコトガ出來タノデアリマスルガ、如何ニ

セシ一人トシテ言フ者ハナイ、獨リ私共政府會ノ委員ノミデハナイ、民政黨ノ委員諸君ニモ此知識ガナカッタ、デアリマスカラシテ到頭其席デハ分ラズジマヒ、其後此審議ヲ進メマスルト、ドウシテモ此率勢米價ト云フモノハ中心デアル、最モ重大デアリマスルカラシテ、ドウシテモ此處ニ流レテ落著イテ來ル、他ノ方ノ質問ヲ致シテ居テモ、結局ハ此率勢米價ニ落著ク、右ノ方カラ質問ヲシテ究メテ來マシテモ、結局ハ此率勢米價ニ落著ク、ソコデドウシテモ此率勢米價ガ分ラヌカラ、是ハ委員會ノ速記デ明瞭ニナッテ居リマスルガ、私ハ說ヲ出シタ、實ハ今日ノ時代ニ於テハ法律ハ民衆化サレンケレバナラヌ問題ダ、然ルニ斯ノ如キ重大ナル法案ヲ作ルニ、斯ノ如キムヅカシイモノヲ以テ來ラレテハ迷惑ダ、無論此問題ニ付テハ、國民全體ニ之ヲ理解セシメナケレバナラヌ、先ツ吾々委員自ラガ知ラナケレバナラヌケレドモ、私共ニハ分ラナイ、政府當局デモ、或ハ政友會、民政黨ト云ハズ、委員ノ諸君ノ中デ是ガ御分リニナッテ居ル方ガアルナラバ、ドウカ御説明ヲ願ヒタイ、教ヘテ戴キタイ、斯様ニマデ私ガ申上ゲタ、然ルニ何人モ之ニ答ヘル人ハナカッタ(拍手)斯ウ云フ風ニシテ更ニ話ガ段段進ンデ參リマスルトキニ、偶、政友會ノ委員ノ一人ガ更代ニナッテ、此處デ松山常次郎君ガヒョト入テ來タ(拍手)松山常次郎君ハ此以前ノ話ト云フモノハ何モ知ッテ居ラナカッタケレドモ、段々來テ聞イテ居ル中ニ、率勢米價ノ話ガ出タカラ、參與官デアリマスル山田君ノ發言ニ對シテ、松山君ガ口ヲ出シタ、松山君ノ曰ク、私ハ數學ノ素養ハ相當持ッテ居ル積リデス、デアリマスルカラシテ、アナタノヤウナ分ラナイコトヲ言フノデハイカヌガ、分テ人ガアルナラバ、モウ一度此處ニ連レテ來テ呉レヌカ、サウシテ其人ト質問應答ヲシテ、出來ルダケ分ルヤウニシタイ、斯ウ云フ要求ガ松山君カラア

リマシタノデ、ソレデハト云フノデ、更ニ日ヲ改メテ安藤博士ヲ再ビ拉シ來テ、松山君トノ間ニ質問應答ガアッタガ、此場合ニ松山君ガ安藤博士ニ要求シタ、安藤博士ハ率勢米價ヲ以テ——米價ノ趨勢値ヲ見出スノ最小二乘法ガ一番宜イト言ハレルガ、併シ他ノ方法モアラウ、安藤君曰ク、アリマス、第一「バラボラ」式方法ト云フノガアル、此處デ松山君ガ、此「バラボラ」式ト云フ方法ガアルナラバ、是デ一ツ算出シテ貰ヒタ、サウシテ是ト比較對照シテ見レバ、凡ソノ見當ガ付カウト云フ、此要求デ政府モ遂ニ之ヲ作ルコトニナッテ、サウシテ日ヲ經テ安藤博士ガ之ヲ作テ來マシタノデ、所謂直線式ト「バラボラ」式ノ比較對照ヲ致シタノデアリマス、明治三十七年ヨリ昭和六年マデ茲ニ計數ガ出テ來タ、之ニ依テ見マス「バラボラ」式ニ依レバ、明治三十八年、三十九年、四十年、四十三年、四十四年、大正六年、七年、八年、十一年——明治三十七年ヨリ昭和六年マデ二十八箇年アル、此中以上ノ九箇年間ガ「バラボラ」式デ計算致シマス、直線式ヨリハ米ノ値段ガ安クナッテ、生産者ノ損デアリマス、併ナガラ殘ル十九箇年ハ「バラボラ」式ニ依ルガ、直線式ヨリハ生産者ニ非常ニ利益デアリマス、而モ茲ニ最モ明瞭ナモノハ、昭和六年ニ於テ直線式ト「バラボラ」式ノ比較ヲシテ見マス、昭和六年ニ政府ガ今案出シテ居リマス米價、即チ率勢米價ニ依リマス米價ハ、二十二圓八十五錢ト云フノガ中値デアリマス、此中値ト「バラボラ」式ニ依ル中値トヲ比較致シマス「バラボラ」式ニ依レバ二十四圓六十七錢デアリマスカラ、是ダケデモ一圓八十二錢ト云フモノハ、現在直接ニ米ノ生産者ノ利益ニナルノデアリマス、更ニ之ヲ最高ノ場合ニ比較致シマスレバ、二圓十七錢ト云フモノハ生産者ノ利益ニナル、而シテ最低ノ場合、即チ率勢米價ニ割下ニ依ル十八圓二十八錢ト

「バラボラ」式ニ依ル十九圓七十四錢、此差額一圓四十六錢ト云フモノハ、生産者ノ利益ニナルノデアリマス、以上ノ數字並ニ私ガ引用致シマシタ是等ノ書類ハ、議長ノ御許シヲ得マシテ速記ニ載セテ載クコトニ致シマス、斯ノ如クシテ見マスル時ニ「バラボラ」式又ハ直線式其何レガ正シキカ、何レガ正シカラザルカト云フコトハ、私共ニハ分リマセヌ、併ナガラ今數字ヲ以テ示シマシタ通り、政府ガ案出致シマシタ直線式ニ據ルヨリモ、寧ロ松山君ガ指摘致シマシタ「バラボラ」式ニ據ル方ガ、吾々ノ常識ヲ以テ申シマスレバ、米ノ生産者ニ大ナル利益ガアルト云フコトヲ、私ハ茲ニ申上ゲルノデアリマス(拍手)斯様ニ致シマシテ、此率勢米價ト云フモノハ遂ニ私共ニ分ラナイ、當時是レ以上論議ヲ進メヤウトシタノデアリマス、何レガ正シキカ、何レガ正シカラザルカ、或ハ是レ以上ノ他ニ方法ガアルヤ否ヤニ付テモ、安藤博士ト松山氏トノ間ニ相當應答ガアリマシタガ、唯茲ニ遺憾ナ點ハ、若シ之ヲ數學專門家ガ寄テ論議ヲ致シテ居リマス、此會期ノ間ニハ此問題ハ解決シナイ、米穀法ノ運命ハ、ソレガ解決シテシマフマデニハ、議會ガ終タ後デナケレバ解決ガ出來ヌト云フコトデアリマスカラ、遂ニ此問題ハ其程度デ終テ居ル、此程度ニ終テ居ルコトニ依テ見マスレバ、此率勢米價、殊ニ政府ガ算出シタ此數字ニ依テ法律ヲ作ルノダ、之ニ依テ米ノ値段ノ標準ヲ決メルノダ、サウシテ之ニ依テ或ハ米ヲ買ヒ、或ハ米ヲ賣ルヤウニスル、斯ウ云フ風ナ唯一ノ寶刀ノ拔クベキ時ヲ決メルト致シマシタナラバ、是ハ國民全體、殊ニ國民ノ半數以上ヲ占メテ居リマスル所ノ農家、即チ米ノ生産者ト云フモノハ、斯ノ如キ不確實不徹底ナル法律ニ依テ、彼等ヲ束縛スルト云フコトハ、實ニ重大ナ問題デナケレバナラヌ(拍手)

以上私ガ解剖致シマシタル、即チ米ノ基準

價格ヲ定ムル所ノ要素デアリマス三ツト云フモノハ、極メテ明瞭ニナラザルデアリマス、何處ニ根據ガアリマスカ、何處ニ根據ガアリマスカ、此根柢ノナキ要素ナルモノヲ以テ、無理ニ此法律ノ改正ヲシヨウト云フコトガ、吾等常識ヲ以テ判斷スルコトハ出來ナイ、私ハ此場合ニ一ツ申上ゲタイ、先程委員長ヨリ御報告モアリマシタガ、此委員會ガ終リマス時ニ、民政黨ヨリ附帶決議ガ出テ居ル、是ハ私ハ多ク讀ミマセヌ、委員長ガ先程讀ミマシタカラ讀ミマセヌガ、併シ此附帶決議ヲ靜ニ能ク讀ミマセヌバ、二ツノ意味ガ此間ニ現ハレテ居ル、先ヅ第一ハ何デアルカト言ヒマス、私ガ先ニモ申シマシタ通り、政府ハ生計費並ニ生産費ノ調ベヲ急イデヤルト云フノデ、追加豫算デ都合十八万五千圓取テ、其中六万五千圓ハ家計費ノ調ベ、後ノ十二萬圓ハ生産費ノ調ベ充テラレタ、而モ家計費ノ調ベ本年九月カ年来年ノ八月マデニ、サウシテ生産費ノ方ハ四月カラ十一月マデニ急イデスルト云フノモ拘ラズ、此附帶決議見マス、家計費、生産費ノ調査ヲ早クシテ、之ヲ以テ米價ノ基準ヲ定メルヤウニシテ貰ヒタイ、斯ウ云フコトデアル、本來カラ言ヘバ是ハ必要ナイ、政府ガ以上申シマスル通り非常ニ取急イデヤルテ居ルケレドモ、茲ニ此附帶決議ニ之ヲ強ヒテ現ハシタル所以ノモノハ、民政黨ノ諸君自ラモ、此率勢米價ト云フモノガ極メテ不確實不安心デアルガ爲ニ、急イデ生産費、家計費ノ調ベヲシテ吳レト云フコトガ之ニ現ハレテ居ル(拍手)而モ亦此附帶決議ノ後半ヲ見マス、頗ル私ハ不思議ニ思フ、内地ニ於ケル米穀生産者保護ノ極メテ緊切ナル事實ニ鑑ミ、最低基準價格ハ努メテ米穀生産費ニ近カラシムルヤウ最善ノ考慮ヲ拂ハレシコトヲ望ム、一體私共ニハ分ラヌ、分カラヌガ、政府ノ説明スル所ニ依レバ、率勢米價ト云フモノハ一定ノ基準ヲ以テ直線ノニズト進

ンデ居ルモノデアル、此基準ト云フモノハ上ゲタリ下ゲタリスルコトハ出來ヌ、此一定ノ基準ヲ以テ進ンデ居リマス所謂趨勢値、米價率、是ガ高イ時ト安イ時ニ上下二割ヲ割テ場合ニ出動致スノデアリマスガ、之ニ依リマス其率勢米價ノ最低ノ場合ニ、生産費ニ近イヤウニシテ吳レト斯ウ云フ、サウスルト其場合ニハ此率勢米價ヲ下ゲルノデアルカ、上ゲルノデアルカ、要スルニ是ハ洵ニ私ハ好マヌコトデアリマスケレドモ斷言致シマス、民政黨ノ諸君ガ今尙ホ此率勢米價ト云フモノガ分テ居ラヌト云フコトヲ、茲ニ證明シテ居ルノデア(拍手)其一定ノ方式ニ依テ直線ノニ保テ居リマス此率勢米價ヲ、ドウシテ上ゲタリ下ゲタリスルコトガ出來ルカ、此點ニ付キマシテハ私ヨリ後デ民政黨ヨリ出ラレル所ノ討論者ニ依テ、十分ニ御説明ヲ私ハ願フテ置キタイ

更ニ又私ガ最モ怪訝ニ堪ヘマセヌノハ、政府ハ斯ノ如キ不確實ナル基礎ニ於テ、強テ米穀法ノ改正ヲシヨウトセズ、寧ろ吾々ハ田中閣内閣ノ五十六議會ニ於テ、七千万圓ノ金ヲ増スコトニ賛成ハシタガ、其後吾々ガ内閣ヲ取テ米穀法ヲ運用シテ來テ、段々金ガ無クナツタ、茲ニ又八千万圓程ノ金ガナケレバ米穀法ノ運用ガ出來ナイカラシテ、ドウカ此八千万圓増額ハ五十六議會ニ於テ同様ナ意味ニ於テ賛成シテ吳レト、斯ウ云フノガ私ハ本筋ダト思フ、是ハ委員長モサウ云フヤウニ報告サレテ居ル、然ルニ之ヲ斯ノ如キ不確實ナモノ、若シ之ヲ一度誤テ法律ニシタ結果ハ、日本全國ノ農民ニ多大ナル不利益ヲ與ヘルト云フ結果ヲ生ズルニ拘ラズ、之ヲ強テ法律ニ政府ガ作ルコトニ付テハ、一ツノ疑ヲ持テ居ル、惟フニ是ハ五十六議會ニ於テ貴族院ノ附帶決議ニ思ヒシタル所ノ、所謂貴族院ノ附帶決議ニ思ヒ及ンデ、若シ今私ガ申シマシタル通りニ出來ルダケ早ク調査研究ヲシテ、米穀法ノ根

本改正ハスル、併ナガラマダ十分デナイ、マダ十分ニ調査研究ガ出來テ居ラヌナラ、一日モ早クスルノデハアルガ、併シ一面ニ於テハ米穀法ノ運用ヲ現時ノ國情ニ米穀事情ニ省ミテ、此儘放テ置クコトハ出來ヌカラシテ、ドウカ八千万圓ノ金ヲ増シテ吳レト云フコトハ、衆議院ハ或ハ與黨多數ヲ以テ押切ルト致シマシテモ、貴族院ニ於テハ是ガ停頓スル、斯ウ云フヤウナ所謂御考カラシテ、無理押シニスル不確實ナル所ノ基礎ニ依テ、此法案ヲ無理ニ通サウトナサルノデハアルマイカト、私ハ考ヘルノデアリマス(拍手)

私ハ今米ノ產者デアリマスル所ノ農民ガ、活キルモ死スルモ勢テ此法案ノ改正案ガ今此壇ニ上セラレテ居ル此時ニ於テ、私ハ冷靜ニ考ヘテ見タイ、御互衆議院議員ノ多數ハ農村ニ誼ミヲ持テ居リマス、農村ニ親ミヲ持テ居リマス、サウシテ農村ノ振興ヲ叫ンデ居リマス、機會アル毎ニ農民ノ利益、農民ノ幸福、農民ノ向上ニ對シテハ高調ヲ致シテ居ルノデアリマス、而モ選舉ニ於テ如何ナルコトヲ言ウテ居ルカト云フト、此農民ノ利害ヲ利害トシテ、農村ノ利益ヲ爲ニ、農民ノ利益ヲ爲ニ、我等ハ、ト公約シテ居ルト云フコトハ、是ハ周知ノ事實デアル、今此農民ガ、縱シソレガ理智的デアッテモ宜シイ、盲目的デアッテモ宜シイ、自分ガ選舉シタル所ノ衆議院議員ガ、吾々農民ノ爲ニ、必ズ吾々ノ幸福ヲ爲ニ、吾々ノ不利益ハ圖テ吳レヌト、斯様ナ全幅ノ信頼ヲ致シテ居リマスルコトニ、而シテ其問題ガ今此壇ニ上テ居ルトキニ、若シモ誤テ是ガ或ハ政府ノ案デアアルガ故ニ、與黨已ムラ得ズト云フガ如キ情實ノ下ニ之ヲ通過セシメテ、之ヲ法律ト致シマスル場合ガアリト致シマスレバ、豫テ農民ニ公約シタル政治道徳ト云フモノハ、何ニ依テ之ヲ果スコトガ出來ルノデアリマス(拍手)私ハ此點ニ付テハ決シテ厭ヤタラシイ意味デナイ、

厭ヤラシイ皮肉デモナイ、私ハ切ニ御願スル、民政黨ノ諸君ノ中ニモ此附帶決議ニ於テ現ハレタル如キ、此法案ガ必ズシモ正シキモノデナイ、結構ナモノデナイト考ヘテ居ル人ガアラウト思ヒマスカラシテ、此點ハ特ニ我ガ全國ノ農民ノ爲ニ再三再四ノ御考慮ヲ私ハ煩シタイ、サウシテ私共ハ爾テ農民ヲ見ルト、我國ノ農民ハ一體國家ニ對シテドウ云フ存在デアリマス、彼等農民ハ牧ヤトシテ吾々ノ食糧ヲ供給致シテ居リマス、彼等ハ黙々トシテ原始産業ニ從事致シテ居リマス、彼等ハ國民ノ消費ノ三分ノ二ヲ負擔致シテ居リマス、彼等ハ兵役ノ義務ニハ割ノ血稅ヲ拂テ居ルノデアリマス、而モ更ニ我國ノ健全ナル思想ノ本源ハ、此農民ニ依テ支持サレテ居ルノデアリマス、然ルニ此農民ガ今ヤ生シテ死シテ居リマス時ニ、若シ此農民ヲシテ死線ヲ超エシムルコトガアリマシテ、ドウシテ國家ノ安全ヲ期スルコトガ出來ルノデアリマス(拍手)私ハ以上論理上ヨリ、又政治家ノ道徳心ニ訴ヘテ、サウシテ國家存立ノ意義ヨリ致シマシテモ、ドウシテモ農民ヲ救フノデナケレバナラヌ、農民ヲ救フニハ斯ノ如キ惡法ニハ斷ジテ反對ヲシナケレバナラヌ、私ハ重ネテ言フ、全農民ノ名ニ於テ本案ニハ絕對ノ反對ヲ表スル者デアリマス(拍手)

○議長(藤澤幾之輔君) 田中養達君

○田中養達君 田中養達君登壇

○田中養達君 我ハ委員長ノ報告ニ賛成スル者デアリマス、大體本案ハ非常ナル重要ナル性質ヲ持テ居リマス、隨テ私ハ眞面目ニ論議シテ見タイと思ヒマス、本案ノ運用ノ結果ハ申スマデモナク米價ニ直接影響シマス、隨テ是ガ生産者デアアル農家ノ生活ニ直接ニ關係シテ居ル問題デアリマス、若シ又米價ガ恐シク暴騰スルト云フヤウナ結果ニナリマスルコト、消費者トシテ多數ノ國民ニモ亦直接ノ影響ガアリマス、隨テ私ハ

五七一

○議長(藤澤幾之輔君) 議長ハ……

〔發言スル者多シ〕

○議長(藤澤幾之輔君) 暫ク御聽キナサイ——議長ハ只今田中君ニ對シテ議事ヲ滑カニ進ムベク注意ヲ與ヘテ置キマシタ、故ニアナタ方ハサウ御喧騒ナサラナイデ、少シノ間靜ニ御聽キ下サランコトヲ希望致シマス(拍手)

○田中義達君(續) 議長ノ御注意ニ依リ簡單ニ結論ニ入りマス、現内閣ハ今回多年虐ゲラレテ居タ小作者ノ保護ノ爲ニ小作法ヲ提案シタ、又労働組合法案ヲ提出シタ、婦人公債案モ提出サレテ居ル、選舉法モ改正致サレント致シテ居ル、是ハ皆農村ノ多數ノ人ニ政治的ノ權力ヲ與ヘ、之ニ依テ總テ兩々相俟テ農村ヲ根本的ニ建直シタイト云フノガ現内閣ノ政策デアリ、趣意デアリマス、先ニ胎中君ハ此米穀法ナルモノハ、即チ傳家ノ寶刀ダト仰シヤッタ、私共ハ此傳家ノ寶刀ヲ徒ニ抜クコトガ國民ノ爲ニ宜シクナイカラ、此法案ヲ拵ヘヨウト云フノデアリマス(拍手)政友會ノ過去ノ歴史カラ考ヘテ、此法案ヲ此儘ニシテ置イタナラバ、マルデ狂人ニ刀物ヲ持タスヤウナモノニナツデシマフノデハナイカト思フ(拍手)ドウゾ本當ニ農村ヲ憂ヘテ、農村ニ同情サルル諸君ハ、此改正案ニ是非共御賛成下サランコトヲ、切ニ懇願致シテ置ク次第デアリマス(拍手)

○議長(藤澤幾之輔君) 東郷實君

〔東郷實君登壇〕

〔發言スル者多シ〕

○議長(藤澤幾之輔君) 靜肅ニ願ヒマス——

靜肅ニ願ヒマス

〔拍手起リ發言スル者多シ〕

○議長(藤澤幾之輔君) 靜肅ニ願ヒマス——

靜肅ニ願ヒマス——靜肅ニ願ヒマス——

○東郷實君 昨ハ只今議題ニナツテ居リマス中ノ米穀需給特別會計法中改正法律案ニハ賛成ヲ致シマシテ、米穀法中改正法律案

ニハ反對致ス者デアリマス、其趣旨ヲ辯明致シマス

〔發言スル者多シ〕

○議長(藤澤幾之輔君) 靜肅ニ願ヒマス

○東郷實君(續) 此二ツノ法律案ヲ其儘考ヘマスレバ、極メテ簡單ナヤウデアリマスケレドモ、食糧問題

〔發言スル者多シ〕

○議長(藤澤幾之輔君) 靜肅ニ願ヒマス

○東郷實君(續) 或ハ人口問題カラ之ヲ考ヘ、又我國ノ農村實情乃至ハ國民經濟ノ全體カラ之ヲ見マスレバ、極メテ重要ナ法案デアリマス、隨テ私ハ此重要法案ニ付テハ、極メテ廣汎ナ範圍ニ於キマシテ、眞面目ニ、熱心ニ論議ヲ盡シテ行クコトガ、眞ニ國家國民ニ忠實ナル所以ナリト考ヘマス(拍手)故ニ私ハ暫ク諸君ノ御許シヲ得マシテ、此重大ナル法案ヲ眞面目ニ靜ニ論議ヲ進メテ行キタイト思フノデアリマス、申上ゲルマデモナク、米穀ハ内地植民地ヲ通ジテ九千萬國民ノ常食ト致ス所ノ重要ナ食糧デアリマス、ソレト同時ニ同ジク内地植民地ヲ通ジ、全國ノ農村悉ク最も普遍的ニ耕作致シテ居ル所ノ、所謂主要作物デアリマス、隨テ米作ノ豐兇並ニ米價ノ騰貴或ハ暴落、是等ハ直ニ單リ農家經濟ニ至大ナル影響ヲ及ボスノミナラズ、國民全體ノ經濟生活ニ至大ナル關係ヲ及ボスコトハ申上ゲルマデモアリマセヌ、而シテ今ヤ我國ニ於ケル各種農產物ノ暴落、殊ニ米價ノ大暴落ハ、サラヌダニ疲弊困憊ノ極ニ達シテ居ル所ノ我國ノ農村農民ニ一大打擊ヲ與ヘテ、所謂農業恐慌ノ時代ヲ出現スルニ至ツタノデアリマス(拍手)而モ今日ノ農業恐慌ノ實情ハ、之ヲ世界ノ農政史上ニ徴スルナラバ、恰モ前世紀ノ末期ニ於テ歐洲各國ヲ襲フ所ノ、農業恐慌其儘ノ面影ヲ彷彿タラシメルモノガアリマス、諸君ノ御承知ノ通り前世紀ノ末期ニ於キマシテ、交通機關ノ完備ニ伴ヒ、亞米利加其他ノ新開國カラ低廉ナル穀物ガ

盛ニ歐羅巴市場ニ流入シテ來タノデアリマスガ、生産費ノ高キ歐洲各國ノ穀物栽培ハ、所謂穀價大慘落ノ爲メ一大打擊ヲ受ケ、所謂農業恐慌ノ時代ヲ出現シタコトハ、今尙ホ吾々ノ記憶ニ新タナル所デアリマス、而モ其際獨逸、或ハ佛蘭西等ノ大陸諸國ハ、保護關稅ノ手段ヲ以テ内國農業ノ保護ニ努メ、或ハ又丁味ノ如キハ自由主義ヲ採リタケレドモ、農業ノ組織ヲ一變シテ、所謂主穀農業カラ主畜農業ニ變ジテ農村ノ活路ヲ開キ、内國農業ノ保全ニ努メタルニ反シテ、英吉利ハ全然自由放任主義ヲ採リ、遂ニ内國農業ヲ犠牲ニ供シタコトハ申スマデモアリマセヌ、斯ノ如ク之ヲ世界ノ農政史上ニ觀テ見マシテモ、農業恐慌ノ現ハレタ場合ニ、其對策如何ニ依ツテ、或ハ其國ノ農業ハ頹廢シ、或ハ其國ノ農村ノ繁榮ヲ極ムルト云フ譯デアリマスカラ、今回ノ我國ニ於ケル農業ノ恐慌時代ニ對シテ、如何ナル方針ヲ執ルカ、此根本ノ方針ガ明確デナイ限り、米穀法ノ根本的ノ改革モ、亦其他有ユル米穀對策ト云フモノハ斷ジテ確立スルコトハ出來ナイノデアリマス(拍手)ソレデアリマスカラ吾々ハ米穀法ノ改正案ヲ論議スルニ當ツテハ、先ツ此根本方針ニ付テ檢討ヲ試ミルコトガ必要ナリト信ズル者デアリマス、我國農村ノ疲弊困憊ノ叫ビハ、決シテ今日ニ始タコトデアリマセヌ、然ルニ今ヤ我國ノ農村ハ疲弊困憊ノ境ヲ越エテ、所謂恐慌時代ニマデ進展致シテ居リマシテ、農民ハ將ニ餓死線上ニ彷徨テ居ルノデアリマス諸君、農村疲弊ノ原因ハ勿論一二ニシテ足リマセヌ、併ナガラ其主因ヲ成ス所ノモノハ所謂明治維新以來我國ノ政治ガ、所謂國家ノ政治的統一ヲ鞏固ナラシメンガ爲ニ、中央集權ノ制度ヲ採用シ、更ニ國富ノ増進ヲ急務ト致シタ結果ト致シマシテ、商工偏重ノ國策ガ盛ニ行ハレタ必然的結果ナリト、私ハ斷ゼザルヲ得ナイノデアリマス、而モ明治、大正六十年間ノ歴史ハ、所謂一

モニモナク西洋模倣ノ物質文化ニ終始一貫シタコトハ、是ハ申上ゲルマデモアリマセヌ、故ニ我國ノ新文化ハ將ニ都會ヲ中心トシタ、所謂本能第一主義ノ物質文化デアリ、更ニ商工業ヲ中心トシタ所ノ黄金萬能ノ物質文化デアリノデアリマス、即チ新日本ノ文化的施設ハ、政治モ産業モ、經濟モ金融モ、教育モ衛生モ、交通モ、悉ク都會ニ厚ク農村ニ薄イ、ソコニ吾等都會發展ノ誇ラ感ズルト同時ニ、農村疲弊ノ悲ミヲ發見シ、ソコニ商工殷盛ノ喜ビヲ有スルト同時ニ、農業停頓ノ惱ミヲ痛感スルモノデアリマス(拍手)故ニ我國今日ノ急務ハ何ヲ差措デモ、先ツ政治上ニ於テハ速ニ地方分權ノ制度ヲ確立シ、地方自治制ノ堅實ナル發達ヲ促シ、更ニ産業上ニ於テハ都會中心、商工偏重ノ弊ヲ一掃シ、農村、農民ヲ中心トシタ所ノ精神文化ニ最善ノ努力ヲ傾倒シナケレバナラスト思フノデアリマス(拍手)

諸君、無論今日ハ經濟日本ノ建直シモ急務デアリマセウ、併シソレヨリモモト急務ヲ要スル所ノモノハ、私ハ精神日本ノ再現デアルト考ヘルノデアリマス、經濟國家ヨリモ精神國家、我が日本ノ國家ガ精神方面ニ更生シナイ限り、今日ノ行詰ラ經濟界及ビ思想界ノ根本的ノ打開ハ私ハ斷ジテ出來ナイモノデアルト、信ズルノデアリマス(拍手)即チ吾々ガ此議場ニ於テ如何ニ政治國難、經濟國難、思想國難ヲ叫ンデ見テモ、如何ニ是等ノ問題ニ關スル決議案ヲ滿場一致可決シテ見タ所デ、ソレハ結局一ツノ空文デアアル、空論タルニ過ギナイト私ハ信ズルノデアリマス、私ハ過日特別委員會ニ於テ……

〔發言スル者アリ〕

○議長(藤澤幾之輔君) 小俣君注意シマス

○東郷實君(續) 幣原代理首相ニ其所見ヲ伺ツタノデアリマスガ、幣原代理首相ハソレハムヅカシイ問題ダカラ、能ク調ベタ上デ返事ヲスルトノコトデアリマシタガ、遂ニ

今日マデ御返事ガナイノデアリマス、併シ私ハ當然デアラウト思フ、如何トナレバ現内閣閣員以來、過去一年何箇月カノ政治ノ跡ヲ見レバ、其政策ハ今尙ホ依然トシテ都會中心、商工偏重ノ時弊ヲ改メヨウトハセズシテ、却テ之ニ油ヲ注シ火ヲ點シ、益々其時弊ヲ擴大セントシツ、アルノデアリマス、即チ我國ノ農村ハ今ヤ疲弊困憊ノ境ヲ越エテ、眞ニ恐慌時代ニマデ進展シタ、其原因ハ全ク現内閣政治ノ當然ノ賜物ナリト、私ハ斷言セザルヲ得ナイノデアリマス

(拍手)一昨年ノ七月現内閣成立スルヤ、直チニ財政經濟ノ根本的建直シヲ行フト稱シテ、昭和四年度ノ成立豫算ニ繰延、節約ヲ試ミタルヲ手始めト致シマシテ、所謂其所信ニ猛進セラレタ、其勇氣ニハ吾々ハ敬意ヲ表スル者デアリマス、併ナガラ其行フ所ノ政策及ビ其結果ハ、不幸ニシテ悉ク吾々國民ノ期待ヲ根本カラ裏切リテ居ルコトヲ、吾々ハ認メザルヲ得ナイノデアリマス、即チ其方法ト時機トヲ誤ラシメ準備ナキ金解禁、極端ナ財政上ノ緊縮政策、更ニ無茶ナ消費節約ノ獎勵、之ヲ斷行シタ結果ハ、日本開國以來、未ダ曾テ見タコトガナイヤウナ一大不景氣ヲ招來シ、驚クベキ失業群ヲ養出セシメ、更ニ諸物價ノ大暴落ニ伴フ國民所得ノ大減退ヲ來サシメ、一部少數者ヲ除クノ外、九千萬國民殆ド悉ク塗炭ノ苦ミニ苦ミ被イテ居ルト云フノガ、今日ノ實情デハアリマセヌカ、即チ之ヲモット具體的ニ説明致シマスナラバ、金解禁ノ結果金ノ値ハ騰タ、併ナガラ物ノ値ガ下ツタ、更ニ緊縮政策、殊ニ非募債主義ノ結果ハ公債ノ値ハ騰タ、同時ニ地方農村ニ對スル諸般ノ施設ハ根コソギニサレテシマッタ、故ニ現内閣ノ緊縮政策及ビ金解禁ノ遂行ハ、ドウ云フ結果ヲ生シタカト云フト、徹頭徹尾都會ヲ中心トシテ地方農村無視ノ政治デアリ、更ニ一部金融資本家及ビ大商工業者ノ利益擁護ニ出資シタ所ノ政策デアツテ、我國國民經濟ノ

眞ノ基調ヲ爲ス所ノ農漁村民、及ビ中小商工業者並ニ勞働者ノ利益ヲ犠牲ニ供シテ顧ミナイト云フ所ノ、片手落ちノ政策デアルト謂ハナケレバナリマセヌ(拍手)更ニ言葉ヲ換ヘテ申シマスルナラバ、強者ニ飽マデモ阿ネリ、弱者ニハ飽マデモ辛ク當ルト云フノガ、現内閣ノ政治ヲ指導スル所ノ根本精神ナリト、私ハ斷言セザルヲ得ナイノデアリマス(拍手)

諸君、斯クテ我國ニハ農業恐慌ノ時代ガ襲來シタノデアリマス、ドウ考ヘテ見マシテモ今日ノ農業ハ儲ケガナイ、儲ケガナイカラ其處ニ農民ノ生活苦ガ出現シタノデアリマス、然ラバ儲カラヌ原因ハ一體何處ニ在ルノデアリマセウカ、之ヲハキリ認識シテ置クニアラズンバ、米穀法ノ問題ハ論議ガ出來ナイノデアリマス(拍手)

曩ニ米其他ノ農產物ガ非常ナ慘落ヲ見ルニ至ルヤ、是ガ救濟運動ガ各方面カラ起リタ際ノコトデアリマスガ、現内閣々僚ノ一人ノ人ハ斯ク申シテ居ラレマス、農民ガ困テ居ルコトハ事實デアラウ、併シ幸ニモ豐作デアツタカラマダ宜イノダ、若シ此財界不況ノ年ニ農產物ガ凶作デアツタトシタナラバドウデアラウ、ソレヲ想ヘバ豐作デアツタ事ハ、不幸中ノ幸トモ觀念スベキモノデハナハ、都市ノ失業者ハ食フベキ物モナイケレドモ、農村ハ少クトモ食フベキ物ヲ持ッテ居ルト云フコトハ幸福デアルト、斯ウ言ハレテ居リマス、諸君、是ハ洵ニ一應御尤ノヤウニ聽エマスケレドモ、私ハ是程農民ニ對シ無理解ナ、サウシテ是程農業ニ對シテ知識ノナイ言論ハ又トアルマイト考ヘルノデアリマス(拍手)

我國ノ農業經營ハ申スマデモナク規模ハ狹小デアリマス、併ナガラ今日ハ所謂自給自足ノ經濟カラ脱シテ、立派ナ營利的農業經營ノ域ニ進シテ居ルノデアリマス、故ニ米作ハ單ニ食フダケノ米ヲ作ルノデハナハ、養蠶ハ單ニ紡イデ著ル爲ニ作ルノデハ

アリマセヌ、ソレ等ノ農產物ヲ賣テ、之ヲ金ニスルノガ目的デアル、即チ今日ノ農業經營ハ、生産費ト販賣價格トノ差額ヲ利潤トシテ儲ケルノガ、其眞ノ目的デアリマス(拍手)故ニ豐作必ズシモ農家ノ利益デハアリマセヌ、昨年ノ米作ハ一割ノ增收ニ對シ、米價ガ四割ノ暴落ヲ來シテ居リマス、農家經濟カラ言ヘバ豐年ドコロデヤナイ、實ニ近年稀ニ見ル所ノ一大凶作ト謂ハナケレバナリマセヌ(拍手)是ニ於テカ或ハ豐作飢饉ト稱シ、或ハ豐年地獄ト稱スルノデアリマス、今ヤ我國三千万ノ農民ハ、豐年地獄ノドン底ニ墮テ居ルコトヲ、吾々ハ明瞭ニ認識シナケレバナラヌノデアリマス(拍手)是ニ於テカ吾々ハ米其他ノ農產物ノ大暴落ノ眞因ヲ究メルノ必要ニ迫ラレテ來タノデアリマス

諸君、現内閣ノ物價政策、其物價政策ノ責任者タル井上大藏大臣ハ、物價下落ノ眞因ニ付テ色々述ベテ居ラレマスガ、物價下落ノ眞因ハ生産過剩ト購買力減退ノ二ツナリト論ジテ居ラレマス、サウシテ我國ニ於テ昨年ノ生絲大暴落ノ原因ハ、我國ニ於ケル生産過剩ト、亞米利加ニ於ケル購買力ノ減退ノ結果デアツテ、其證據ニハ横濱、神戸ニ二十五万捆ノ生絲ガ停滯シテ居ルデハナイカト強辯シテ居ラレマスガ、今日横濱、神戸ニ於ケル二十万捆ノ生絲ハ、井上サンノ仰シヤルヤウナ簡單ナモノデハアリマセヌ、即チ現内閣ガ不當ナル高値ニ生絲ヲ維持センガ爲ニ、補償法ノ發動ヲ爲シ、而シテ二十万捆ノ生絲ヲ藏ノ中ニ藏ヒ込シタ、ソレガ今日二十万捆ノ停滯ノ原因デアリマス(拍手)而モ其爲ニ我國ノ生絲ガ少シモ上ラナイ、大暴落ヲ致シテ、生絲輸出ハ前年ニ比シテ四億ノ損失ヲ來シテ、同時ニソレガ農村ニ影響シテ、昨年御承知ノ繭價ノ暴落ヲ來シタ、即チ前年ニ比シテ約五割四分ノ暴落デアリマシテ、三億五千万ト稱セラレヤウニナツタノデアリマス、是ガ眞相デ

アル、自己ノ政策ノ失敗ヲ棚ニ上ゲテ、罪ヲ一々生産過剩ニ歸スルト云フ井上サン一流ノ筆法ヲ以テスレバ、米價今日ノ慘落ハ、又一ニ豐作ノ罪ニ歸スルコトガ出來ルノデアリマセウ、サウシテ米價ノ釣上ヲ目的トスル米穀法ノ出動ノ如キハ、以テノ外ナリト云フ結論ニ到達スルト私ハ信ズルノデアリマス(拍手)

然ルニ幸ニシテ正直ナル町田農林大臣ハ、過日特別委員會ニ於ケル私ノ質問ニ對シ、農產物下落ノ原因ガ、單ニ豐作ヤ世界の不景氣ノ影響ノミデハナクシテ、現内閣ノ行ハレタ金解禁、緊縮節約ノ政策ノ遂行ノ結果モ、其原因ノ一ヲ成スト云フコトヲ承認告白セラレタノデアリマス(拍手)私ハ此正直ナ告白ニ敬意ヲ表スルノデアリマスガ、ソレト同時ニ、米其他ノ農產物慘落ノ眞因ハ、詰リ現内閣ノ失政ノ結果デアツテ、三千万農民ヲ豐年地獄ノドン底ニ突落シタ其時ノ責任者ハ、現内閣ナリト斷言セザルヲ得ナイノデアリマス、ソレハ兎モ角ト致シマシテ、私ハ更ニ今日ノ農村ノ窮狀ヲ、モウ少シ實際ニ就テ究メテ行カナケレバナリマセヌ、ソレヲ究メナケレバ米價問題ヲ論ズルコトハ出來ナイ

昭和五年ニ於ケル農家收入ノ激減ハ、驚クベキモノガアリマス、吾々ハ農林省ニ其調査ヲ要求致シタノデアリマスガ、農林省ノ吾々ニ示ス所ノ材料ニ依リマスレバ、昭和五年ノ前年ニ比スル所ノ農產收入ノ減少額ハ、實ニ十二億五千万圓ノ巨額ニ達シテ居ルノデアリマス、就中米ガ四億八千万圓、是ガ第一位ヲ占メテ居ル、養蠶ハ三億五千万圓デ第二位ヲ占メテ居リマス、此一事カラ見テモ、如何ニ米ノ問題ガ重大デアルカガ分ル、勿論此十二億五千万圓ノ減收ノ中ニハ、農家自ラノ消費スル生産物モ含マレテ居リマスルカラ、之ヲ差引カナケレバナラヌ、ソレト同時ニ農家收入ハ、農產物以外、或ハ財産收入、或ハ勞働收入、ソレ等

ノモノヲ更ニ加算シナケレバナリマセヌカ
ラ、是等ヲ加算シテ差引シタナラバ、農家
ノ現金収入減ハ、ヤハリ十二億五千萬圓カ
ラ十三億圓内外デアラウト見ルノガ至當
デアリマス、併ナガラ一面ニ於テハ、收入
減ト共ニ農家ノ支出モ、物價低落其他ノ事
情ヨリ大分減ジテ居リマスカラ、之ヲ農家
ノ諸收入カラ差引カナケレバナラス、此調
査ヲ私ハ農林當局ニ要求シテ居リマスルケ
レドモ、未ダ出來マセヌ、出來マセヌカラ
明瞭デアリマセヌケレドモ、吾々ノ同僚
砂田君ノ調査カラ見マシテモ、私ハ差引八
億圓位ノ程度ノモノハ、前年ヨリモ農家ノ
收入ガ減タモノデアルト謂ハナケレバナ
ラヌデアリマス(拍手)而モ租税公課ニ何
等ノ輕減ガナク、一面ニ於テハ巨額ノ負債
ヲ持テ居ル、此有様ヲ吾々ガ願フナラバ、
農家ノ經濟窮迫ノ真相ガ吾々ノ眼前ニ遺憾
ナク展開サレルト云フコトヲ、吾々ハ覺エ
ルノデアリマス、斯ノ如ク農家ノ收入ハ減
ジタガ、然ラバ其負擔ハドウダ、從來ト雖
モ農家ノ負擔ハ過重デアリマス、都市ニ比
較スレバ農村ノ負擔ハ或ハ二倍、或ハ三倍
ナリト稱セラレテ居ル、大正八年ノ調査ニ
依レバ、國民所得ノ百ニ對スル直接税ノ割
合ハ、商工業者ハ一七・七、農業者ノ割合
ハ三四・五ニナテ居リマス、更ニ大藏省ノ
調査ニ依リマシテモ、大正九年ニハ收量百
ニ對シマシテ、租税公課ノ割合ハ農業者ガ
三一・二六、營業者ガ一三・五三、公務業者
ガ五・二七、獨立業者ガ一・〇〇、斯ウ云フ
風ニナテ居ル事實カラ吾々ガ考ヘテ見マ
シテモ、如何ニ農村ノ負擔ガ都市ニ比較シ
テ重イカト云フコトガ分ル、ソレバカリデ
ハアリマセヌ、農村ノ税種ハ收入ノ如何ニ
拘ラズ、税率ノ釘付ケニセラレタモノガ多
イノデアリマスカラ、今回ノ如ク其收入減
ハ、取りモ直サズ負擔ノ著シキ増加ヲ意味
スルモノナリト言ハザルヲ得ナイノデアリ
マス、農林省ガ私達ニ示シタ所ノ資料ニ依

リマスルト、全國四十二箇村ニ就テ調査シ
タ農村ハ公課負擔ハドウナテ居ルカト云
フト、農家一戸ノ負擔額ハ實ニ九十三圓、
一人當リノ負擔ガ十六圓ニナテ居リマス、
而モ就中國稅ハ僅ニ總額ノ一割六分三厘ニ
過ギマセヌ、其殘リノ八割三分七厘ハ、中
ニマデモナク府縣稅、村稅、其他ノ諸負擔
ニ屬シテ居ルノデアリマス、而モ農村ノ負
擔ノ根幹ヲ成ス所ノモノハ、純益課稅ヲ目
標トスル所ノ所得稅ヤ營業收益稅ニアラズ
シテ、實ニ地租、戸數割、家屋稅關係ノ負擔
ガ、總額ノ七割三分二厘ヲ占メテ居リマス
カ、如何ニ農村負擔ガ收入ノ増減ニ拘ラズ、
固定セラレテ居ルカラ明カニ物語テ居ル
ノデアリマス、故ニ物價慘落ト負擔ノ關係
トヲ比較致シマシタナラバ、國民ノ中デ最
モ大ナル打擊ヲ感ズル所ノモノハ、是ハ都
會人ニアラズシテ實ニ農村民其人達デア
ルト云フコトヲ、吾々ハ斷言セザルヲ得ナイ
ノデアリマス(拍手)私ハ此事實ヲ少シバカ
リ説明シテ見タイト思ヒマスガ、兵庫縣農
會ノ調査ニ依リマシレバ、昭和四年ト五年、
其收入ニ對スル公課負擔ノ割合ヲ見マスレ
バ、十町步地主ノ小作米收入ニ對スル租稅
公課負擔ノ割合ガ、前年ノ四割四分三厘カ
ラ八割三分三厘ニ増加致シテ居リマス、米
作地方ノ一町步自作ノ農業純益ニ對スル租
稅公課ヲ考ヘテ見マス、前年ノ二割二分
六厘カラ三割六分三厘ニ増加致シテ居リマ
ス、養蠶地方一町步ノ自作農ヲ比較シテ見
マス、前年ノ二割三分九厘カラ五割六分
九厘ニ増加致シテ居リマス、同ジク小作農
デハ二割三分五厘カラ五割二分一厘、斯ウ
云フコトニナテ居リマス、尙ホ新潟縣ニ就
テ四百町步ノ水田地主ニ付テ調べテ見マス
ト、小作米ガ二千六百石、三万九千圓ノ收
入ニ對シ、公課ハ實ニ四万八千七百六十五
圓餘ニナテ居リマス、差引不足ガ九千七百
六十五圓餘ニナテ居ルノデアリマス、更ニ
鹿兒島縣ノ或ル地方ニ於テ、私ガ調査シタ

所ニ依リマスレバ、小作米二百石取ル所ノ
地主ガ、千二百圓ノ公課ヲ負擔シテ居ル、
一俵六圓トシテ計算シマスレバ餘リ殘リガ
ナイ、即チ小作米ハ地主ノ門前ヲ索通リシ
テ、直チニ稅務署ニ納メラレト同ジヤウ
ナ結果ヲ見テ居リマス、又私ノ友人デ小作
米百石取ル者ニ就テ實際調べテ見マシタガ、
六圓トシテ六百圓、其負擔ガ三百五十圓デ
アリマスカラ、收入ノ五割八分ニナテ居
ル、食、テ行ケナイ、千圓以上ノ借金ヲシ
ナケレバナラヌト斯ウコボシテ居リマス、(拍
手)諸君、是ガ今日ノ地方農村ノ收入ト公課
トヲ比較シタル真相デアリマス、是デモ尙
ホ現内閣諸公ハ、今日ノ農家ニ負擔能力ア
リト御考ニナテ居ルノデアリマス(カ(拍
手)更ニ米ノ問題ヲ吾々ハ考ヘルニハ、ドウ
シテモ農家ノ負債ヲ調ベナケレバナリマセ
ヌ、農家ノ負債ハ農林省ノ調査ニ依リマス
レバ、四十億乃至五十億ナリト稱スルノデ
アリマス、更ニ世間デハ或ハ六十億ナリト
モ稱シマスガ、何レニ致シマシテモ、農家
一戸七八百圓カラ一千圓ノ負擔ト見レバ、
大ナル間違ハナイデアリマセウ、而モ其中
ニハ或ハ高利短期ノ資金ガ多イノデアリマ
ス、而モ生活上ノ必要カラ消費セラル、所
ノ所謂不生産的ノ負債ガ頗ル多イノデアリ
マス、物價低落ノ今日ニ於キマシテハ、其
利拂サヘモ十分デナイ、斯ウ云フ實情デア
ル、借金ヲシテ借金ノ利子ヲ拂ハナケレバ
ナラヌヤウナ實情デアルガ、今日ハ借金モ
出來ナイ、地價ノ暴落——勸業銀行ノ
調査ニ依リマスレバ、前年ニ比シテ昨年
ハ五十四億ノ田畑ノ價格ガ減ジテ居リマ
ス、所謂擔保價值ガ非常ニ少クナッタ、是
デハ土地ヲ持テ居ル人モ借金ガ出來マ
セヌ、昨日北海道ノ農業ニ從事シテ居ル
私ノ友人ガ來テ話シマシタガ、北海道
ノ水田——今日ノ米價デハ立ッテ行ケナイ、
土功組合ノ借金モ返スコトガ出來ナイ、最
後ニ土地ヲ叩イテ引取ッテ呉レト言ッテモ、

引取ッテ呉レル人ガナイ、結局拓銀ガ之ヲ引
受ケルヨリ仕方ガナイダラウガ、サウシタ
ナラバ拓銀ノ前途實ニ寒心スベキモノガア
ルト言ッテ居リマシタガ、是ガ今日ノ地方農
村ニ於ケル實情デアリマス、デアリマスカ
ラ租稅公課ノ負擔ト農家ノ負債、此二ツノ
モノガ今日ノ農村經濟ヲ壓迫スル所ノ、二
大横綱ト稱シテ宜カラウト思ヒマス、即チ
今日ノ農村ノ實情ハ、債鬼前門ニ迫レバ後
門ニ稅鬼之ヲ窺フト云フヤウナ有様デア
リマス(拍手)デアリマスカラ今日ノ農村ノ實
情、公租公課ガ納メラズニ差押ヲ喰ッテ
居ル、或ハ租稅ノ延納、不納ノ團體的運動
モ起ッテ居ル、或ハ借金ノ利拂ガ出來ナイ、
或ハ掛買ヒ金ノ支拂ガ出來ナイ、電燈料ノ
支拂ガ出來ナイト云ッタヤウナ點マデ窮迫
シテ居ル、更ニ進ンデ或ハ地方稅ノ納入ガ
面白クナイ結果、役場ノ吏員デアルトカ、
或ハ小學校教員ノ減俸ヲ盛ニ行フ、甚シキ
ハ俸給不拂ノ爲ニ數箇月間擱シテ、高利貸
カラ高利利子ノ金ヲ借りテ、學校ノ教員達
ガ高利貸カラ強制執行ヲ受ケルト云、タ
ヤウナ、洵ニ悲慘ナ現狀ガ日本全國到處
ニ頻々トシテ起ッテ居ルデアリマセヌカ、
斯ノ如キコトハ實ニ國家ノ將來ノ爲ニ憂フ
ベキコトデアルト思フ、此農產物ノ慘落ノ
結果農家ノ收入ガ減ジタ場合ニ、彼等ノ養
望ノ的ニナテ居ル所ノモノハ何デアッタ
カト云フト、小學校ノ先生デアル、然ルニ
今ヤ租稅納入恩ハシタナイ爲ニ、是等ノ小
學校ノ先生ノ俸給モ支拂フコトガ出來ナ
イ、是ガ減俸ヲ行フト云フコトニナテ居
ル、ソコデ地方ニ於ケル農民及是等ノ俸給
生活者ガ養望ノ中心トナテ居ル所ハ何處
デアル、地方ニ散在シテ居ル所謂國庫支辨
ノ官吏達デアリマス、是等ノ人達ガ地方農
村ニ於テ非常ニ餘裕ノアル生活ヲシテ居ル
ト云フコトガ、今日ハ農民——農村ニ於ケ
ル總テノ人ノ養望ノ中心ニナテ居ル、吾々
ハ立憲政治ノ要諦ハ國民所得ノ公平ヲ期ス

ルコトダト信シマス、地方農村ニ於ケル此不堅實ナル實情ハ、總テハ國民思想ノ堅實性ヲ根本的ニ破壞スベキモノデアラウト考ヘル、弱キ者ノ惱ミ、ソレガ現内閣諸公ノ眼ニハ映ジナイノデアリマス、ソレトモ是ガ映シテモ知ラヌ額ヲシテ居ルノデアリマスカ(拍手)或ハ與黨諸君ニハ、國民負擔ノ輕減ニ關スル、アノ全國町村長達ノ悲痛ナル叫ビガ聴エナイノデアリマス、諸君ハ地方自治制ノ危機ニ瀕シツ、アル今日ノ農村ノ實情ヲ、何ト御考ニナルカ知レマセヌガ、吾々ハ此根本原因ガ主トシテ米穀政策ノアルト云フコトヲ思フ時、特ニ米穀政策ノ重大サヲ感知セザルヲ得ナイノデアリマス(拍手)内閣ノ諸公ハ是デモ農村生活ニ餘裕ガアルト御考ニナリマス、今日ノ農村ハ地主モ、自作モ、小作人モ、共ニ例外ナク總テ働ケル失業者デアリマス、働ケバ働ク程損ヲスルト云フノガ、今日ノ農村ノ實情デアアル、働ケド働ケド吾方暮シ樂ニナラザリデット手ヲ見ルト云々、啄木ノ歌其儘ガ、今日ノ農村ノ生活其儘デアルト云フコトヲ言ハナケレバナラス(拍手)汗ミドロニナリ、泥ミレニナテ働イテ見タ所デ、何等儲ケガナイ、泥ダラケ、豆ダラケノ手ヲデット見ナガラ、自暴自棄ニ陥リツ、アル所ノ、今日ノ地方農村ノアノ農民生活ヲ、吾々ガ明瞭ニ認識スルニアラズンバ、米穀政策ノ根本ハ到底樹立スルコトガ出來ナイノデアリマス(拍手)而モ是等ノ窮迫ニ對シテ現内閣ガ、然ラバ如何ナル應急對策ヲ執テ居ラレカ、私ハ現内閣ノ今日ノ農村對策ハ、一ニ低利資金ノ融通ニ盡キテ居ルト思ヒマス、低利資金ノ融通、併ナガラ其實績ハ、現内閣ガ聲ヲ大ニシテ宣傳サル、ニ拘ラズ、洵ニ成績不良ナルコトヲ農村ノ爲ニ悲シムノデアリマス(拍手)現内閣ガ特ニ農村救済ノ意味ヲ融通セラレタ所ノ資金ノ中デ、最も主ナルモノハ米穀應急資金ノ三千萬圓、失業救済、農村、漁村對策ノ資金

七千萬圓、合計一億圓デアリマス、此中デ米穀應急資金三千萬圓ハ、目下進行中デアツテ、其成績ハ未ダ見ルベキモノガアリマセヌ、是ハ特別委員會ニ於テ吾々ガ農林當局ニ質シタガ、殆ド成績ノ見ルベキモノガマダ現ハレテ居リマセヌ、デスカラ此處ニハ私ハ後ノ方ノ七千萬圓ノ失業救済資金ニ付テ、少シバカリ批判ヲ試ミテ見タイト思ヒマス

此失業救済資金ハ其趣意書ニ依ツテモ、多ク國家ノ負擔ニ依賴セズシテ實現シ得ルヲ途ヲ拓クニ努メタリト書イテアルガ如キ、實ニ驚クベキモノデアリマス、町村及ビ農民個人ニ低利資金ヲ融通シ、現内閣失政ノ結果續出シタ所ノ失業者救済ノ途ヲ講ゼントスルモノデアツテ、謂ハ、政府自ラ製造シタ所ノ失業者ヲ、自ラ救済スルニアラズシテ、農民ニ借金ヲセシメ、是ガ救済ノ重任ヲ果サシメントスルノガ、此七千萬圓ノ根本目的デアリマス、是程農民ニ對シテ不親切ナル政策ガ又トアリマセウカ、是程農民ノ好イ政策ガ又ト世ノ中ニアルデアリマセウカ、ソレバカリデハアリマセヌ、此政策ハ單ニ農村ニ於ケル剩餘能力ヲ動員スルノミナラズ、都市ニ於ケル失業者ノ歸農ヲ容易ナラシメ、之ヲモ救済スルノガ其目的デアリマ

持チ來スベキ基礎的施設デアツテ、直チニ右カラ左ニ農家ノ收入ヲ招來シ得ベキ何物モ其處ニナイノデアリマス(拍手)今日ノ農村ハ既ニ背負ヒ切レナイ程ノ借金ニ悩ミ切ツテ居ルデアリマス、然ルニ此上更ニ借金ヲ獎勵スルトハ何事デアリマセウカ、ソレバカリデハナイ、租税公課ノ負擔過重ニ弱リ切ツテ居ルノガ、今日ノ農村デハアリマセヌカ、今日ノ農村ハ新ニ借金ヲシテ、而シテ事業ヲ起シ、生産ヲ將來ニ招來スルガ如キ事ヲ爲ス餘地ハナイ、今日ハ借金ヲ少シデモ減ラシ、負擔ヲ少シデモ少ナクシテ行タト云フノガ、今日ノ農村對策ノ根本デナケレバナラスト私ハ信ズルノデアリマス、農村農民自ラノ負擔ニ依ツテ都市ニ於ケル失業者ノ歸農ノ便ヲ圖リ、之ニ職ヲ與ヘ、サラダダニ人口過剰ニ悩ンデ居ル農村ノ人口ヲ増シ、農業經營ノ利益ヲ減退セシメントスルガ如キハ、實ニ拙策ノ甚シキモノナリト斷定セザルヲ得ナイノデアアル、而モ其貸出ニ對スル手續等モ面倒ニシテ、何等應急對策ヲ趣旨ニ適ハザルコトハ、是ハ過日當ノ委員會ニ於テ、我黨ノ胎中君ト政府當局トノ質問應答ニ依ツテ明カデアリマス、當局ノ怠慢ニ依リ、本計畫發表以來既ニ半年ニナルケレドモ、何等進捗ヲ見ルコトガ出來ナイ、唯今日ニ於テ僅ニ二百萬圓ノ貸付ヲ了シタト云フニ過ギナイコトハ、委員會ノ質問應答ニ於テ明カデアリマス、之ヲ政府當局ハ何ト辯明ナサルノデアリマスカ、失業救済ノ最も必要ナノハ農閑期デアリマス、其農閑期ハ怠慢爲スナキ政府ノ其態度ニ御構ヒナク、政府ヲ置イテキボリニシテ、サツサト行キ過ギツ、アルノガ今日ノ狀態デアリマス、本計畫發表ノ當初聲ヲ大ニシテ叫バレタ失業救済ノ數字の説明ヲ、町田農林大臣ハ何ト始末ヲナサル積リデアリマス、斯ノ如ク現内閣ノ農村對策ハ、低利資金ニ最も重キヲ置イテ居ルノデアリマスガ、其低利資金融通ノ實績ガ斯ノ

如キモノデアリマス、然ルニ井上藏大臣大ハ豫算總會ニ於テ、吾々ノ同僚砂田君ノ質問ニ對シテ、農民ガ疲弊困憊シテ居ルコトモ十分承知シテ居ル、ダカラ政府トシテハ是ダケノ處置ヲシテ居ルノデアアル、是デ十分デアリマス、是レ以上ハ議論デアリマスト申シテ居リマス、農村救済施設ノ十分ナルコトヲ述ベテ、更ニアナタ方ハ色々議論ヲサレテ居ルケレドモ、是マデ農村ナリ、總テガ自覺ガ足ラズ、放漫ナル考ヲ持ツテ居タカラ、今日ノ狀態ニナツタト稱シテ、農村今日ノ行詰リハ農民ノ無自覺ト放漫トニ歸シテ、自己ノ政策ノ失敗ノ跡ヲ掩ハン

トシテ居ルノデアアル(拍手)斯ノ如ク農村ニ理解ナク、斯ノ如ク農民ニ同情ナキ言論ト云フモノハ、吾々ハ未ダ會ツテ聽イタコトハアリマセヌ(拍手)更ニ井上藏大臣ハ今日ハ整理スベキ時代デアル云々ト高唱サレテ居リマスガ、果シテ今日ノ行詰リタ農民生活ニ整理ノ餘地ガアリマセウカ、現内閣ガ盛ニ唱道セラル、所ノ産業ノ合理化、是ハ或ハ工業ノ工場ニハ之ヲ行フノ餘地ガアリマセウ、或ハ原料ノ廉價購入、或ハ操短、解雇、勞銀ノ引下等、其餘地ハ極メテ大ナルモノガアリマセウ、併シ今日ノ農業經營ニ整理スベキ何物ガ殘サレテ居リマセウ、生産費ノ低下ヲ圖ルト云フニハ、肥料ノ廉價購入ノ外ニ途ガナイ、然ルニ依商工大臣ハ過日特別委員會ニ於テ、確安ノ不當廉價ノ課稅ヲ行ヒ、而シテ今日六十圓デ農家ノ手ニ入ツテ居ル確安ノ價格ヲ引上ゲル意思ヲ持ツテ居ルコトヲ聲明サレテ居ルデハアリマセヌカ、是デ農村ニ親切ナル政治ト言ヘマセウカ、更ニ農業經營ニハ操短ナドト云フヤウナ、工場デ用ユル手段ハ絕對アリマセヌ、努力ガ餘ルカラト云ツテ、雇傭人ナラザル家族ヲドウスルコトモ出來ナイ、斯ク論ジ來レバ、農村ノ救済ノ方策トシテハ、一面ニ於テハ負擔ノ輕減ヲ圖リ、負債ノ整理ニ全力ヲ盡スト云フコトト、同時ニ

如キモノデアリマス、然ルニ井上藏大臣大ハ豫算總會ニ於テ、吾々ノ同僚砂田君ノ質問ニ對シテ、農民ガ疲弊困憊シテ居ルコトモ十分承知シテ居ル、ダカラ政府トシテハ是ダケノ處置ヲシテ居ルノデアアル、是デ十分デアリマス、是レ以上ハ議論デアリマスト申シテ居リマス、農村救済施設ノ十分ナルコトヲ述ベテ、更ニアナタ方ハ色々議論ヲサレテ居ルケレドモ、是マデ農村ナリ、總テガ自覺ガ足ラズ、放漫ナル考ヲ持ツテ居タカラ、今日ノ狀態ニナツタト稱シテ、農村今日ノ行詰リハ農民ノ無自覺ト放漫トニ歸シテ、自己ノ政策ノ失敗ノ跡ヲ掩ハン

トシテ居ルノデアアル(拍手)斯ノ如ク農村ニ理解ナク、斯ノ如ク農民ニ同情ナキ言論ト云フモノハ、吾々ハ未ダ會ツテ聽イタコトハアリマセヌ(拍手)更ニ井上藏大臣ハ今日ハ整理スベキ時代デアル云々ト高唱サレテ居リマスガ、果シテ今日ノ行詰リタ農民生活ニ整理ノ餘地ガアリマセウカ、現内閣ガ盛ニ唱道セラル、所ノ産業ノ合理化、是ハ或ハ工業ノ工場ニハ之ヲ行フノ餘地ガアリマセウ、或ハ原料ノ廉價購入、或ハ操短、解雇、勞銀ノ引下等、其餘地ハ極メテ大ナルモノガアリマセウ、併シ今日ノ農業經營ニ整理スベキ何物ガ殘サレテ居リマセウ、生産費ノ低下ヲ圖ルト云フニハ、肥料ノ廉價購入ノ外ニ途ガナイ、然ルニ依商工大臣ハ過日特別委員會ニ於テ、確安ノ不當廉價ノ課稅ヲ行ヒ、而シテ今日六十圓デ農家ノ手ニ入ツテ居ル確安ノ價格ヲ引上ゲル意思ヲ持ツテ居ルコトヲ聲明サレテ居ルデハアリマセヌカ、是デ農村ニ親切ナル政治ト言ヘマセウカ、更ニ農業經營ニハ操短ナドト云フヤウナ、工場デ用ユル手段ハ絕對アリマセヌ、努力ガ餘ルカラト云ツテ、雇傭人ナラザル家族ヲドウスルコトモ出來ナイ、斯ク論ジ來レバ、農村ノ救済ノ方策トシテハ、一面ニ於テハ負擔ノ輕減ヲ圖リ、負債ノ整理ニ全力ヲ盡スト云フコトト、同時ニ

農産物價格ノ不當ナル引下ヲ防止スル所ノ適當ナル方策ヲ講ジナケレバナラス(拍手)此三ツノ策ヨリ外途ガアリマセヌ、即チ吾等今迄農村ノ窮狀ヲ詳ニ考究シテ來タ所ノモノハ、此基礎ガハッキリシナケレバ、吾等ノ所謂米穀政策ニ對スル本當ノ審議ノ基礎ガナイカラデアリマス、私ハ斯ル意味ニ於テ、米穀法ノ改正法案ニ對スル檢討ヲ少し試ミテ見タイト思フノデアリマス(拍手)私ハ我國ノ食糧政策ハ國ノ存立ヲ鞏固ニシ、吾等國民ノ生活ヲ安固ニスル爲ニハ、ドウシテモ自產自給ヲ以テ其根本方針トシナケレバナラスト確信スルモノデアリマス、而シテ此目的ヲ達スル爲ニハ、何ヲ差措イテモ先ヅ内地ニ於テ吾等ノ必要トスル吾等ノ食糧ヲ、生産スルト云フコトデアアル、所謂米ヲ内地ニ於テ出來ルダケ生産スル、ソレデモドウシテモ足ラナイ場合ニ、其足ラザル所ヲ植民地ニ仰ギ、尙ホソレデモ不足スル場合若クハ或ル特別目的ニ供スル爲ニ外國米ヲ輸入スルト云フコトガ、是ガ順序ナリト信ズル、此點ニ付テ私ハ過日特別委員會ニ於テ幣原臨時代理ニ御致シマシタガ、幣原總理大臣代理モ其通りデアルト言明セラレマシタカラ、現内閣ノ食糧ニ對スル根本方策モ茲ニ在ルコトハ明瞭デアアルデアリマス、此點ガ明カニナタトスルナラバ、即チ我國ノ食糧政策ハ自由放任主義デナクシテ、國家ノ權能ヲ以テ是ガ數量及ビ市價ノ調節ヲスルト云フ、人爲的調節ノ主義デナケレバナラス、是ガ根本方針デナケレバナラス、此根本方針ヲ吾等ハ明瞭ニ認識シテ置カナケレバナリマセヌ、大正十年ニ米穀法ガ發布サレタト云フノモ、要スルニ此趣旨ニ外ナラナイ、然ルニ其後内外ノ事情ガ變化シテ來テ、一昨年五十六議會ニ於テ、田中内閣ガ所謂特別會計法ヲ改正シテ七千万圓ノ増額ヲ試ミタ、其場合ノ三土大藏大臣ノ提案ノ理由ヲ見マシテモ、又民政黨ヲ代表シテ贊成演說ヲサレタ田中

隆三氏ノ演說筆記ヲ見マシテモ、又アノ際町田安達兩氏ガ非公式ニ野黨ヲ代表シテ、田中内閣ノ當路者ト懇談サレタ其真相ヲ聽イテ見マシテモ、又アノ法案ニ附帶決議ヲ附シテ貴族院ニ於テ攻撃サレタ、其附帶決議ノ精神ヲ見デミマシテモ、今日此米穀法運用ノ上ニ於テハ、大ナル根本的改正ヲシナケレバナラス、デナケレバ眞ノ目的ヲ達スルコトハ出來ナイト云フ趣旨ニ依ッテ、アノ七千万圓ハ所謂應急の意味ニ於テ貴族院兩院ヲ通過致シタノデアリマス、此趣旨ニ依ッテ米穀調查會ガ出來タ、所謂田中内閣ニ於テ米穀調查會ガ設置サレタ、一昨年ノ六月十三日ニ初メテ總會ガ開カレタ、其總會ニ於テ田中總理大臣ノ挨拶セラレタ其要旨カラ見マシテモ、米穀法調查會ノ設置サレタ當時トハ事情ガ違ッテ來タ、臺灣朝鮮ノ米ノ問題、或ハ外國米ノ問題、是等ノ適切ニ解決スルニハ、根本ノ調査研究ヲシナケレバナラス、更ニ七千万圓ノ資金ヲ増額シタノモ、是ハ應急策デアッテ、根本ノ調査ヲシテ米穀政策ノ動カザル所ノ基礎ヲ作ラナケレバナラスト云フ趣旨ヲ以テ、米穀調查會ヲ組織スルト、斯ウ言ハレテ居ル、其後内閣ガ選ッテ濱口内閣ガ出來タ、九月ノ十三日ニ現内閣ノ手ニ依ッテ米穀調查會ガ新シク召集セラレタ場合、濱口總理大臣ノ演說モ同様ノ趣旨デアリマス、而シテソレニ依ッテ米穀調查會ノ審議ガ進ンデ、所謂諮問第一號ナルモノガ提案サレタ「米穀ノ需給及價格ノ調節ニ關シ執ルベキ方策如何」ト云フ、諮問第一號ガ、米穀調查會ニ諮問ニナタリマス、即チ根本的ノ米穀方策ヲ調査研究スルト云フノガ、米穀調查會ノ本當ノ趣旨デアアル、是ハ前内閣モ現内閣モ、此趣旨ニ於テハ何等變リ所ガナイノデアリマス、ソコデ此調査會ニ於テ慎重ニ調査研究ヲシタ結果、此諮問第一號ニ對スル答申案ガ提出サレタ、其答申案ハ五ツノ項目カラ成ッテ

居リマス
第一ガ米價基準ヲ設立スルハ緊要ナリト認ム仍テ政府ハ速ニ米穀法ノ發動ニ必要ナル米價ノ最高最低基準ヲ調査決定スヘシ
第二、農業倉庫ヲ獎勵シ之ニ低利資金ヲ融通スルコト
第三、内地ニ移出スル朝鮮米ノ數量ヲ月別平均的ニ調節スル爲速ニ朝鮮總督府ニ於テ適當ナル方策ヲ樹立スヘシ
第四、外國米輸入許可制度ヲ設ケ一定數量ノ輸入ヲ許可シ同時ニ輸出ヲモ許可ヲ受ケシムルコトトシ外國米輸入ノ管理統制ヲ圖ルヘシ
第五、從來ノ米穀需給調節特別會計ノ損失ヲ一般會計ニ移スコト
此五ツノ項目カラ成ル所ノ答申案ガ出來タノデアリマス、即チ現内閣ハ此答申案ニ基イテ慎重審議セラレタ結果、今回ノ米穀法ノ改正法案ヲ御提出ニナタト思ヒマスガ、吾等カラ之ヲ見レバ、此答申案其物サヘ私ハ根本的ノ米穀政策ヲ講ズル上ニ於テハ、大ナル不足ガアルト考ヘル、然ルニ現内閣ガ之ニ依ッテヤレタ所ノ米穀對策ノ跡ヲ考ヘテ見ルト、此答申案ノ内容ニモ隨分弱コトトシ出來ナイヤウナ姑息ノ改正デアッタコトヲ、私ハ遺憾ニ考ヘルノデアリマス(拍手)

私ハ是カラ極メテ簡單ニ其主張ヲ明カニシテ行キタイト思ヒマスガ、所謂此中デ最も大切ナコトハ「從來ノ米穀需給調節特別會計ノ損失ヲ一般會計ニ移スコト」ト云フ其說明ニ「米穀需給調節特別會計ノ過去ノ損失ハ今更自ラ償却スルニ由ナシ、仍テ米穀法改正ノ際之ヲ一般會計ニ移スベシ」ト答申致シテ居リマス、デスカラ答申ノ趣旨カラ言ヘバ、米穀法ヲ改正スル場合ニハ、是ト同時ニ今日ノ特別會計ノ損失ニナッテ居ル所ノ一億五千万圓ヲ一般會計ニ移シテ、之ヲ處分シナケレバナラス、之ヲ熱烈ニ要求シテ居ル、一昨年ノ七千万圓増額ノ場合ノ貴族兩院ノ懸望ナル所モ是ニアッタ、然ルニ現内閣ハ此重要ナル所ノ趣旨ニ對シテ、何等實現サレテ居リマセヌ、吾等ハ之ヲ特別委員會ニ於テ町田井上兩大臣ニ御致シタノデアリマスガ、其通り必要デアルケレドモ、財政ノ現狀カラハ如何トモスルコトガ出來ナイ、町田農林大臣ハ一兩年ヲ期シテ交付公債ヲ以テ之ヲ始末スル所ノ決心デアルト稱セラレテ居ル、井上大藏大臣ハ之ヲ始末シナケレバナラスガ、之ヲ始末スルニハ一千万圓位ノ恆久財源ヲ必要トスルカラ、其目安ガ付カナイ以上ハ茲ニ斷言出來ナイ、何トカスル積リデアアル、將來ハ何トカスル積リデアアル、斯ウ仰セラレテ居リマス、私ハ此一億五千万圓ノ損失ト云フモノハ、謂ハハ是ハ一ツノ國民ノ痛ダト思ヒマス、此痛ヲ適當ニ根本的ニ處理シナイデ、如何ニ特別會計ノ資金ヲ増額致シテモ、永久ニ此痛ハ取去ルコトガ出來ナイ、故ニ眞ノ名醫ガアッタナラバ、此痛ニ銳キ「メス」ヲ加ヘテ根本カラ之ヲ治療シ、然ル後ニ資金ノ増額ニ進マナケレバナラスト思フ、然ルニ之ヲヤラナイ、ヤラナイデ八千万圓今度殖ヤスコトニナルノデスガ、是デハ痛ヲ其儘ニシテ絆創膏カ何カラ貼ッテ胡麻化シテ居ルト云フヤウナ、醫者デナケレバシナイヤウナ姑息ナ政策デアルト私ハ思フ(拍手)殊ニ町田農林大臣ハ「二年ヲ期シテ必ズ實現シタイト言ハレマスケレドモ、我國ノ内閣ノ平均壽命ハ一年八箇月デアリマス、此事ヲ考ヘテ見タ時分ニ、一年二年ノ先ガ果シテドウナルカ、吾等ハ豫斷ガ出來ナイノデアリマス、斯ノ如ク吾等ハ此根本ノ問題ヲ解決シナイト云フコトヲ甚ダ遺憾ニ思ヒマスガ、併ナガラ現内閣ノ財政政策ノ根本カラ申シマスレバ、私ハ出來ナイト思フ、出來ナイカラ已ムヲ得ナイトシテ、吾等ハ米穀法ノ存続スル限り資金ヲ必要トシマスカラ、八千万圓ノ増額ニハ所謂一昨

年民政黨ノ諸君ガ賛成セラレタト同様ノ意
味ニ於テ、應急ノ對策トシテ之ニ賛意ヲ表
スル者デアリマス

更ニ第二ノ問題ハ、農業倉庫ヲ獎勵シ、
之ニ低利資金ヲ融通スルコト云フ問題、是ハ
私ハ最も必要ナル調査會ノ答申デアリト思
ヒマス、農民ガ自ラノ經濟的施設ニ依テ、
出來秋ニ於ケル市場殺到ヲ防グト云フコト
ハ、内地ニ於ケル米價ノ維持ニ最も大切ナ
ル方策デアリト云フナラバ、政府ハ此經濟
的施設ニ付テ根本的ノ計畫ヲ立テ、御盡力
ニナラナケレバナラヌノデアリマスケレド
モ、之ニ付テ特ニ當時的ノ御計畫ガナイノ
デアリマス、是モ現内閣ノ財政方針カラ言
ヘバ、無論之ヲ望ムハ不可能デアリマセウ、
唯今日ノ對策ニ對スル應急手段トシテ、先
程申シマシヤウニ、三千万圓ノ低利資金
ヲ融通シテ、四百六十萬石ノ穀ヲ端境期ヲ
乘越シテ、翌年度マデ貯藏セシムルコト云フ
コトヲ御計畫ニナシテ居ル、盛ニ之ヲ御唱導
ニナシテ居リマスガ、是モ委員會ニ於テ吾々
ガ確メルト、四百六十萬石ノ穀貯藏ハ、是
ハ豫定數デアリテ、今日ノ所デハ甚ダ不成績
デアリト云フコトガ明瞭ニナシタノデアリ
マス、此外ニ低利資金以外ノ方法ヲ以テ、
尙ホ五百六十萬石位ノ穀ヲ貯藏サレルト云
フカラ、彼此レ一千万石ノ穀貯藏ヲ農家ニ
サセルト云フ應急手段ヲ執ッテ居ラレマス
ケレドモ、先程言フヤウニ、根本的ノ此對
策ニ付テハ尙ホ何等ノ計畫ガアリマセヌ、
此點ニ付テモ吾々ハ此答申第二項ニ對スル
現内閣ノヤッテ居ラレコトハ、洵ニ姑息デ
アレ、委員會ノ答申ノ趣旨ニ合ハナイモノ
デアリト云フコトヲ、茲ニ斷言セザルヲ得
ナイノデアリマス

其次ハ「内地ニ移出スル朝鮮米ノ數量ヲ
月別平均的ニ調節スル爲メ速ニ朝鮮總督府
ニ於テ適當ナル方策ヲ樹立スベシ」是ガ重
大ナル問題デアリ、今日内地ノ米價ヲ出來
秋ニ於テ、殊ニ支配スル所ノモノハ朝鮮米

デアリ、生産費ノ安イ、價格ノ安イ朝鮮米
ガ内地ニ盛ニ出來秋ニ流入シテ來ルト云フ
コトガ、今日ノ内地ノ米價ニ大ナル壓迫ヲ
與ヘルト云フナラバ、之ニ對シテ何等カノ
統制ヲシナケレバナラヌ、是ガ米穀調査會
ニ於テ最も重キ置イタ問題ノ一ツデアリ
マス、之ニ對シテ政府當局ガ、月別平均ニ
調節スル爲メ適當ナル施設ヲスルコト云フ言

明ガアツタ爲メ、斯ノ如キ答申ガ出來マシタ
ガ、然ラバ之ニ依テ政府當局ハ如何ナル
施設ヲ致シタカ、出來秋ニ於ケル内地移入
ノ殺到ヲ防グ爲メ、低利資金ヲ融通シテ農
業倉庫ヲ造ル、ソレハ昭和五年カラ五箇年
ヲ期シテ百萬石ノ玄米ヲ貯藏スベキ倉庫、
ソレガ濟ムト更ニ第二次計畫トシテ百五十
萬石ヲ包容スベキ倉庫ヲ造ルト云フ、所謂
十五箇年計畫ト申シマスガ、十五箇年目ニ
僅ニ二百五十萬石ノ米ヲ貯藏スルコト云フヤ
ウナ農業倉庫ヲ、今日計畫シテ居ラレ、政
府ハ之ヲ完全ナリト思フヤト私ハ質問致シ
タガ、完全ト思ハヌガ、今日ノ財政狀態デ
ハ是レ以上ニハ出來ナイト、拓務大臣ハ明
瞭ニ答辯サレタノデアリマスガ、是デ果シ
テ所期ノ目的ヲ達シ得ルカ、吾々ハ甚ダ疑
問デアリマス、殊ニ今年ハ内地米豐作ト同
時ニ朝鮮米大豐作デアリマス、ソレ故ニ政
府ノ示サレタル所ノ、内地ニ於ケル米穀需
給ノ六年度ニ於ケル豫定表ヲ見マスルト、
朝鮮カラ八百萬石ノ移入ガアルコトニ豫定
サレテ居リマス、吾々ハ茲ニ朝鮮カラ八百
萬石ノ米ガ入ルコトガ、善イトカ惡イトカ
云フヤウナコトヲ論議スル積リヂヤアリマ
セヌ、併ナガラ既ニ政府ガ色々ノ方法ヲ講
ジ、又臨時的ニ低利資金千八百萬圓ヲ融
通シテ、盛ニ御苦心ニナシテ居ル、其御苦心ハ
同情致シマスガ、ソレデモ既ニ本年ハ、昨
年ノ十一月ヨリ本年二月下旬ニ至ルマデノ
移入米ハ、昨晩ノ夕刊ニ載シテ居ル所ノ此數
字ガ間違ナイトスルナラバ、前年ニ比シテ
四十一萬九千石モ多ク移入サレテ居ルト云

フ事實ガアルノデアリマス、即チ今日ト雖
モ朝鮮ノ米ガ内地ノ市場ヲ壓迫スルコト云フ
コトハ明瞭デアリ、ノミナラズ八百萬石ヲ
豫定シテ居ルト云フナラバ、今日マデ移入
シタモノヲ差引イテモ、今後尙ホ四百七十
萬石ハ本年度ニ移入スルコトニナル、月別
ニスレバ今後五十八萬七千五百石、是ダケ
ノモノガ月別平均ニ入ッテ來ルコトニナル、
未ダ會テナイ大キイ數量デアリマスガ、是
ガ今後内地市場ヲ壓迫スルコト云フコトハ當
然デアリト思ヒマス(拍手)即チ現内閣ハ三
千萬圓ノ低利資金ヲ融通シテ、サウシテ四
百六十萬石ノ穀ヲ貯藏スル、其他色々他ノ
方法デ、是ヨリ以上ノ穀ヲ貯藏シテ、一
千萬石ノ穀、所謂五百萬石ノ玄米ヲ、或ハ
端境期マデ持越ス、ソレマデデナクトモ、是
カラ貯藏シテ置イテ、遽ニ賣出サセナイト
云フ方法ヲ採ッテ居ラレ、約八百萬石
ニ達シマス、是ガ度ノ程度マデ實現スルカ
知ラヌガ、内地ニ於テ八百萬石ノ米ヲ貯藏
シテ置キナガラ、朝鮮カラ八百萬石ノ米ガ
入ッテ來ル、其善惡ヲ私ハ論ズル者デハナイ
ガ、實際問題ヲ言ヘバ、其爲メ内地ノ市場
ガ今後モ壓迫ヲ受ケルト云フコトハ、是ハ
當然ノコトデアリマス(拍手)即チ生産費ノ
安イ、サウシテ價格ノ安イ朝鮮米ガ内地ニ
入ッテ來テ、茲ニ内地ノ市場ヲ壓迫スルコト
云フナラバ、之ニ對シテモ徹底底底ノ方法
ヲ講ズルト云フコトガ、私ハ日本ノ全體ノ
米穀政策ノ上カラ言フテ、當然シナケレバナ
ラヌ事デアリト考ヘルノデアリマス(拍手)
私ハ敢テ、朝鮮米ヲ特別ニドウトカシヨウ
ト云フ意味モ毛頭持ッテ居リマセヌ、私ハ内
地ノ農民ノ爲メ、特ニ朝鮮米ノ犧牲ニ供シヨ
ウトハ思ハナイ、ソレト同時ニ内地ノ農民
ヲ、朝鮮ノ爲メ犧牲ニ供スルコト云フコトモ
イケナイ

茲ニ吾々ハ、モット徹底シタ所ノ米穀政策
ガ我國ニ生レナケレバナラヌト思フ、即チ
今日ハ單ニ生産ハ自由デアリ、而シテ移入
モ自由デアリガ、唯出來秋ニ一時ニ來テハ
イカヌカラ、是ハ月別平均デアル方法ニシ
ナケレバナラヌト云フヤウナ、ソレダケノ
モノデ、私ハ此重大問題ハ解決ハ出來ナイ
ト思フ(拍手)即チ此重大問題ヲ解決スルハ、
内地植民地ヲ打ッテ一丸トシタ所ノ、大ナル
米穀ノ根本方策ガ立タナケレバナラヌ管デ
アリマス(拍手)ソレニ對シテ私ハ、拓務大
臣其他ニ御尋シタケレドモ、今日ニ於テハ
何等ノ根本方策ハ立ッテ居ナイ、農林大臣モ
其點ニ於テハ何等御考ニナシテ居リマセヌ
斯ウ考ヘレバ、私ハ今同ノ政府ノ御提案
ニナシテ居ル米穀法ノ改正ノ如キハ、尙ホ
尙ホ吾々ノ要求スル根本問題ニ觸レザルコ
ト遠シト謂ハナケレバナラヌノデアリマス
(拍手)唯殘リノ二ツ、即チ外米ノ輸入ニ關
スル制度、是ハ今回ノ改正法律案ニ御提案
ニナシテ居リマス、吾々ノ答申シタモノト多
少違ヒマスケレドモ、要スルニ當時的ノ外
米ノ輸入輸出ニ付テノ許可ノ制度ヲ採ラレ
タ、併ナガラ是ハ現在ノ法律デモ第二條ニ
依ッテ出來ルノデアリ、唯今回ハ、其出來
ル事ヲ當時的ニ法律ノ上ニ明カニシタト云
フダケデアリマシテ、實質ニ於テハ私ハ大
ナル變化ハナイト思フ、便利デハアルカモ
知ラヌケレドモ、大ナル變化ハナイ、殊ニ
條約ノ關係カラ、此法律ノ適用ヲ受ケナイ
モノノアル、此際デアリマスカラ、是等ノ
如キハ現法ニ於テ其目的ヲ達シ得ルト云
フコトナラバ、何モ慌テテ之ヲ改正スル必
要ハナイ、適當ナ時機ニ、モット進ンデ徹
底的ナ外米ニ關スル統制管理ノ方策ヲ考究サ
レテモ、尙ホ遲クナイト思フノデアリマス
(拍手)

ソコデ最後ニ殘ッタ問題ガ、今回ヤカマシ
クナッテ居ル所ノ米價ノ基準ノ問題デアリ
マス、私ハ此米價基準ノ制定ニ付テ反對ス
ル者デハアリマセヌ、私モ其必要ヲ熱心ニ
主張シテ居ル一人デアリマス、併ナガラ前
刻同僚ノ胎中君モ言ハレタノデアリマスガ、

私ガ之ニ反對スル理由ヲ極メテ簡單ニ申上
ゲテ見タイト思ヒマス

今回ノ改正ノ要旨ハ、所謂率勢米價ト、
米ノ生産費及ビ家計費ノ三ツデアリマス、
其中デ米ノ生産費、家計費ト云フモノハ、
是ハ現在何モナイ、空デアリマス、六年度
カラ調査ニ著手スルモノデアツテ、其完成ノ
年次、調査ノ結果ノ良否ト云フモノハ、今
日ニ於テハ全然不明不確實ノモノデアリマ
ス、先程委員長ノ報告ニハ、一二年ノ間ニ
ハ必ズ云々ト云ツヤウナコトヲ申サレマ
シタガ、私共ハ必ズシモ斯ノ如ク、此調査
ガ速ニ出來ルモノトモ思ハナイ、故ニサウ
云フヤウナ不確實ナモノヲ基礎トシテ、法
ノ改正ヲ行フト云フガ如キハ、是ハ第一立
法ノ精神上カラ考ヘテモ不穩當デアルト思
フ(拍手)故ニ政府ハ此際ニ是方調査ニ速ニ著
手セラレ、サウシテ嚴密周到ナル調査ヲ遂
ゲテ、其結果ニ付テ、生産者並ニ消費者、
兩面カラ之ヲ觀察シテ、是ナラバ基礎的材
料トシテ採用シテモ可ナリト云フ見當ガ付
イタ所デ、初メテ法ノ改正ニ著手セラレ
ト云フコトガ、洵ニ穩當デアルト私ハ考ヘル
「ヒヤ」(一、拍手)然ルニ此目安モ付カナ
イノニ單ニ法律ダケヲ改正シ、實行不可能
ノ死法ヲラシメ、附則ニ於テ更ニ暫定法ヲ
設ケテ、當分率勢米價一本デ行カウト云フ
ガ如キハ、是ハ單ニ改正センガ爲ノ改正デ
アリ、徒ニ一時ヲ彌縫スル所ノモノデア
テ、更ニ國民ヲ欺瞞セントスル所ノ一ツノ
政策デアル(ヒヤ)(一、拍手)此改正法律
案ハ、一般國民ノ利益増進ニハ殆ド關係ノ
ナイモノデアリマス、生産者ニ取リマシテ
ハ、極メテ不利益ナ結果ヲ招來スルモノデ
アルト云フコトヲ私ハ斷言スル(拍手)殊ニ
附則ニ於テ、暫定的法トシテ率勢米價一本
デ行クト云フガ如キハ、假令ソレガ短期間
デアルト假定致シマシテモ、極メテ不都合
デアアルノデアツテ、吾々ハ此一事、斷ジテ贊
成ガ出來ナイノデアリマス(拍手)即チ政府

ガ暫定的ニ一本ヲ以テ行カントスル率勢米
價ニハ、色々ノ缺點ガアリマス、第一ニ日
本銀行ノ物價指數ハ何ニ據テ居ルカ、一般
物價指數ハ、東京ノ中央市場ノ卸相場デア
リマス、其米價指數ハ、深川ノ正米市場ノ
標準米ノ平均價格ヲ基礎ト致シタモノデア
リマス、故ニ是ハ東京ノ如キ消費者ヲ目標
トシタ所ノ、一ツノ基準ニハナリマスケレ
ドモ、地方農村ノ米價ノ基準ニハ、私ハナ
リ得ナイト思フ(拍手)如何トナラバ米ノ庭
相場ハ、深川ノ市場ヨリモ遙ニ安イ、而シ
テ農家ノ消費スル所ノ生産ニ要スル物資並
ニ生計ニ要スル物價ハ、遙ニ東京ノ卸相場
ヨリモ高イノデアリマスカラ、此不利益ナ
立場ニ在ル所ノ農家ノ本當ノ經濟ノ中心ト
スル所ノ米價デアッタナラバ、斯ノ如キ東京
ヲ中心トシ、消費者ヲ目標トシタ所ノ物價
指數ヲ以テ算出スルト云フコトハ、遙ニ是
ハ農村ノ經濟實情ヲ裏切ルモノデアル、即
チ消費者本位デアツテ、生産者本位デナイ
ト云フコトヲ茲ニ斷言シテ憚ラナイノデアリ
マス(拍手)更ニ日本銀行ノ物價指數ハ、申
上ゲルマデモナク五十六品目ニ付テ、其平
均ヲ取ツタモノデアリマス、之ニ對シテ色々
ノ缺點ノアルコトハ胎中君モ述べラレタ、
而シテ其缺點ニ付テハ、委員會ニ於テ農林
當局モ認メラレテ居リマス、併ナガラ單ニ
是ガ一番長イ歲月ニ互ニテノ調ベデアルカ
ラ宜シイト云フ、是ダケノ事デアル、其内
容ノ吟味ハ、サバリ分ラヌ、内容ノ吟味ガ
出來ナイ、單ニ日本銀行ト云フ其名ヲ信賴
シテ、之ヲ利用スルト云フコト程危險ナ事
ハ私ハナイト思フ(拍手)尤モ是ハ單ニ物
價ノ將來ヲ豫測スルト云フ、何カノ目安ニ
供スルト云フ程度ノモノデアッタナラバ、ソ
レデモ宜イデセウ、併ナガラ今回ノ事ハ、
最小ニ乘法ノ如キヲ利用シ、「コンマ」以下
何位マデモ算出スルト云フヤウナ計算ヲシ
テ、之ヲ法律ノ基礎トスルモノデアリマス
カラ、所謂率勢米價算出ノ基礎トスルコト

ニ於テ、吾々ハ洵ニ妥當ヲ缺イテ居ルモノ
デアルト謂ハナケレバナラヌ

此缺點多キ基礎材料ヲ以テ算出シタ所ノ
米價率及ビ趨勢米價ガ果シテ何ヲ意味スル
カ、サバリ分ラナイ、分ラヌデモ斯ウ云フ
數字ガ出ルノダト云フ所謂率勢米價デア
テモ、而モ其上下二割ガ基準價格ノ最高最
低デアルト云フナラバソレマデ、アリマ
ス、併ナガラサウシテ算出シタ率勢米價ガ
果シテ何ニナリマセウ、何ノ權威ガアリマ
セウ、ソレバカリデハナイ、假ニ之ヲ利用
シタトシテ、過去長年月ニ互ニ米價ノ趨勢
ガ、將來ノ米價ヲ律スル上ニ於テドレダケ
ノ效果ガアルカ、大ナル疑問デアリマス、
如何トナラバ、過去ノ米價ヲ決定シタ色々
ノ因子ト云フモノハ、年ト共ニ變化スルコ
トハ、ドウシテモ免レナイ、是ハ私ハ時間
ガアリマセヌカラ詳シクハ申上ゲマセヌ
ガ、即チ過去ノ米價ヲ決定シタ色々ノ因子
ハ變化スルモノデアル、デアリマスカラ過
去ノ米價其他ノ事情ニ依テ將來ヲ測定ス
ルト云フコトニ付テハ、決シテ是ハ完全ヲ
期スルコトハ出來ナイモノデアル、若シ是
ガ單ニ將來ノ米價ヲ豫測スル目安デアルナ
ラバ、先程申上ゲタヤウニソレデモ宜シイ
ノデアリマス、併ナガラ今回ノ如キ、過去
ノ米價其他ノ諸事情カラ推定シテ、生産者
消費者ノ兩者ニ對スル公正ナル價格ヲ算出
セントスルニ至ッテハ、一層是ハ困難ナ問題
ヲ惹起スルノデアツテ、同時ニ單ニ是ノミ
ニ依テ最低最高ノ米價標準ヲ決メル所ノ法
律ノ基礎トスルガ如キハ、極メテ不都合デ
アルト斷言セザルヲ得ナイ、若シ強テ之ヲ探
用シタ結果、ソレデハドウナルデアアラウ、
ソレハ過去ノ米價カラ豫測サルベキ米價
ニアラシムルコトヲ以テ其根據トシタモノ
デアツテ、生産者ノ利益ヲ保護シ、同時ニ消
費者ノ生活ヲ壓迫シナイト云フ爲ニ定ムベ
キ米價ト云フモノトハ、全然無關係デアリ
マス、即チ是カラ得ラレル結果ハ何デア

カト言ヘバ、米價ノ安定デアル、米價ノ安
定ト云フト如何ニモ宜イヤウデアリマス
ガ、斯ル場合ノ米價ノ安定ト云フモノハ、
果シテ何ヲ意味スルカ、是ハ生産者及ビ消
費者ガ——若シ政府ガ示スヤウナ材料ヲ計
算法ヲ以テ豫想スルナラバ、米價ガ率勢米價
ノ上下二割ノ範圍内ニ於テ落付クデアアラウ
ト云フ期待ヲ裏切ラナイ所ノ、米價ガ其處
ニ定ルト云フダケデアツテ、其以外ニ何物モ
ナイノデアリマス、之ニ依テ利益サレルノ
ハ誰ダカ分ラナイ、即チサバリ利益ヲ受ケ
ル者ガ分ラナイ

斯ウ云フヤウナ怪シイモノヲ以テ、本法
改正ノ根據トスルガ如キハ、全然本法ノ趣
旨ヲ無視シタモノデアルト謂ハナケレバナ
ラヌ更ニ最高最低價格ヲ上下二割トシタ
ト云フコトニ付テモ議論ハアリマスガ、是ハ
私ハ論ジマセヌ、上下四割ノ開キデ、過去
二十九年間ノ趨勢ニ依リマシテ吾々ハ考ヘ
ルナラバ、本法出動ノ機會ハ非常ニ少クナ
ルモノト斷定セザルヲ得ナイ、成ベク本法
ヲ出動セザナイト云フガ此法律改正ノ趣
旨デアラナラバ、ソレデ宜イカモ知レマセ
ヌ、併ナガラ上下二割ト云フ決定ニハ、尙
ホ研究ノ餘地ガ多イ、即チ與黨諸君モ、下
ノ方ハ二割ニシナイデ一割五分ニスルノガ
適當デアルガ、暫定的ダカラ當分二割トス
ルモ已ムヲ得ナイト、一昨日ノ特別委員會
ニ於テ討論ノ際申述べラレタ、一割五分ガ
適當デアルガ、暫定的デアルカラシテ、已
ムヲ得ナイカラ一割デ我慢スルト云フノ
ハ、理窟ガ通ラヌデヤアリマセヌカ、即チ
不穩當ト認メナガラ、暫定的ダカラソレヲ
承認スルト云フ態度ハ、是ハ生産者タル農
民ニ冷酷極マル態度デアルト謂ハナケレバ
ナラヌ、是デハ決シテ農村ハ救ハレマセ
ヌ

殊ニ政府ノ原案ハ、米價ノ趨勢ガ直線的
ニ進ムモノト認定シテ、趨勢値ヲ計算シタ
モノデアリマスケレドモ、是モ一種ノ認定

ニ過ギナイ、直線式以外ノ用式ヲ以テ、適
當ナル計算ヲ爲シ得ル餘地モアル、即チ吾
吾ハ直線式ヨリモ、他ノ適當ナル用式ヲ認定
スルコトガ適當ト信ズルモノデアル、即チ
吾々ハ直線式ヨリモ寧ロ「バラボラ」式ガ遙
ニ適當ナリト認定スル者デアル、而モ此兩者
ヲ比較シテ見ルト、政府ノ御計算ニ依リテ比
較シテ見ルト、胎中君モ言ハレマシタガ、
明治三十七年カラ昭和六年マデ二十八年間
ニ於テ「バラボラ」式ノ方ガ、直線式ヨリモ
米價ガ高イノガ十九箇年、残りノ九箇年ガ
是ト反對ニ出テ居ル、殊ニ近年大正十二年
以來ハ、引續イテ「バラボラ」式ノ方ガ常ニ
高値ニ出テ居ルノデアッテ、是カラ見テモ
「バラボラ」式ノ方ガ、政府原案ヨリ遙ニ
生産者ノ農民ニ有利デアル、即チ此點カラ
見テモ、政府原案ハ生産者ノ利益ヲ事實ニ
於テ無視シタルモノデアルト斷言セザルヲ
得ナイノデアリマス

元來率勢米價ナルモノハ、統計學的ニハ
何モチウムツカシイモノデナイ、不可解ナ
モノデアリマセヌ、併シ實際問題トシテ、
率勢米價ガ果シテ何ヲ意味スルモノデア
ルカニ付テハ、尙ホ不可解ノ點ガ多ク、大ニ
此點ハ今後研究サレナケレバナラス、殘サ
レタル所ノ研究問題デアルト云フコトハ、
特別委員會ニ於ケル質問應答ノ實情カラ見
マシテモ、農林大臣始メ政府當局モハキ
リ會得ガ出來ナイ、又特別委員會ニ於テモ、
之ヲ明確ニ認識スルコトガ出來テ居ナイト
云フコトハ明カデアルモノ、率勢米價ヲ基
礎トスル所ノ此重大法案ヲ改正スルト云フ
コトハ、決シテ妥當デハアリマセヌ、若シ
強テヤルト云フナラバ、現内閣ノ米價政策
ハ、一人ノ算術技術者ニ依リテ斷行サレルコ
トニナルノデアリマス(拍手)是デハ政治ニ
ハナリマセヌ、是デモ尙ホ政府當局ガ政治
ナリト言フナラバ、其政治コソ、盲目滅法
ノ政治ナリト私ハ斷言スル(拍手)殊ニ本法
ノ如キハ、生命保險ノ死亡率トハ違フ、特

別委員會ニ於テ政府當局ハ、保險會社ノ死
亡率ノ計算デモ吾々ニハ分ラヌデハナイ
カ、コンナモノハ分ラヌデモ宜イデヤナイ
カト云フコトノ御説明ガアリマシタケレド
モ、ソレナハ困ル、吾々ハ保險會社ノ死亡
率ガドウナデ居ラウガ、ソレハ勝手ダ、吾
吾ガ保險ニ這入ラウト這入ルマイト、ソレ
ハ勝手デアリマス、ドノ保險會社ニ這入
ラウト、ソレハ勝手ダ、併ナガラハ政府ガ
法律ヲ以テ、吾々ノ生産ト、又吾々ノ買ハ
ントスル米ノ價ヲ適當ナ所ニ安定シヨウ、
調節シヨウト云フノダカラ、法ノ力デ以テ
吾々國民ノ利害ヲ束縛シヨウト云フ重大法
案デアルカラシテ、斯ウ云フヤウナ場合ニ、
生命保險會社ノ死亡率ノ計算ト同ジヤウナ
考ヲ以テ、此重要法案ヲ御取扱ニナルト云
フコトハ、其一事ヲ以テモ、吾々ハ此問題
ニ付テ誠意ナキモノト認メザルヲ得ナイノ
デアリマス

吾々ハ其根據ニ不合理ナ點ガアレバ、之
ヲ飽マデモ究メナケレバナラス、時間ガア
レバ究メタカッタ、時間ガナイカラ已ムヲ得
ナカッタガ、ナド言フベキモノデナイ、又其
内容ハ飽マデモ通俗的ナモノデナケレバナ
ラスト思フ、本法ノ如キハ最モ國民大衆ニ
關係ガアルカラ、國民大衆ガ容易ニ了解ガ
出來ル方法ヲ以テスルト云フコトガ、眞ニ
立憲政治家ノヤルベキ政治ナリト私ハ斷言
スル、自分達自身尙ホ幾多ノ疑問ヲ有スル
ベカリデナク、更ニ是ガ國民多數ノ疑惑ノ
中心トナルヤウナ處ノアル立法ニハ、吾々
ハ斷ジテ與スルコトガ出來ナイノデアリマ
ス

信賴スベキ生産費ハ、帝國農會ノ調査ニ據
ルヨリ外ニ途ガアリマセヌ、帝國農會ノ生
産費ヲ見マスルト、昨昭和五年ノ米一石ノ
生産費ハ二十六圓四十四錢デアリマス、而
シテ政府ノ原案ニ依ル、所謂率勢米價ヲ調
ベテ見ルト二十二圓八十五錢デアリマス、
即チ政府原案ニ依リ昭和六年ノ率勢米價ノ
生産費ヲ割ルコト三圓五十八錢七厘、實ニ
一割四厘ノ安値デアリマス、更ニ率勢米價
ノ下値二割八十八圓二十八錢デアリマスカ
ラ、生産費ヲ割ルコト實ニ三割一分ノ安値、
八圓十五錢ト云フ驚クベキ其處ニ開キガ
ルト云フ、此一事カラ見マシテモ、如何ニ
率勢米價一本デ行クコト云フコトガ、生産者
ニ不利デアルカト云フコトガ明瞭ニナル
デハアリマセヌカ、是カラ見テモ吾々ハ、
本改正案ハ生産者ニ有利ナリト斷言スルコ
トハ出來ナイノデアリマス(拍手)即チ此點
ハ與黨諸君モ明カニ認メラレタ、先程委員
長ノ御讀上ゲニナッタ附帶希望條件ニ明カ
ニ認メラレテ居ルノデアリマス、即チ第一
率勢米價一本デ行クナラバ、下値一割五分
ニシタイガ、併ナガラハ是ハ暫定的ダカラ已
ムヲ得ナイ、併シ速カニ生産費、家計費ヲ
調ベロ、而シテソレヲヤル場合ニハ内地米
ヲ保護スルノ必要カラ、成ベク下値ハ生産
費ニ近イ所デ定メロト云ッタヤウナコトヲ
言ハレル、此一事カラ見マシテモ、明カニ
率勢米價一本デ行クコトハ、生産者ニ不利
益デアルト云フコトヲ、與黨諸君モ認メラ
レタノデアリマセウ、而シテ此附帶決議ヲ
出スコトニ、政府モ御同意ニナッタスルナ
ラバ、政府自身モ此事實ヲ明カニ御認メニ
ナッタノデアル、即チ政府モ與黨諸君モ、
此一事ニ於テハ吾等ノ主張ニ確カニ降伏サ
レタノデアリマス(拍手)而モ尙且ツ之ヲ撤
回スルノ勇氣モナク、無理ニ此案ヲ支持セ
ラレントスルガ如キハ、實ニ國家ヲ念トス
ル立憲政治家ノ態度デハナイト私ハ申上ゲ
タイノデアリマス(拍手)

私ハ右幾多ノ缺點ヲ申上ゲテ、所謂率勢
米價一本デ行ク所ノ此改正法律案ハ、決シ
テ適當デナイ、寧ロ速カニ生産費、家計費
ノ調査ニ著手セラレ、同時ニ尙ホ率勢米價
ニ付テ慎重ナル研究ヲ續ケラレ、其間ハ現
行法ヲ運用シテモ、其目的ヲ達スルコトガ
出來ルノデスカラ、此三ツノモノガ立派ニ
完成シタ曉ニ於テ、初メテ改正ヲサレルト
モ尙ホ遅クナイト思ヒマス、斯ノ如クスル
事ガ、私ノ眞ニ九千万國民ニ對スル忠實ナ
ル所ノ政治家ノ務ナリト信ズルノデアリマ
ス(拍手)

以上私ハ大體ニ於テ現内閣ノ米穀政策ニ
對スル態度、及ビ今同ノ此米穀法改正ノ内
容ニ付テ批判ヲ試ミタノデアリマスガ、何
レカラ見マシテモ、今回ノ米穀法ノ改正及
ビ現内閣ノ米穀政策ハ、今日ノ農業恐慌時
代ヲ打開スルニ適當ナル力ノ無イモノデア
ルト云フコトヲ、私ハ茲ニ斷言セザルヲ得
ナイノデアリマス、即チ若シ暫定的ニ率勢
米價一本デ行クナラバ、何ト御辯解ニナッ
テモ、農家ハ不利益ニ導カレルモノデアッ
テ農家救済ノ手段ニハナラスト私ハ斷言セザ
ルヲ得ナイノデアリマス、現内閣ハ、三千
万農民ヲ豐年恐慌ノどん底ニ突落シテ之ヲ
救ハントモセズ、今又率勢米價ト稱スル一
本ノ鐵棒ヲ擲ヘテ自ラ農家ノ腹ニ至リ、青鬼
ノ役割ヲ勤メ、農民ノ眼ヲ抉リ、鼻ヲ削ギ、
耳ヲ斬リ、舌ヲ抜クノ殘酷ヲ敢テセントス
ルノデハナイカ、是ヲシモ惡魔ノ政治ト謂ハ
ズシテ何デアリマセウカ、吾々ハ斯ノ如キ
政治ハ、今日ノ日本ノ此大切ナル國家ヲ擁
護スル上ニ於テ、此行詰タ所ノ日本ノ農民
ノ生活ヲ救済シ、打開スル上ニ於テ、到底
満足スルコトハ出來ナイノデアリマス、吾
吾ハ今日特ニ米穀問題ハ、農村ヲ中心トシテ
考ヘ、所謂精神の日本ヲ設立シテ、以テ今
日ノ所謂物質的文化ノ餘弊ニ因ハレタ、此
惱ヲ一掃スルト云フ、根本のノ思想カラ出
發致シマシテモ、今回ノ政府ノ御提案ニナッ

テ居ル米穀法ノ改正案ニハ、賛成スルコトハ出來ナイ者デアリマス

以上私ハ極メテ簡單ニ、私達ガ反對スル所ノ要旨ヲ申上ゲタノデアリマシテ、國家將來ノ爲メ我國ノ農村——國家ノ基礎ヲ成ス農村ヲ救済スベク、速ニ適當ナル所ノ根本的米穀法ヲ確立スルコトヲ吾々ハ必要トスル、是ガ現内閣ニ望メナイトスルナラバ、他日ニ於テ吾々ハ其目的ヲ達スル機會ガアリマセウ

以上私ハ吾々ノ主張ノ一端ヲ述べ、三千万農民ノ現狀ニ鑑ミ、同時ニ吾々ノ尊キ祖國ヲ憂ヘルノ餘リ之ヲ強調シ、而シテ現ニ上程ニナッテ居ル米穀法改正法律案ニ反對ノ意思ヲ表明スル者デアリマス

〔村上國吉君登壇〕

○村上國吉君 私ハ只今上程サレテ居リマス所ノ米穀法中改正法律案竝ニ米穀需給調節特別會計法中改正法律案ニ付キマシテ、委員長ノ報告ニ賛成スル者デアリマス、先刻來胎中君及ビ東郷君ノ段々ノ御演説ヲ拜聴シマシテ、特ニ東郷君ニ至ッテハ、滔々數千萬言ヲ御費シニナリマシテ、其該博ナル知識ヲ示シ、多年ノ蘊蓄ヲ滿腹ノ經綸ヲ吐露セラレタヤウニ私ハ感シタノデアリマス、而モ同君ノ御論述ニナリマシタコトハ、單リ米穀政策ノミニ止マラズ、或ハ農業政策ノ全體ニ互リ、又ハ經濟政策其他諸般ノ事ニ互ラレテ居ルノデアリマス、而モ今茲ニ上程サレテ居リマス所ノ此二ツノ法律案ハ、是ハ米穀政策ノ全部デハアリマセヌ、米穀政策中ノ只一ツニ過ギナイモノデアリマス(拍手)私ハ東郷君ノ例ニ倣ハナイデ、唯此二ツノ法律案ニ局限シテ、聊カ意見ヲ述ベテ見タイト思フノデアリマス(拍手)

今同政府ガ提出ヲ致シマシタ所ノ、此米穀法改正ノ骨子ハ、政府ガ米ノ買上又ハ賣渡ノ爲ニ發動スル場合ノ基準價格ヲ設ケントスルノデアリマシテ、斯ノ如ク基準價格ヲ設ケテ、サウシテ此米穀法ノ發動ヲ公正

ニシ、其運用ノ上ニ誤ナカラシメントスルノガ、此提案ノ趣旨デアアルノデアリマス、我國ニ於ケル米穀法ハ、既ニ御承知ノ如ク大正十年ノ制定ニ係ルモノデアリマスガ、抑、大正十年ニ米穀法ノ制定セラレタル由來ヲ考ヘテ見マスレバ、大正六年ニハ内地ノ產米五千四百五十万石、大正七年ニハ又五千四百七十万石、此二箇年ノ稍、不作ノ後ヲ承ケマシテ、遂ニ御承知ノ如ク大正七年ニハ米騒動マデモ持上ルヤウニナリマシタ、然ルニ大正八年ニハ、内地ノ產米六千万石、大正九年ニハ六千三百万石ニ相成リマシタガ爲ニ、大正九年ノ一月ニハ五十圓近クシテ居リマシタ所ノ米ガ、其秋ニハ半値ニ下ッテ、眞ニハ米ノ不足ノ爲ニ國民ガ非常ニ苦ミ、次ニハ又米ノ供給過剩ナタガ爲ニ、價格ガ大暴落ヲ致シマシテ、生産者タル農業者ノ苦ムコト甚シカリシガ爲ニ、時ノ政府ハ遂ニ大正十年ノ議會ニ此米穀法ヲ提出致シタコトデアアルノデアリマス、當時ノ米穀法ニハ、此價格ノ基準ヲ設ケルト云フコトニ付テ、何等ノ考モナカッタヤウニ考ヘラレマス、然ルニ此米穀法ガ制定セラレマシテカラ後ノ、我國ニ於ケル米ノ需給關係ハ、著シク變化ヲ致シテ居リマス、東郷君モ述ベラレマシタル如クニ、植民地ニ於ケル米ノ改良増殖ト云フモノガ、段々盛ニナッテ來マシタガ爲ニ、ソレカラ以來ノ我國ノ米穀ノ需給ノ狀態ニハ、著シキ變化ガアリマス、其變化ノ關係モアリマスガ、兎ニモ角ニモ斯ノ如クニシテ一タビ制定シタル米穀法ハ、今日ニ於テハ制定當時ノ目的ニ副ヒ兼ネル狀態ニ相成ッテ居ルノデアリマス

而シテ此米穀法ガ何ガ故ニ今日ソレダケノ機能ヲ缺クコトニ相成ッタカト申シマスレバ、此米穀法ニハ、一ノ大キナ缺陷ガアリマス、此缺陷ヲ取除ケルノデナカッタナラバ、米穀法ハ其效果ヲ舉ゲル譯ニ參リマセヌ、其缺陷ハ何デアアルカト申マスレバ、

ソレハ即チ米ノ買上又ハ賣渡ノ爲ニ政府ガ出動セントスルニ當テ、適用スベキ何等ノ基準ヲ定メテ居ラヌノデアリマス、是ガ即チ米穀法ノ缺陷デアアル(拍手)此基準ノ定ガナイガ爲ニ、動モスレバ其運用ヲ誤リ、必要ナル理由ナクシテ濫ニ發動スルト云フガ如キ弊ニ陥ルコトナキヲ保シ難イノデアリマス(拍手)故ニ米穀調査會ニ於キマシテハ、此點ガ最モ重大ナル問題トナリマシテ、熱心ニ審議セラレタ結果、此米穀法ニハ適當ナル價格ノ基準ヲ設ケテ、其發動ヲ公正ニシ、以テ運用ノ上ニ遺憾ナキヲ期スベキデアルト云フ結論ニ到達ヲ致シテ、之ヲ政府ニ答申致シタノガ、即チ今回ノ提案トナッタ次第デアアルノデアリマス(拍手)

私ハ過去ニ於ケル米穀法運用ノ例ヲ論ズル考ハ一ツモ持チマセヌ、左様ナ考ハ持チマセヌガ、大正十年以來此米穀法施行ノ跡ヲ見マスルト、我國ノ米穀法ハ、其發動ガ多クハ殆ド米ノ買上ニ限ラレテ、賣出動ヲシタト云フコトハ稀有ニ屬スルノデアリマス、其結果米穀需給調節會計ガ、今日抱イテ居ル所ノ巨額ノ損失ノ生ジタル譯デアリマシテ、此從來ノ發動ガ殆ド米ノ買上ノミデアッテ、賣出動ハ殆ドナカッタト云フコトニ付テ、若干茲ニ數字ヲ舉ゲテ御話ヲシテ見タイト思フノデアリマスガ、即チ調節買上ヲ致シマシタコトガ今日マデニ八回、而シテ大正十年ノ六月ニ豫定ノ百万石ニ對シテ三十五万八千石、大正十二年ノ二月ニ買上豫定ノ百万石ニ對シテ二十二万石、同年ノ十月ニ三十万石ノ豫定ニ對シテ九万九千石、昭和二年ノ九月ニ豫定ノ百万石ニ對シテ二十一万三千石、同年ノ十一月ニ五十万石ノ豫定ニ對シテ五十一万四千石、同年ノ十二月ニ百万石ノ豫定ニ對シテ百二万一千石、又昭和四年ノ四月ニ、百万石ノ豫定ニ對シマシテ一百三万四千石ノ買上ヲ實行致シテ居ルノデアリマス、其合計ガ三百四十六万三千石ニナッテ居リマスルガ、之ニ對シ

テ賣出動ヲシタコトガ、幾度アルカト申シマスルト、僅ニ一回、即チ大正十三年ニ、外米二十四万五千九百石ヲ賣ッテ止マッテ居ルノデアリマシテ、其他ニ整理賣却ヲシタコトハ數回アリマスルガ、ソレハ皆數年間貯藏シタ米デアッテ、最早是レ以上持耐ヘルコトハ出來ナイト云フノデ、古米整理ノ爲ニ其賣却ヲヤッタノデアリマスガ、ソレハ昨年マデニ前後七回、其數量ハ外國米ガ十二万五千石、サウシテ内地米ガ九十八万二千石ト云フ數字ニ止マッテ居ルノデアリマス、斯様ニシテ政府ノ所有米ハ、買上ノ一方デアリマスカラ、段々ト殖エル、又之ニ對スル所ノ金利息數ハ次第ニ嵩ミマス、貯藏ヲ致シテ居リマス間ニハ品痛ミガ出來マス、値損ガ生ジマス、斯クテ極メテ多額ナル所ノ損失ガ生ズルコトニナリマシタ、其損失額ハ此年度末ニナリマシタアラバ、一億五千万圓ニ達スルト云フコトデアリマス、私ハ茲ニ一ツ其一億五千万圓ノ損失ノ内容ニ付テ御紹介ヲ致シテ見タイト思フノデアリマス、即チ米穀法施行以來此昭和五年度末ニナリマスルト、由テ生ズル所ノ損失額ガ、事務費ニ於テ百九十七万六千圓、營業費ニ於テ百九十七万六千圓、借入金ノ利息ニ於テ四千四百七十四万八千圓、震災損失金ニ於テ百九十七万六千圓、而シテ今日マデノ賣却損ト評價損ガ七千七百七十一万九千圓ト云フコトニ相成ルノデアリマス、シテ見マスルト、此損失一億五千万圓ノ中ニ於テ、損失ノ半分以上ト云フモノハ、品物ヲ持ッタガ爲ニ生ジタル所ノ値下リ、値損、是ガ是ダケノ損失ヲ來シタノデアリマシテ、其外ニ更ニ四千一百萬圓餘リノ利息ノ中ニハ、此米ガ負擔スベキ分量ガ相當多額ニアルベキモノデアルト考ヘマスナラバ、政府ガ從來動トモスル其出動ヲ誤ッテ、何時デモ買ニバカリ廻ッテ、賣ッタコトガナイト云フ其原因ハ、米穀法ノ出

動ニ關スル所ノ何等ノ基準ノ定メナカリシガ爲ニ、遂ニ斯ウ云フ結果ヲ來シタコトデアリマシテ、是ダケノ損害ヲ國家ニ與ヘルヤウニナリタコト云フコトハ、如何ニシテモ吾ハ遺憾千萬ニ存ズルノデアリマス（拍手）故ニ米穀法ヲ今後持續ケテ行キマス限リ、其出動ノ基準價格ヲ設ケルコトナクシテ、此儘デ行キマシタラバ、又今迄ノコトガ繰返サレル處ナキニアラズ、國庫ノ損失ハ測リ知ルベカラザルモノアリト憂フルノデアリマス

尤モ吾々ハ政府ノ買上ニ依テ米價ノ上ニ調節ノ效果ガ現ハレマスラバ、國庫ニハ損ガアリマシテモ、ソレハ又一方ニ於テ國民ノ利益デアリ、殊ニ生産者ノ利益トモ相成ル譯デアリマスカラ、生産者ノ利益保護ノ意味ニ於キマシテ我々モ致シマス、所ガ既往ノ事實ハドウデアルカ、國庫ノ損失ガ加ハルニ從テ、米穀法ハ次第ニ其威力ヲ失ヒ、買上ハヤテモ價格ニハ利カス、政府ノ手持米ガ多クナルニ從テ、却テ市場ノ米價ヲ壓迫シテ、農業者ニシテ見ルト、當然利得スベキ所ノ其利益ヲモ抑ヘラレルト云フコトニナリテ、結局殘ルモノハ何デアルカト言ヘバ、ソレハ國庫ノ大キナ損失バカリダト云フコトニ相成ルノデアリマスカラ、即チ此結果ヲ見タル時ニ、今日ノ米穀法ハ、其制定當時ノ豫期ニ反シタルモノデアルト謂ハザルヲ得ナイノデアリマス（拍手）斯ノ如キ事實カラ見マシテ、現行米穀法ノ大ナル缺陷ヲ根本ヨリ改メルト云フコトガ、即チ此改正案ノ提出セラレタル所以デアリ、斯クスルコトガ米穀法ヲ活カシ、其機能ヲ發揮スル所以デアルト考ヘマスガ故ニ、吾々ハ先ヅ此意味ニ於キマシテ、此改正案ニ賛成セントスル者デアリマス（拍手）

次ニ米穀法ノ改正案ニ對スル政友會ノ反對論ハ、先刻來胎申君カラ、又東郷君カラ承リマシタ、御兩所共ニ、此基準價格ヲ設ケルト云フコトニ付テハ、必ズシモ其趣旨

ニ反對デハナイヤウデアアル、殊ニ東郷君ハ、ハッキリト基準價格ヲ設ケルコトハ結構デアルト思フコトヲ申サレテ居リマス、而モ其基準價格ヲ設ケルコトハ宜イト考ヘナガラモ、之ニ反對ヲ爲サル所ノ要旨ハ、先刻來段々ト承タノデアリマスガ、第一ニ率勢米價、此率勢米價ト云フモノハ中分ラヌ、吾々ガ聞イテモ分ラヌ、多數ノ國民ヲシテ諒解セシムルナドト云フコトハ、中々容易デナイ、コンナ了解セシムルコトノ出來ナイヤウナコトヲ法律デ定メルト云フコトハ、憲法政治ノ趣意ニ反スルモノトマデノ御演說デアリマシタ、成程此率勢米價ト云フコトハ、卒然聞イタダケデハ如何ニムヅカシサウニ聞エマス、併ナガラ過去ノ永年ノ事實ヲ基ニシマシテ、一般物價ニ對スル米價ノ位置ヲ對照シテ見マス、米價ハ一般物價ニ較ベマシテ、概ネ常ニ高値デ進ム趨向ヲ持テ居ルト云フ、此事實ノ存在スルコトハ、何人ニモ認識スルコトガ出來ルノデアリマス、即チ一般商品ニ對スル米ノ重要度ガ其處ニ示サレルノデアリマス、此米ノ重要度ヲ、其基準價格ニ織込ムト云フコトハ、是ハ米價ノ基準ヲ立テル上ニ於キマシテ、極メテ肝要デアルト吾々ハ考ヘマス、サウシテ其重要度ナルモノヲ、或ル一定ノ學問的算式ニ依テ價格ニ現ハシタモノガ即チ率勢米價デアル、サウシテ見マス、此率勢米價ヲ大骨トシテ、サウシテ基準價格ヲ定ムルト云フコトハ、米ノ重要性ヲ尊重スル所以デアル、是ガ即チ政府ガ此率勢米價ヲ採用スルニ至ツタ趣意デアリ、米穀調査會ガ之ヲ採用スベシト答申シタ所以ナリト吾々ハ考ヘルノデアリマス（拍手）ソレカラ又率勢米價ノ算出ノ方法ニ付テ、直線式ガ宜イカ、「バラボラ」式ガ宜イカト云フコトニ付テ、段々ト御話ガアリマシタ、寧ロ東郷君ハ此點ニ付テハ、吾々ハ「バラボラ」式ノ方ガ宜イト御斷定ニナリテ居ルノデアリマス、成程此問題ハ、其何レガ宜イカト云

フコトニ付テハ、其方面ニ關スル知識ノ持合セノナイ吾々ト致シテハ、容易ニ斷言スルコトハ出來マセヌガ、兎モ角モ此兩式ニハ、各、一長一短ガアルヤウデアリマス、サウシテ政府ノ當局ガ今日マデ實驗ノ結果ニ依テ判斷シタ所ニ依ルト、直線式ノ方ガ宜イ、斯ウ申シテ居ルノデアリマス、ソコデ私ハ事實ノ上ニ付テ、此直線式ト「バラボラ」式ト、愈之ヲ實行スルニ當テ何レガ宜イデアアラウカト云フコトヲ、過去ノ事實ニ當嵌メテ考ヘテ見マシタ、サウシマス、即チ我國ニ於キマシテ大正十年ニ米穀法ガ施行セラレマシテ以來ハ、米價ノ値幅ノ變動ガ甚シク縮小セラレタト申シテ居リマス、或者ハ米穀法ノ效果ナカリシコトヲ議論スルニ對シ、少クトモ我國ニ於テ、上下ノ其米價ノ値幅ヲ甚シク縮小スルコトガ出來ルヤウニナリタト云フコトハ、確ニ米穀法ノ御蔭デアルト、米穀法禮讚論者ハ申シテ居リマス（拍手）此値幅ノ縮小サレタト云フ大正十年カラ今日マデニ、此二ツノ式ヲ當嵌メテ考ヘテ見ル、サウ致シマス政府ガ一ツノ草案トシテ、否原案トシテ考ヘテ居リマス所ノ率勢米價ノ上値二割、下値二割、即チ上値二割ヲ超エタ時ニハ賣出動ヲヤル、下値二割ヲ割タ時ニハ買出動ヲヤルト云フコトニシテ、サウシテ大正十年カラ今日マデノ各月ノ平均米價ト云フモノヲ、ソレヲズツト當嵌メテ行キマス云フコト、即チ米穀法ノ發動ヲ要スベカリシ所ノ度數ト云フモノガ、上値二割ヲ超エタ度數ガ直線式ニアッデハ七回、「バラボラ」式ニアッデハ三回、又下値二割ヲ超エタル度數ハ、直線的ニアッデハ十回、「バラボラ」式ニ於テハ十一回ト云フコトニナリテ居ルノデアリマス、先程東郷君ハ、直線式ニ依ルト「バラボラ」式ニ對シテ甚ダ出動ノ機會ガ少クナルト云フコトヲ言ハレタ、サウシテ政府ガ出動ノ機會ヲ少クスルコトガ、此米穀法改正ノ目的デアラナラバ、斯ウナサルノモ宜イ

ダラウト云フコトヲ申サレテ居ルケレドモ、ソレハ明治三十幾年カラ以來ノ二十八年間ニ互ル所ノ數字ニ依テ左様ニ御話ニナリテ居ルノデアリマスケレドモ、大正十年ヨリ以前ハ、我國ニ於テハ米價ノ高低ガ甚シカタ時デアアル、偶ニ米穀法ガ制定セラレテ、其値幅ノ甚シク縮小セラレテ、詰リ變動ノ少クナリタト云フ場合ニ之ヲ當嵌メテ見ルノガ、私ハ適當デアルト斯ウ考ヘルノデアリマスガ、サウスト直線式ニ依ルモノハ、此十年間ニ十七回デアリ、「バラボラ」式ニ依ルモノハ十四回ト云フコトニナルノデアッテ、正ニ東郷君ノ御話ヲ悉ク裏切テ居ルノデアリマス、ノミナラズ直線式ニ依ル場合ニ於テハ、買出動十回ニ對シテ、賣出動ガ七回ニナル、「バラボラ」式ニ依リマス、買出動十一回ニ對シテ賣出動ハ僅ニ三回切リデアルト、若シ「バラボラ」式ニ依テ之ヲ實行スルコトニナリマシタラバ、今マデノ米穀法運用ノ如クデアッテ、買込ムバカリデ賣ル時ガナイカラ、又茲ニ大キナ損失出來スト云フ結果ニ或ハナリハシナイカト、私ハ憂フルノデアリマス、故ニ吾々ハ米穀法ノ目的カラ見テ、多分直線式ニ依リタノガ宜イデアアラウカトハ考ヘマスルケレドモ、併シ右様ナ何レノ法式ヲ選ブノガ適當デアルカト云フガ如キ問題ハ、權威アル專門家ノ研究ニ委ネテ置イタラ宜イコトデアル、吾々ガソレニ付テ、イヤアレデナケレバナラス、是ノ方ガ宜イト云フガ如キコトハ、是ハ慎ンデ、避ケタ方ガ寧ロ當ヲ得タル所ノ態度デアルト吾々ハ考ヘルノデアリマス、ソレカラ胎申君モ亦東郷君モ、率勢米價ノ算出ノ基礎ヲ、日本銀行ノ調査シタル物價指數ニ依ツタコトハ、ドウモ容易ニ承服シ難イト云フ御意見デアリマシタ、勿論日本銀行ノ調査ト雖モ、委員長モ申シマシタ如クニ、絶體ニ完全ナモノデアリマシマイ、絕對ニ完全ナモノデアリマシマイケレドモ、今日此物價指數ニ依テ率勢米價

ヲ算出セントスルナラバ、何レノ調査シタモノニ據ルベキカト云フコトニナリマス、我國ニ於テ今日物價ノ調査ヲ致シテ居リマスモノハ、日本銀行ノ外ニ商工省、或ハ東洋經濟新報社、「ダイヤモンド」社アリ、大阪朝日新聞社ガアルノデアリマス。又其目的ガ必ズシモ一様デハナイ、斯ノ如クデアリマスカラシテ、若シ物價ノ趨勢ヲ知ラウ、物價指數ヲ知ラウト致シマスル時ニハ、日本銀行ノ調査シタモノヲ取り、日本銀行ノ調査ニ依リテ居ルト云フコトハ、今日我國ニ於テ總テニ通ジタル狀態デアリマス。此日本銀行ノ調査ヲ排撃スルコト云フコトハ、吾々トシテ到底爲スベキ事柄デハナイト思フノデアリマス。

ソコデ先刻東郷君モ申サレマシタ如クニ、此日本銀行ノ調査シタル物價ニ依リ、或ハ日本銀行ノ調査シタル居ル品物ハドンナモノガアルカト云フト、其値段ガ次第ニ下降セントスル趨勢ニアル所ノ工業品ト、又次第ニ上進ミテセントスル傾向ヲ持テ居ル所ノ農産物ト、ゴツチヤニシタ平均指數デアルカラ、之ヲ以テ米價基準ノ基礎ニ使フト云フコトハ甚ダ不合理デアルト、斯様ニ委員會ナゾ盛ニ申サレテ居ルノデアリマス、又先程東郷君ノ御話ニ依リマスルト、日本銀行ノ物價指數ト云フモノハ、東京ノ中央市場ニ於テノ物價ニ據テ居ルノデアアル、米ハ東京ハ需用地ノ中心デアアルカラ高イガ、地方ニ行ケバ更ニ下ル、安クナル、所ガ米以外ノ農産物以外ノ農業者ノ需用シナケレバナラヌ品物ニ付テ考ヘテ見ルト、東京ハ供給地デアアルガ故ニ安イ、地方ハ需用地ナルガ故ニ高イ、農業者トシテ見ルト、賣ル物ハ安イシ、買フ物ハ高イ、ソレヲチヤンボンシタ所ノモノデ以テ、此率勢米價ノ基礎ニ用フルト云フコトハ、農業者トシテハ甚ダ堪ヘ難イコトデアルト云フヤウニ申サレタノデアリマス、併シ若シ日

本銀行調査ノ指數ヲ基礎ニシテ、率勢米價ヲ算出シテ行タト致シマスレバ、米ノ高イ、サウシテ米以外ノ雜貨ヤ其他ノ品物ノ値ノ安イ、其處ヲチヤンボンセラレタル所ノ指數ト云フモノハ、是ハ米ノミニ付テ考ヘテ見マスルナラバ、其率勢米價ノ結果ヲ割合ニ高ク出サシメルコトニナルノデアリマスカラ、其意味ニ於テ吾々ハ日本銀行ガ東京ノ中央市場ニ於テ調ベタ卸賣價基礎ニシテ、而シテ出上リタ其指數ニ依リ、此率勢米價算出ニ用フルト云フコトニ付テハ、何等異議ヲ挟ムベキモノデナイト考ヘルノデアリマス。

ソレカラ又或ハ米價ノ基準——最高最低ノ基準ヲ定メルナラバ、ソレハ最低ハ生産費デアアル、最高ハ消費者ノ即チ家計費中ノ米價ト云フコトニシタナラバ宜イデハナイカ、ソレニムツカシイ率勢米價ナゾト云フモノヲ引張出シテ來テ、ソレヲ兎ヤ角シヨウト云フカラ、甚ダ問題ガムヅカシクナルノデアルト云フ意味ニ於テ、段々御話ガアリマシタガ、此御意見ハ私モ一理アル見解デアルト認メマス、併ナガラ御承知ノ如クニ經濟上ノ現象ハ、種々ナル經濟的事情關係ノ結合デアリマスカラ、米價ノ最高最低基準ヲ定メルニ致シマシテモ、家計費ノ米代、米ノ生産費、唯此二ツノモノダケデ、最高最低ヲ定メルト云フノデハ、ドウシテモ實際問題トシテ誤差ガ多ク出來テ來ルト云フコトヲ考ヘナケレバナラヌノデアリマセウ、一ツノモノニ依リテ定メルヨリハ、二ツノモノヲ適當ニ按配シテ決メルト云フコトガ、確ニ公正ヲ得ル所以デアルト吾々ハ考ヘルノデアリマス(拍手)此意味カラ致シマシテ、唯生産費ト米價ダケデ、家計費中ノ米代ダケデ以テ、最高最低價段ヲ決メタナラバ宜イデハナイカト云フ、單純ナル御議論ニ對シマシテハ、吾々ハ之ニ賛成スルコトガ出來ナイノデアリマス(拍手)ノミナラズ更ニ觀察ノ方面ヲ一轉シテ見マスル

ト、家計費ト云ヒ、又生産費ト云ヒ、政府ガ今日考ヘテ居リマスル所ノヤリ方ハ、其年其年一年限リノ調査ノ結果ヲ、直チニ最高最低ノ基準價格ノ決定ニ應用シヨウト、斯ウ云フノデアリマス、サウシテ其生産費ト云ヒ、家計費ト云ヒ、是モ亦種々ナル經濟上ノ事情ニ依リマシテ、年々上リ下リタリ上リタリスル所ノ其モノヲ、直チニ基準ノ決定ニ用フルト云フコトニ致シマスルナラバ、據テ定メラレタル所ノ最高最低價格ト云フモノガ、又年々或ハ多ク上リ、或ハ多ク下リシテ、其變動、其異動ハ必ズ大キイモノデアラウト思フノデアリマス、然ルニ今茲ニ長イ間ノ經驗ニ依リ、出來テ來タ所ノ實績ノ上カラ上リテ來タ所ノ、ソレ程波ヲ打ウコトノ少イ率勢米價ト云フモノヲソコニ加ヘテ、サウシテ以テ生産費ト家計費ト互ヲ之ヲ適當ニ調査シテ行タト致シマスルト、年々定メラレベキ所ノ最高最低ノ基準價格ト云フモノハ、又生産費、家計費ノミニ依ルモノヨリモ、其變動ノ差ガ少クシテ、故ニ米價ガ安定スルト云フ結果ヲ來スモノデアルト思フノデアリマス(拍手)又特ニ東郷君及ビ胎中君ハ、當分ノ間率勢米價一本デ行タト云フコトニ付テ、盛ニ其反對意見ヲ述べラレタノデアリマス、併ナガラ此米穀法ノ附則ノ第二項ニ申シテ居リマスル所ノ、當分ノ間ト云フ事柄ニ付テ、吾々ハ東郷君ヤ胎中君ノ御考ニナツテ居ルヤウニハ考ヘテ居リマセウ、即チ第一回ノ調査ガ出來タナラバ、直チニ是ハ本法ノ運用ニ適用シ得ルモノダト云フ所ノ確信ヲ持テ居ルノデアリマス、何故ソレヲサウ申スカト言ヘバ、此生産費ヲ調査スルコト、家計費ヲ調査スルコト云フコトハ、成程政府ハ其正確ナルコトヲ欲シマスルガ故ニ、ズツト續イテヤル所ノ方針デ居ルコトハ事實デアリマス、併ナガラ何年續イテヤルテ見タ所デ、其前ノ年ノ今年ニ用フル、又今年ノ

分ヲ來年ニ用フルト云フダケデアラ、今年ノ基準價格ノ決定ニ用ヒマスル所ノ、其生産費ト云ヒ、家計費ト云フモノハ、一昨年ノ分ト去年ノ分ヲ合セテ平均ニシテ、今年ノ分ニ持テ來ルト云フヤウナコトヲスルノデハナイノデアリマス、一年調ベタモノハ直チニ其翌年ニ應用スル、ソレヨリ以前ノ分ハ最早不用ニ屬スルノデアリマス、此事實カラ考ヘテ行キマスルナラバ、何モ二年、三年、四年ト云フガ如キ長イ歲月ヲ待テ居ル必要ガナイ、唯ソレダケノ長イ歲月ヲ費シタ結果ト云フモノハ、調査ノ上ニ慣熟スルト云フ事實ガアルデアリマセウ、經驗ガ出來ルト云フ事實ハアルデアリマセウケレドモ、併ナガラ得ル所ハ唯ソレダケノモノデアラ、率勢米價ヲ見ルトカ、米ノ平均價格ヲ知ルトカト云フヤウナコトハ、全然是ハ關係ガ違フノデアリマスルカラ、吾々ノ信ズル所ニ依レバ、唯、今年ノ四月カラ十一月マデ掛ッテ、今年ノ米ノ生産費ヲ調査スル、今年ノ九月カラ來年ノ八月マデ掛ッテ家計費ヲ調査スル、サウシテ家計費ノ調査ニ付テハ、全國二千人ノ家ニ就テヤル、生産費ノ調査ニ付テハ全國一千三百戸ノ農家ニ就テヤル、ソレニハ政府ヨリシテ一定ノ様式ヲ示シテ、其様式ニ當嵌マルヤウニ親切ニ、又嚴格ニ之ヲ指導監督シテ行タト云フノデアリマスルカラ、之ニ依リテ今年ノ四月カラ十一月マデニ調ベ上リタ所ノ米ノ生産費ト云フモノハ、今年ノ十二月ニ於テ決定サルベキ所ノ基準價格ノ上ニ相當作用サシテ、吾々ハハチットモ誤リナイモノト思フデ居リマス(拍手)隨テ此一本デ行タト云フ、所謂當分ノ間ト云フコトハ、畢竟スルニ如何ニ長ク見タ所ガ來年ノ十一月マデダケノ話デアアル、ソレマデノ間モ、一本デ行タコトニ付テハ危クテ頼ル譯ニ行カナイト云フガ如キモノデアルトハ、吾々ハ常識的ニ見テ考ヘナイノデアリマス(拍手)即チ此委員會ニ於テ、關矢孫一君

ガアノ希望條項ヲ付シタト云フ所以ノモノ
ハ、畢竟ズルニ之ニ基イテ居ルノデアリマ
スカラ、左様ニ三年先ニナッタラバ調ベガ
出來ルコトダカ、或ハ五年先ニナッタラ
出來ルコトダカ、心配デ堪ラヌト云フガ如キ御
心配ハ、一切御無用ニ御願致シテ置キタイ
ト思フノデアリマス(拍手)

斯様ナル次第デアリマスルカラ、米穀法
ノ過去ノ事績カラ考ヘマシテ、サウシテ今
日ノ米穀法ノ實際ノ状態カラ考ヘマシテ、
將來ノコトヲ考ヘテ行キマス時ニ、吾々ハ
斯ノ如キ趣旨ノ含マレテ居リマスル所ノ此
改正案ト云フモノハ、一日モ速ニ實行スル
コトガ、即チ國民ノ爲デアルト同時ニ、生
産者タル農業者ノ爲ニモ、其利益ヲ擁護ス
ル所以デアアルコトヲ信ジマスルカラ、吾々
ハ進ンデ此改正案ニ賛成スル者デアリマス
(拍手)

又米穀需給調節特別會計法ノ改正ニ關シ
マシテハ、政友會ノ諸君モ御賛成ノヤウデ
アル、デアリマスルカラ、其御賛成ヲナサ
ル所ノ趣旨ニ於テ異ナル所アリト致シマシ
テモ、其結果ハ同一デアリマスルガ故ニ、
敢テ多ク申上グル所ノ必要ハナイト思フ
デアリマス、唯私ハ此機會ニ於テ一言致シ
テ置キマス、成程米穀調査會ノ答申ニ依リ
マスレバ、政府ハ米穀法改正ノ機會ニ於テ
今日ノ現存シテ居ル所ノ其損失ヲ一般會計
ニ移シテ、之ヲ整理スベシト申シテ居ル
デアリマスルガ、今回ノ場合ニ於キマシテ
ハ、ソレガ實現致シテ居ラナイ、是ハ吾々
ニ於キマシテモ聊カ不本意ニ存ジマスガ、
併ナガラ本會議ニ於テ、又特別委員會ニ於
テ、此問題ニ關シマシテハ當局大臣ヨリ十
分誠意ヲ示シテ答辯ヲ致シテ居ル次第デア
リマシテ、必ズ速ニ其實行ヲスルト云フ
デアリマスルカラ、吾々ハ當局ノ意ノ在ル
所ヲ諒トシテ、其言明ヲ信ジテ、今日ハ政
府ノ意ニ任シテ置クノガ適當デアルト思フ
ノデアリマス(拍手)又或ハ八千万圓ヲ一時

増額スルト云フコトニ關シマシテ餘リニソ
レハ姑息デアアルト云フガ如キ感シテ御持チ
ニナル方モアルカモ知レマセヌガ、吾々ガ
此八千万圓ノ増額ニ賛成スル趣旨ハ、曩ニ
第五十六議會ニ於キマシテ、七千万圓ノ増
額ニ賛成シタ趣旨ト同一デアリマス、而シ
テ八千万圓ノ増額シタダケデハ、或ハ今後
米穀法ノ發動ニ對シテ十分備ヘルニ足リナ
イト云フガ如キ、御懸念ノ方モアルデアラ
ウトハ存ジマスルガ、併シナガラ吾々ガ此
八千万圓ノ増額ニ賛成スル意思ハ、政友會
内閣當時ニ於テ、漫然ト唯損失ヲ補充スル
ト云フ意思ダケデ以テ賛成シタノトハ、稍
其根柢ヲ異ニ致シマシテ、吾々ハ此八千
萬圓ノ金ガ、現實使ヒ切レナイデアリマス
ル間ニ、必ズ此一億五千万圓ノ現在ノ損失
金ハ立派ニ整理セラル、モノデアリ、是ガ
整理セラル、限リニ於テハ、茲ニ八千万圓
補充シテ置クコトニ依ッテ、此米穀法ハ十分
ニ其威力ヲ發揮シ得ル所以ノモノデアルト
云フコトヲ確信致シマシテ、此増額ニ賛成
スル次第デアアルノデアリマス、私ハ以上述
ベタ所ヲ以チマシテ、即チ茲ニ委員長ノ御
報告ニ賛成スル次第デアリマス(拍手)

○議長(藤澤幾之輔君) 松山常次郎君
(松山常次郎登壇)
○松山常次郎君 諸君、私ハ米穀法改正案
ニ對シテハ反對デゴザイマス、米穀需給特
別會計法ノ改正ニ對シテハ賛成デゴザイマ
ス、前ニ演說セラレマシタル胎中君、東郷
君ノ演說ト重複スルコトヲ避ケマシテ、私
ノ演說ハ米穀法ノミニ限リタイト思フノデ
アリマス、特ニ率勢米價ノ方面カラ之ヲ論
議致シタイト考ヘルノデアリマス(拍手)

只今村上君ガ演說サレタノヲ拜聴致シテ
居リマシタガ、非常ニ重大ナル一ツノ事實
ニ觸レラレタノデアリマス、ソレハ何カト
申シマスルト、米穀法ガ大正十年ニ制定セ
ラレテ以來、今日マデ多ク買ニ發動致シテ
居ルト云フコトノ事實ヲ述ベラレタノデア
リマスガ、此事ニ付キマシテハ、私ハ少シ
ク自分ノ意見ヲ述ベテ見タイト思フ、是ハ
非常ニ大切ナル事實デアリマスカラ、一ツ
能ク聽イテ載キタイト思ヒマス
今度ノ此米穀法ノ改正ニ於テ、米價ノ基
準ヲ決定スル標準ト致シマシテ、政府ハ米
穀ノ生産費ト家計費ヨリ算出シタル米價ト
云フモノヲ標準ニ致シテ居ルノデゴザイマ
ス、所ガ此米穀ノ生産費ト、通常ノ米價ト
ノ間ノ開キガ極メテ近イノデアリマス、家
計費カラ算出シタル米價トノ開キガ非常ニ
多イ、今年ノヤウナ年ハ特別デゴザイマス
クレドモ、先程カラノ演說ヲ承テ居リマス
タ所ニ依リマス、斯ウ云フコトニナッテ居
リマス、率勢米價カラ出シテ來タ米價ハ今
二十二圓デアアル、家計費カラ計算シタモノ
ハ、農林省ノ出シタモノハ二十一圓デアアル、
帝國農會ノ出シタモノハ二十六圓デアアル、
實際ノ米價ハ十八圓デアアル、率勢米價ノ二
割下値ヲ言ウテモ十八圓デアアル、然ルニ實
際ノ米價ハ十八圓、一度ハ十七圓、十六圓
マデ下ッタ、斯ウ云フ事實デゴザイマス、故
ニ此米價ノ下値ト見ルベキ米穀ノ生産費ト
米價トノ距離ハ、非常ニ近イノデアリマス、
故ニ少シ米價ガ下レバ、直グ農民ガ堪ヘラ
レナイ、ヤカマシク言フテ居ル、ダカラ此米
穀法ガ發動シナケレバナラスコトニナル、
生計費カラ算出シタル米價ガ、上ノ限界トノ
距離ガ極メテ廣イノデアリマス、故ニ此米
穀法ハ、今後ト雖モ買ニ於テ多ク發動スルト
云フコトハ當然ノコトデアリマス、委員會ニ
於テ關シ君ガ希望條件ヲ提出スルニ付テ、ソ
レヲ説明セラレタ中ニモ其中ニモ其事ニ觸レ
テ居リマス、米價ト云フモノハ、今日ノ農
民ノ收入ノ大部分ヲ成ス、然ルニ生計費ノ
方カラ言ヘバ、其一部分ニ過ギナイ、故ニ
農民ノ利益ノ爲ニ多ク圖ラナケレバナラス
云々ト述ベラレテ居リマス、今日ノ社會ノ
實際ニ鑑ミマシテ、米價ノ状態ガ、農民ノ生
産費ト云フモノニ極メテ迫ッテ來テ居ルノデ

アリマス、是ガ私共ノ農村ノ爲ニ常ニ心配
スル譯デアリマシテ、私共ハ此米穀法ヲ審
議スルニ付キマシテ、其事ヲ考ヘテ居ラナ
ケレバナラス、消費者ノ方面ニハ餘裕ガア
リ、生産者ノ方面ニハ餘裕ガ無イ、此事實
ヲ根本的ニ考ヘテ、私共ハ此米價ノ基準ヲ
決定スルコトヲ審議シナケレバナラスト思
フノデアリマス(拍手)

政府カラ與ヘラレマシタル計算表及圖表
ニ付テ調べ見マスルニ、此米穀法改正案
ニハ多クノ缺點ガアルコトヲ私共ハ發見致
スノデアリマス、其第一ヲ先ヅ申上ゲテ見
タイト思ヒマス
米穀法ガ始めテ制定セラレタノハ大正十
年四月デアリマスガ、ソレヨリ以來、今日マ
デ米穀法ノ發動シタコトガ十三回デアリマ
ス、然ルニ此改正法律案ガ實施セラレテ居
タトスレバ、此法律ノ發動ハ五回ダケトナ
リマス、即チ此改正法律案ニ依レバ、米ノ
調節作用ハ非常ニ鈍感ナモノトナッテシマ
ヒマス、今村上君ノ御演說ヲ承テ居リマ
ス、此米穀法ノ發動ハ十年以來米價ガ十回
トカ、賣ガ七回トカ言フテ居リマスガ、是ハ
マルデ政府カラ貰フ表ノ見方ヲ知ラナイ
ノデアリマシテ、ドウカモウ一遍政府ニ能
ク其表ノ見方ヲ教ヘテ貰フテ、御研究ニナル
コトヲ希望致シマス、政府カラ與ヘラレタ
表ニ依ルト、五回發動シタコトニナッテ居ル
ノデアリマス、但シ是ハ率勢米價ノ上値ニ
割ト云フモノヲ標準トシテ私ガ申シタノデ
アリマシテ、若シ政府ガ今爲サウト致シテ
居リマスル生計費ノ調査ガ出來テ、ソレカ
ラ算出シタル米價ト云フモノヲ御考ニ加ヘ
タナラバ、恐ラク此五回ガ二回カ三回ニ減
テシマヒマス、サウ云フヤウナ譯デ、此米
穀法ガ出來マスト、殆ド此米穀法ハ米價調
節ニ對スル機能ヲ失テシマフト云フコト
ニナルノデアリマス(拍手)

ソレカラモウ一ツノ事實ヲ指摘致シタイ
ト思ヒマス、大正七年度ノ場合ヲ調べマ

スル譯デアリマシテ、私共ハ此米穀法ヲ審
議スルニ付キマシテ、其事ヲ考ヘテ居ラナ
ケレバナラス、消費者ノ方面ニハ餘裕ガア
リ、生産者ノ方面ニハ餘裕ガ無イ、此事實
ヲ根本的ニ考ヘテ、私共ハ此米價ノ基準ヲ
決定スルコトヲ審議シナケレバナラスト思
フノデアリマス(拍手)

政府カラ與ヘラレマシタル計算表及圖表
ニ付テ調べ見マスルニ、此米穀法改正案
ニハ多クノ缺點ガアルコトヲ私共ハ發見致
スノデアリマス、其第一ヲ先ヅ申上ゲテ見
タイト思ヒマス
米穀法ガ始めテ制定セラレタノハ大正十
年四月デアリマスガ、ソレヨリ以來、今日マ
デ米穀法ノ發動シタコトガ十三回デアリマ
ス、然ルニ此改正法律案ガ實施セラレテ居
タトスレバ、此法律ノ發動ハ五回ダケトナ
リマス、即チ此改正法律案ニ依レバ、米ノ
調節作用ハ非常ニ鈍感ナモノトナッテシマ
ヒマス、今村上君ノ御演說ヲ承テ居リマ
ス、此米穀法ノ發動ハ十年以來米價ガ十回
トカ、賣ガ七回トカ言フテ居リマスガ、是ハ
マルデ政府カラ貰フ表ノ見方ヲ知ラナイ
ノデアリマシテ、ドウカモウ一遍政府ニ能
ク其表ノ見方ヲ教ヘテ貰フテ、御研究ニナル
コトヲ希望致シマス、政府カラ與ヘラレタ
表ニ依ルト、五回發動シタコトニナッテ居ル
ノデアリマス、但シ是ハ率勢米價ノ上値ニ
割ト云フモノヲ標準トシテ私ガ申シタノデ
アリマシテ、若シ政府ガ今爲サウト致シテ
居リマスル生計費ノ調査ガ出來テ、ソレカ
ラ算出シタル米價ト云フモノヲ御考ニ加ヘ
タナラバ、恐ラク此五回ガ二回カ三回ニ減
テシマヒマス、サウ云フヤウナ譯デ、此米
穀法ガ出來マスト、殆ド此米穀法ハ米價調
節ニ對スル機能ヲ失テシマフト云フコト
ニナルノデアリマス(拍手)

ソレカラモウ一ツノ事實ヲ指摘致シタイ
ト思ヒマス、大正七年度ノ場合ヲ調べマ

ルニ、其年ノ七月ニ率勢米價上値二割ヲ米穀ガ突破シテ居リマスカラ、此時米穀法ガ賣却ニ向テ發動スル譯デアリマス、然ルニ其七月ニ彼ノ米穀動ガ勃發シテ居リマスカラ、此米穀法ガ實施セラレテ居、彼ノ米穀動ハ防止シ得ナカッタコトニナリマス、又昭和六年度ノ率勢米價下値二割ハ十八圓二十八錢デアリマスカラ、ソレマデハ此米穀法ハ買入ニ發動シナイ、近頃米價ハ一時十七圓ニモ下リマシタガ、農家ハ二十三圓圓頃カラ騒イデ居、政府ハ米穀調節審議會ヲ開キナドシテ居ル間ニ、米價ガ釣瓶落シニ下、十七圓ニモナッタノデアッタ、若シ十八圓二十八錢ニナルマデ政府ガ米價調節ヲシヨウトモシナイトスレバ、生産者タル農家ハタマツタモノデハナイ、今日米價最低價格ガ十八圓二十八錢デアリスレバ、ソレハ生産費或ハ農家經濟ノ側カラ見テ忍ビ得ル所デハアリマセヌ、私ハ委員會ニ於テ此二點ヲ指摘シテ、政府ノ採用セル直線式率勢米價ヨリモ「バラボラ」式率勢米價ノ方ガ實際ニ適合シテ居ルヤウニ思フカラ、之ヲ計算シテ配布シテ貰ヒタイト云フコトヲ要求致シマシタ、サウシテ出來タ表ニ依リマスルト、大正七年ニ米穀法ガ賣却ニ發動スルノハ三月トナッテ居ル、故ニ七月ノ米穀動ハ優ニ防ギ得タ譯デアル

又昭和六年度ノ率勢米價下値二割ハ十九圓七十三錢トナッテ居ル、之ヲ直線式ノ十八圓二十八錢ニ較ブレバ、一圓四十五錢ノ増加トナルノデ、米價ガソレダケ維持セラル譯デアリ、農家ノ苦痛ヲソレダケ軽減シ得ル譯デアル、是カラ考ヘテ見テ「バラボラ」式ノ率勢米價ハ直線式ノ率勢米價ニ較ベテ、餘程實情ニ適スルモノト言ヒ得ル譯デアリマスガ、此直線式ト「バラボラ」式トノ比較ニ付テハ、後程更ニ申述ブル事ニ致シマス政府ノ説明ニ依レバ、率勢米價ハ米價率ノ趨勢値ト、一般物價指數ト、米價指數ノ基礎ノ價格十一圓八十一錢、是ハ明治

三十三年深川米市場標準中米ノ價格デアリガ、此三ツヲ乘ジテ算出スルコトニナッテ居リマス、毎年ノ基準價格タル率勢米價ノ決定ハ、前年ノ十二月ニ於テ之ヲ爲ス、而シテ此算定ニ用フル一般物價指數ハ、其前月即チ十一月ニ於ケル日本銀行物價指數ニ之ヲ取ルコトニナッテ居リマス、故ニ日本銀行十一月ノ物價指數ガ算定セラルレバ、直チニ其後一箇年ノ米價ヲ支配スベキ率勢米價及ビ上値二割、下値二割ノ最高最低價格ガ決定セラレル、例ヘバ昭和五年度ノ率勢米價ハ二十九圓四十六錢デアアル、昭和六年度ノ率勢米價ハ二十二圓八十五錢デアアル、即チ昭和六年度ハ前年度ニ比シテ率勢米價ニ於テ六圓六十一錢低下シテ居ル、而シテ上値二割ニ於テ七圓九十三錢、下値二割ニ於テ五圓二十九錢低路スル譯デアリマス、此數字ハ相場師ニ取テハ可ナリ大ナル獲物デアリマス、此事實ヲ二日或ハ五日前ニ知り得タナラバ、隨分大仕事ガ出來ル筈デアル、此十一月ノ物價指數ガ日本銀行ヨリ農林省ヘ通知セラレ、農林省ヨリ發表セラ、マデノ間ニ於テ、秘密ガ漏レヌト云フコトハ誰カ保證シ得ルデアリマセウカ、ソレノミナラズ率勢米價ノ上値二割ト下値二割トノ間ハ、全ク米價變動ヲ自由ニ放任シ置タコトニナルカラ、相場師ノ活動自在タル道理デアル、此改正米穀法ガ實施セラル、コトニナレバ米價ハ却テ相場師ニ弄バル、結果ヲ來スデアラウト思ヒマス（拍手）

次ニ考フベキコトハ最高最低ノ價格ノ決定ニ付テ「バラボラ」式、政府ヨリ配布セラレタル率勢米價ノ説明ト云フ「パンフレット」ニハ、米穀生産費ト率勢米價ノ下値二割ニ相當スル價格トノ間ニ於テ、適當ト認ムル價格ヲ以テ最低價格トスルト書イテアル、適當ト認ムル價格トハ何カトノ質問ニ對シ、農林大臣ハ其時ノ世情ニ考ヘテ斟酌スルノデアルト答ヘラレマシタ、然ラバ米穀生産費ト率勢米價下値二割ノ價格ト何レヲ重ク

見ルカトノ質問ニ對シ、同等ニ見ルト答ヘラレマシタ、米穀生産費ハ近々此議會ニ十二萬圓ノ追加豫算ヲ提出シ、協賛ヲ得レバ調査ニ著手スルノデアアル、本當ニ此生産費ヲ調査スル爲ニハ今後十年モ掛ルサウデアリマスガ、農林大臣ハ來年度ノ率勢米價ヲ算出スル時、即チ本年十一月迄ニ十分ナガラモ可ナリ使用ニ堪ユル米穀生産費ヲ摺ミタイト云フ、熱心ナル希望ヲ持テ居ラルル意思ヲ發表セラレマシタ、生産費ト云フモノハ、斯ノ如ク大層ナ努力ノ結果得ラルベキ貴イ數字デアリマス、率勢米價ト云フモノハ後ニ詳シク説明致シマスガ、學理上ノ根據ナク、實際ニ適合シナイ、謂ハ、好イ加減ナ數字、學者ノ遊戲位ヨリ以上ニ評價スル價值ナキ數字デアアル、ノミナラズ此二割ト云フハ如何ニシテ決メタカト質問シマシタ所ガ、石黒政府委員ハ斯ウ云フヤウニ答ヘテ居リマス「明治三十四年以來ノ各米穀年度内ニ於キマス平均米價ト云フモノニ對シマシテ、其一米穀年度内ニ於ケル最高米價ト最低米價トノ開キヲ見マスルト、ソレハ長年ノ平均ニ於キマシテ一割ハ分二厘何モト云フコトガ出マス、上ノ方ニモ一割八分二厘、下ノ方ニモ一割八分二厘ト云フ風ニ出マス、ソコデソレヲ二割ト見マシテ、サウシテ其間ノ幅ト云フモノハ、米ノ取引ノ上ニ於テ年々アリ得ル平均ノ動キデアル、斯ウ見マシテ、其間ハ米ノ取引ノ自由ニ任シテ、調節賣ニモ調節買ニモ出ナイデ宜シイ幅デアアル、斯ウ認メマシタ次第デアリマス」斯ウ云フ風ニ政府委員ハ答ヘテ居ルノデアリマス、即チ此二割ト云フ數字ハ、極メテ大雑把ナ假定的ナ數字デアアル、即チ此率勢米價下値二割ト云フ數字ハ、全ク腰ダメナ數字ニ過ギナイノデ、農家ノ安危ヲ支配スルヤウナ、大切ナル意義ヲ持タシムベキ性質ノモノデハナイノデアリマス（拍手）ソレヲ非常ナ努力ニ依テ調査シタル米穀生産費ト同等ノ重要

サヲ持タセテ、最低價格ヲ決定シヨウト云フノハ、全ク此率勢米價ノ何モノデアルカヲ解セズ、唯最小ニ乘法ト云フ計算ノムツカシイ數字ヲ應用シテ算出シタモノデアアルカラ、定メシ有意義ナ正確ナ數字デアラウト過信シテ結果デアラウガ、全ク金ト鉛トヲ混合シテ其平均ヲ執ルト云フヤウナ仕方デアリマス、最高價格決定ノ方モ同様デアリマス、家計費ノ調査ハ同ジク今度六萬圓ノ追加豫算ヲ出シテ、是迄調査ヲ行テ居ル便宜モアルカラ、内閣統計局ヘ委託シテ調査スルコトニナルサウデアアル、其嚴密ナ調査ノ上決マルベキ家計費ヨリ算出セラル、米價ト、腰ダメノニ算定セラル、率勢米價上値二割ト同等ニ取扱テ、此二者ノ間ニ於テ最高價格ヲ定メヨウト云フノデアアル、六千萬國民ノ生活ニ重大ナル關係ヲ持チ來ルベキ米ノ最高價格ヲ、斯ノ如キ非合理的ナ方法ニ於テ政府ハ之ヲ定メヨウト致シテ居ル、ソレカラ此率勢米價下値二割、上値二割ト云フモノハ、米穀生産費、家計費ノ調査セラル、迄ハ、最低價格、最高價格トシテ用ヒラル、ノデアアルカラ、更ニ詳細ニ研究シテ見ル必要ガアルト思フノデアリマス（拍手）即チ米穀生産費ハ下値二割ヨリモ多ク場合大キイ、之ヲ能ク考ヘテ下サイ、例ヘバ今日ノ下値二割ハ、政府ヨリ配布セラレタル表ニ依レバ十八圓二十八錢デアアル、而シテ米穀生産費ハ、最近農林省ヨリ昭和五年度米穀生産費トシテ發表シタモノガ二十一圓三十五錢デアアル、帝國農會ノ第二次計算ハ二十六圓三十五錢デアアル、吾々ハ此場合ニ於テ帝國農會ノ方ガ確ナモノト思ヒマスガ、其事ハ半程胎中君カラ申サレマシタカラ、此事ニ付テハ申シマセヌガ、兎ニ角二十一圓二十六錢ト云フモノガ出テ居ルノデアリマス、然ルニ拘ラズ下値二割ハ十八圓ト云フモノニナッテ居ルノデアリマス、要スル農林省調査二十圓三十五錢デモ、帝國農會調査二十六圓

三十五錢デモ、率勢米價ノ下値二割十八圓二十八錢ヨリモ大キイト云フ事ガ分レバ此場合宜シイノデアル、此米穀生産費ト下値二割トノ間ニ於テ、適當ト認ムル價格ヲ以テ最低價格ト定メルト云フノデアルカラ、此最低價格ハ率勢米價ニ對スル割合ハ下値二割ヨリモ大キイ、即チ下値デ言ヘバ二割ヨリモ少ナイ割合ニナル、次ニ最高價格ハ家計費ノ調査ニ依リ算出セラル、米價ト率勢米價ノ上値二割ニ相當スル價格トノ間ニ於テ、適當ト認ムル價格ヲ以テ定メルト云フノデアルガ、此家計費ヨリ算出セラルル米價ナルモノハ、通常率勢米價ノ上値二割ヨリモ大キイ、先程胎中君ガ申サレタガ、政府ノ出シテ居ル表ハ四十七八圓ト云フコトニナッテ居ルト云フコトデアル、故ニ最高價格ハ率勢米價ノ上値トシテ見レバ、其割合ハ通常二割ヨリモ大キクナル、即チ最低價格ハ率勢米價ノ下値二割ヨリモ割合ガ少クナルシ、最高價格ノ方ハ通常二割ヨリモ大キクナルノデアルカラ米穀生産費、家計費ノ調査ノ出來ル迄、率勢米價ノ上値下値ノミヲ以テ最高、最低價格ヲ決定スル場合、上値ノ方ハ下値ノ方ヨリモ割合ヲ大キクスルコトガ合理的デアルト思フ、即チ腰ダメ的ニ言フナラバ、上値二割ヲ最高價格トスルナラバ、下値一割五分ヲ最低價格ト定メルコトガ、一層合理的ト思フ(拍手)是ハ民政黨ノ人モ同感デアル、民政黨ノ人ガ希望條件ヲ説明スル時ニモ此事ハ述ベテ居リマス

以上申述ベマシタ所ニ依ッテ、此改正法律案ニ於テ使ハントスル率勢米價ナルモノハ、其適用上幾多ノ不都合ガアルト云フコトヲ明カニシタト思フ

第一ニ、是ハ米ノ調節ヲ行フ作用ガ甚ダ鈍クナル、大正七年ノ米騒動モ是デハ豫メ防ギ得ナイ、今日米ノ價格十八圓二十八錢デハ農家ガ堪ラナイ

第二ニ、日本銀行ノ物價指數ヲ取ルコトハ、相場師ニ惡用セラル、虞ガ甚ダ多イ、故ニ此米穀法ガ實施セラレ、バ、相場師ノ活動ヲ許スコトニナリ、米價ノ投機的波瀾ガ繁クナル虞ガアル

第三ニ、最高及最低價格ノ決定ニ於テ多クノ不合理ナ點ガアル、而シテ其結果農家ガ多大ノ損失ヲ蒙ルコトニナル是等ノ事ニ付テ大體説明ヲ致シタ譯デアリマス

次ニ先程率勢米價ノ算出方法ニ付テ、直線式「バラボラ」式ト云フ言葉ヲ使ヒマシタガ、此場合此意義ヲ説明シタイト思フ、前ニ申シマシタルガ如ク、率勢米價ハ基準米價ト、一般物價指數ト、米價率トノ趨勢値トノ積ヲ以テ算出スルコトニナッテ居ル、此米價率ノ趨勢値ノ算出方法ヲ政府ハ直線式ヲ採リ、委員會ニ於テ私ガ「バラボラ」式ノ計算ヲ要求致シタ、「バラボラ」トハ拋物線デアリマス、向フヘ物ヲ抛ゲタ時ニ、地球ノ引力ガ作用シテ描ク所ノ線デアリマス、大砲ヲ發射シタ時ニ描ク所ノ彈道、是ガ拋物線即チ「バラボラ」デアリマス、私ハ先程カラ御話シタルガ如ク、直線式デ計算シタル率勢米價、政府ガ今度採用セントスル率勢米價デハ、其適用上幾多ノ不都合ガアルト認メマシタ、「バラボラ」式ノ趨勢價カラ算出シタル率勢米價ナラバ、幾分是等ノ不都合ヲ除去スルコトガ出來ルデアラウト想像セラレマシタ(拍手)是ガ算出ヲ政府ニ要求致シタノデアリマス、其結果ヲ見マス、果シテ幾分不都合ガ緩和セラレタ事ヲ發見スル

今ヨリ米價率ノ趨勢値ヲ算出スルニ付キ「バラボラ」式ト直線式トノ特徵比較シテ見マス、是等ヲ算出スルニ用フル實驗的範式ハ、西ヶ原農事試驗所長安藤農學博士ガ非常ナル努力ノ結果算定シ得タモノデアリマスカラ、同博士ニ敬意ヲ表スル意味ニ於テ、又研究家ノ參考トモナラウト思ヒマス

ラ、茲ニ讀ミ上ゲマスコトハ略シマスケレドモ、議長ノ御許ヲ得テ速記録ニ留メテ置キ度イト思ヒマス(拍手)是ヨリ直線式ノ場合ト「バラボラ」式ノ場合トノ趨勢値ノ比較ヲ致スニ付キ、之ヲ圖表ニ現ハス場合、横軸ニ於テ明治三十三年度以後ノ年次ヲ現ハシ、縦軸ニ於テ趨勢値ヲ表示スルト致シマス、直線式ノ場合ハ、趨勢値ハ起點ヲ一〇一七六七トシ、ソレヨリ水平線トノ間ニ零度十九分ノ角度ヲ保ッテ直線ヲ描イテ、年次ノ進ムト共ニ一定ノ傾向ニ於テ上ッテ行クノデアル、「バラボラ」式ノ場合ハ、趨勢値ヲ表示スル曲線ハ、年次ノ進ムニ從ヒ「バラボラ」即チ拋物線ヲ描イテ變化シテ行クノデアル、趨勢値ハ直線式ノ場合ハ、一定ノ傾向ヲ保ッテ直線的ニ増加シテ行クノデアルガ「バラボラ」式ノ場合ハ、稍、複雑ナル傾向ヲ保ッテ拋物線ニ變化シテ行クノデアル、起點ニ於テハ一〇一三三ノ値ヲ保ツ、即チ直線式ノ場合ヨリモ上ニアル、ソレカラ漸次下ッテ明治四十三年七月ノ頃最低ノ位置ニ達スル、ソレカラ漸次増加シ始メテ、大正十年二月頃起點ト等シキ高サニ達スル、ソレヨリ以後ハ拋物線ノ傾向ニ於テ増加スル一方デアル、初メニ趨勢値ガ低下スル途中、明治三十九年十一月頃直線式趨勢値ノ線ヲ切ッテ其下ニ出ル、而シテ大正十三年二月頃再び直線式趨勢値ノ線ヲ切ッテ上ニ出マス、故ニ大正七年頃ハ「バラボラ」式趨勢値ハ直線式趨勢値ノ下ニアリマスカラ、隨テ上値二割ノ線モ「バラボラ」式ノ方ガ低ク、米穀法ノ實ニ發動スルコトモ早クナル譯デアアル、政府ヨリ與ヘラレタル計算ニ依レバ「バラボラ」式ハ三月ニ、直線式ノ方ハ七月ニ發動スルコトニナッテ居ル、私ガ前ニ申シマシタ大正七年ノ米騒動ハ、直線式ノ場合ハ豫メ防遏スルコトガ出來ナカッタ、「バラボラ」式ノ場合ハ四箇月前ニ米穀法ガ發動シテ居ルカラ、豫メ防遏スルコトガ出來タト申シマシタ理由ハ、趨勢値ガ

斯ノ如キ狀態ニアルカラデアリマス、大正十三年二月頃ヨリ以後ハ「バラボラ」式ノ趨勢値ハ直線式ノ趨勢値ヨリモ大キクナリマスカラ、率勢米價モ亦大キクナリマス、故ニ大正十三年以後ハ直線式ノ場合ヨリモ「バラボラ」式ノ場合ノ方ガ農家ニ取ッテ有利トナリマス、昭和六年ノ最低價格ニ於テ「バラボラ」式ノ場合ハ、直線式ノ場合ヨリモ、一圓四十五錢高ク維持スルコトガ出來ルト云フコトハ、前ニ申述ベテ置キマシタ米價率、趨勢値算出ニ於ケル直線式ト「バラボラ」式トノ比較ハ此程度ニ於テ止メテ、話ヲ先ヘ進メタイト思ヒマス

次ニ此趨勢値ノ算出ニ付テ……

〔議長々々〕人ノ原稿ヲ讀ムナ(其他發言スル者多シ)

○議長(藤澤幾之輔君) 靜肅ニ願ヒマス、○松山常次郎君(續) モウ少シデス、非常ニ大事ナコトデアリマスカラ聽イテ戴キタイ、此問題ハ私ガ此處デ述ベタラ、學問上ノ爭ノ起ル問題デアリマスカラ、宜イ加減ナコトハ言ヘナイノデアリマス、故ニ私ハ書いて來テ確ナコトヲ速記ニ殘シテ置キタイト思フノデアリマス

次ニ此趨勢値ノ算出ニ於テ、最小自乗法ト云フ高等數學ヲ使ッテ云フコトヲ以テ、此計算ヲ非常ニ權威アルモノ、如ク思ハシメル爲メノ道具ニ、政府側ニ於テ使ハント致シタル爲ニ、此問題ガ大イニ委員會ニ於ケル興味ヲ惹起シタノデアリマスガ、元來最小自乗法ト云フ理論ハ、多クノ實驗ノ中ヨリ誤差ヲ最小トスルガ如キ傾向ヲ見出サシガ爲ニ組立テラレタル理論デアッテ、誤差ノ大ナルモノナキコトヲ前提トシテ居ルモノデアリマス、米價率ノ如キ年々變化ノ甚シキモノニ適用スベキモノデハナイノデアリマス、而シテ之ヲ適用スレバ事柄ヲ單純化シテ、一定ノ傾向ヲ見出スコトヲ得ルガ故ニ、學者ハ好シデスノ如キモノニモ之ヲ應用スル、此場合ニ於テハ學理的根據ガア

ルノデハナクシテ、只「エンピリカル・フォ
ミミュラ」實驗的範式トシテ實用的使用ニ
適スル場合ニノミ有價値デアリマス、然ル
ニ先程ヨリ説明シタルガ如ク、米價率ノ趨
勢値ヲ見出す此實驗的範式ハ、其適用上
都合ガ多イ、故ニ吾々ハ此實驗的範式ニ多
クノ信賴ヲ置クコトガ出來ナイ、之ヲ適用
シテ米ノ最高最低價格ヲ定メ、以テ米ノ調
節ヲ有效ナラシメント企ツル、此米穀法改
正案ノ示ス方法ニ賛成スルコトガ出來ナイ
ノデアリマス

諸君、私ノ理論上ノ議論ハ大體是デ終リ
デゴザイマス、其處デ私ハ此事ニ付キマシ
テハ、町田農林大臣ノ御意見ヲ委員會ニ於
テモ聽イタルデゴザイマスガ、先日或ル貴
族院議員ト私が會々、其人ノ話ニ、貴族院
ニハ學者ヲ勸選議員ニ致シマシテ、隨分偉
イ學者ガ居ル、中ニハ藤澤利喜太郎氏ト云
フガ如キ數學ノ大家ガ居ル、サウ云フ人ハ
勿論此率勢米價ノ理論ノ分ルデセウ、其他
五人バカリハ此理論ノ分ルガアルサウデ
アル、建築ニ於テ柱ノ設計ヲスルト云フヤ
ウナ時ニ、高等數學ヲ、ムヅカシイ數學ヲ
使フト云フコトニハ、別ニ國民ハ左様ニ驕
心ハ持チマセヌ、諸君、此事ハ能ク聽イテ
下サイ、先程カラ村上君モ輪中君モ此事ヲ
話サレタルデアリマスガ、學者ガ研究シテ
吳レタルデアアルカラ、ソレヲ信ズレバ宜イ
デハナイカ、若シ政府ガ斯ウ云フ法律ヲ出
サナイデ、自分デ勝手ニ自分ノ責任ニ於テ
高等數學ヲ使フヤルノデアアルナラバ
宜シイノデアリマス、法律ニ出シテ吾々ノ
責任ニ於テ此法律ヲ制定シヨウト云フ所ニ問
題ガ起テ來ルノデアリマス(拍手)貴族院
デモ是ガ分ルヤウナ人ハ五人位ヨリアルマ
イ、サウ云フヤウナムヅカシイ問題ヲ以テ
吾々ノ所ヘ持テ來ルト云フ所ニ問題ガア
ルノデゴザイマス、此問題ハ其最高最低價
格ヲ決メルト云フコトハ、六千万ノ國民全
體ニ關係アルノデアリマス、消費側カラ申

シマスナラバ、三千万ノ國民全體ニ關係ア
ルノデアリマス、私共ガ選舉區ニ歸テ農家
ノ人ニ會フ、米ガ安タテ困ル、農林省ヘ
行テ米ノ買上ヲ願フ行テモ、米穀法ニハ
率勢米價ノ下値ニ割リ決テ居ルノダカラ、
其值ガ來ルマデハ役人ノ手デハ如何トモスル
コトガ出來ヌト云フ、ア、云フ法律ヲドウシ
テ擔ヘテ下サタト云フコトヲ言ハレタラ、
吾々ハ困ルノデアリマス(拍手)學者ノ説明
ニ信賴セヨト云フガ、サウ云フ譯ニハ行カ
ヌノデアリマス、故ニ私ハ農林大臣ニ斯ウ
云フヤウナムヅカシイ、皆ニ分ラヌヤウナ
方法デ之ヲ出スト云フコトハ、ドウデアアル
カト云フ御意見ヲ尋ネタルデアリマス

元來率勢米價ノ理論ナルモノハ學理上何
等根據ガアリマセヌ(拍手)先程カラ續々申
述ベマシタルガ如ク、實際上甚ダ不都合ナ
ルモノデアリマス、而シテ吾々大多數ノ代
議士ニハ譯ノ分ラヌモノデゴザイマス、而
シテ此最高最低ノ價格ヲ決メルニ一番大切
ナ米穀生産費ト家計費ノ調査ガマダ出來テ
居ラヌノデアリマス、東郷君モ申サレマシ
タガ如ク、ソレナラバソレガ出來テカラ此
問題ヲ出シテ來タラドウカ、此場合ニ於テ
申シテ置キマス、米價ノ標準、米穀法ノ發
動スル標準價格ヲ決定スルト云フコトニハ
私共反對シナイガ、其定メ方ガイケナイト
云フコトデアリマス、是ガ根本デアリマス、
斯ウ云フヤウナ意味ニ於キマシテ、私ハ此
米穀法ノ改正案ニハ反對ヲ致スノデゴザイ
マス、此米穀法ガ決定セラレマスナラバ、
農家ハ非常ニ困リマス、ドウカ諸君、此意
味ニ於キマシテ私共ノ説ニ御賛成下サルヤ
ウニ切ニ御願フ致シマス(拍手)

○議長(藤澤幾之輔君) 討論ハ結局致シマ
シタ、先ヅ米穀法中改正法律案ノ第二讀會
ヲ開クヤ否ヤヲ御諮リ致シマス、本案ノ第
二讀會ヲ開クニ賛成ノ諸君ノ起立ヲ求メマ
ス

〔賛成者 起立〕

○議長(藤澤幾之輔君) 多數デアリマス、
仍テ本案ノ第二讀會ヲ開クニ決シマシタ
○作田高太郎君 直チニ本案ノ第二讀會ヲ
開カレンコトヲ望ミマス

○議長(藤澤幾之輔君) 作田君ノ動議ニ御
異議アリマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(藤澤幾之輔君) 御異議ナシト認メ
マス、仍テ直チニ第二讀會ヲ開キマス

米穀法中改正法律案 第二讀會

○議長(藤澤幾之輔君) 別ニ御發議ガアリ
マセヌカラ、委員長報告通りニ決シマシタ、
是ニテ本案ノ第二讀會ハ終リマシタ

○作田高太郎君 直チニ本案ノ第三讀會ヲ
開カレンコトヲ望ミマス

○議長(藤澤幾之輔君) 作田君ノ動議ニ御
異議アリマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(藤澤幾之輔君) 御異議ナシト認メ
マス、仍テ直チニ第三讀會ヲ開キマス

米穀法中改正法律案 第三讀會

○議長(藤澤幾之輔君) 別ニ御發議ガアリ
マセヌカラ、第二讀會議決ノ通り可決確定
致シマシタ(拍手)次ニ米穀需給調節特別會
計法中改正法律案ノ第二讀會ヲ開クヤ否ヤ
ヲ御諮リ致シマス、本案ノ第二讀會ヲ開ク
ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(藤澤幾之輔君) 御異議ナシト認メ
マス、仍テ本案ノ第二讀會ヲ開クニ決シマ
シタ

○作田高太郎君 直チニ本案ノ第二讀會ヲ
開キ、第三讀會ヲ省略シテ、委員長報告ノ
通り可決確定セラレンコトヲ望ミマス

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(藤澤幾之輔君) 御異議ナシト認メ
マス、仍テ直チニ第二讀會ヲ開キマス

米穀需給調節特別會計法中改正法律案
第二讀會(確定議)

○議長(藤澤幾之輔君) 多數デアリマス、
仍テ本案ノ第三讀會ヲ省略シ、委員長
報告通り可決確定致シマシタ——日程第
一、電氣事業法改正法律案ノ第二讀會ヲ開キ
マス——小泉逎信大臣

第一 電氣事業法改正法律案 (政府提
出)

電氣事業法改正法律案 第一讀會

電氣事業法

第一條 本法ニ於テ電氣事業ト稱スルハ
左ニ掲タルモノヲ謂フ

一 一般ノ需用ニ應ジ電氣ヲ供給スル
事業

二 一般運送ノ用ニ供スル鐵道又ハ軌
道ノ動力ニ電氣ヲ使用スル事業

三 第一號又ハ前號ノ事業ニ電氣ヲ供
給スル事業

第二條 本法ニ於テ電氣工作物ト稱スル
ハ電氣ノ供給又ハ使用ノ爲施設スル水
路、貯水池、器具、機械、電線路其ノ
他ノ工作物ニシテ電氣事業ノ用ニ供ス
ルモノヲ謂フ

前項ニ於テ電線路ト稱スルハ電氣ノ傳
送ニ用フル電氣導體及之ヲ支持シ又ハ
保護スル工作物ヲ謂フ

第三條 電氣事業ヲ營マンツスル者ハ左
ノ書類ヲ具シ主務大臣ノ許可ヲ受クベ
シ

一 起業目録見書

二 工事設計書

三 工事費概算書

四 事業上ノ收支概算書

電氣事業者前項ノ書類ニ掲グル事項中
重要ナルモノヲ變更セントスルトキハ
主務大臣ノ許可ヲ受クベシ

第四條 電氣事業者ハ主務大臣ノ指定ス
ル期間内ニ工事施行ノ認可ヲ申請シ、
工事ニ著手シ及其ノ事業ヲ開始スベシ

主務大臣ハ正當ノ事由アリト認ムル場
合ニ限り前項ノ期間ノ伸長ヲ許可スル

○議長(藤澤幾之輔君) 發議ハアリマセ
ヌ、仍テ本案ハ第三讀會ヲ省略シ、委員長
報告通り可決確定致シマシタ——日程第
一、電氣事業法改正法律案ノ第二讀會ヲ開キ
マス——小泉逎信大臣

第一 電氣事業法改正法律案 (政府提
出)

電氣事業法改正法律案 第一讀會

電氣事業法

第一條 本法ニ於テ電氣事業ト稱スルハ
左ニ掲タルモノヲ謂フ

一 一般ノ需用ニ應ジ電氣ヲ供給スル
事業

二 一般運送ノ用ニ供スル鐵道又ハ軌
道ノ動力ニ電氣ヲ使用スル事業

三 第一號又ハ前號ノ事業ニ電氣ヲ供
給スル事業

第二條 本法ニ於テ電氣工作物ト稱スル
ハ電氣ノ供給又ハ使用ノ爲施設スル水
路、貯水池、器具、機械、電線路其ノ
他ノ工作物ニシテ電氣事業ノ用ニ供ス
ルモノヲ謂フ

前項ニ於テ電線路ト稱スルハ電氣ノ傳
送ニ用フル電氣導體及之ヲ支持シ又ハ
保護スル工作物ヲ謂フ

第三條 電氣事業ヲ營マンツスル者ハ左
ノ書類ヲ具シ主務大臣ノ許可ヲ受クベ
シ

一 起業目録見書

二 工事設計書

三 工事費概算書

四 事業上ノ收支概算書

電氣事業者前項ノ書類ニ掲グル事項中
重要ナルモノヲ變更セントスルトキハ
主務大臣ノ許可ヲ受クベシ

第四條 電氣事業者ハ主務大臣ノ指定ス
ル期間内ニ工事施行ノ認可ヲ申請シ、
工事ニ著手シ及其ノ事業ヲ開始スベシ

主務大臣ハ正當ノ事由アリト認ムル場
合ニ限り前項ノ期間ノ伸長ヲ許可スル

コトヲ得

第五條 電氣事業者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ行政官廳ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ工事ヲ施行シ又ハ電氣工作物ヲ使用スルコトヲ得ズ

第六條 電氣事業者ハ行政官廳ノ許可ヲ受テ他人ノ土地ニ立入リ電氣工作物ノ施設ニ關スル調査若ハ測量ヲ爲シ又ハ工事ノ爲メ他人ノ土地ニ立入ルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ少クモ五日前ニ市町村長ニ其ノ日時及場所ヲ通知シ市町村長ハ之ヲ告示シ又ハ其ノ旨ヲ土地ノ占有者ニ通知スベシ

電氣事業者ハ電氣工作物ノ修理又ハ巡視ノ爲メ必要アルトキハ其ノ工作物ヲ施設シタル他人ノ土地又ハ建造物ニ立入ルコトヲ得但シ日没ヨリ日出迄ノ間ニ於テハ危險急迫ノ場合ニ非ザレバ占有者ノ意ニ反シテ邸宅又ハ建造物ニ立入ルコトヲ得ズ

第七條 電氣事業者ハ必要アルトキハ電線ノ施設又ハ保守ニ障害ヲ及ボスベキ植物ヲ伐除シ又ハ移植スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ電氣事業者ハ植物ノ所有者ト協議スベシ協議調ハズ又ハ協議ヲ爲スコト能ハザルトキハ行政官廳ノ許可ヲ受ケテ之ヲ伐除シ又ハ移植スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ電氣事業者ハ豫メ其ノ旨ヲ植物ノ所有者ニ通知スベシ

危險急迫ノ場合ニ於テハ電氣事業者ハ前項ノ規定ニ拘ラズ直ニ植物ヲ伐除シ又ハ移植スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ遲滞ナク其ノ旨ヲ行政官廳ニ届出デ且植物ノ所有者ニ通知スベシ

第八條 電氣事業者ハ道路、橋梁、溝渠、河川、堤防其ノ他公共ノ用ニ供セラルル土地ノ地上又ハ地中ニ電線ヲ施設スル必要アルトキハ其ノ效用ヲ妨ゲザ

ル限度ニ於テ其ノ管理者ノ許可ヲ受ケテ之ヲ使用スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ電氣事業者ハ管理者ノ定ムル所ニ依リ使用料ヲ納ムベシ管理者正當ノ事由ナクシテ第一項ノ許可ヲ拒ミタルトキ又ハ管理者ノ定メタル使用料ノ額ヲ不相當ナリトスルトキハ主務大臣ハ電氣事業者ノ申請ニ依リ使用料ノ許可シ又ハ使用料ノ額ヲ定ムルコトヲ得

前三項ノ規定ハ道路法ニ依ル道路及其ノ附屬物並ニ道路法第七條ノ規定ニ依リ同法ノ規定ヲ準用スル道路及其ノ附屬物ト爲ルベキモノニ關シテハ之ヲ適用セズ

第九條 電氣事業者ハ必要アルトキハ現在ノ使用方法ヲ妨ゲザル限度ニ於テ他人ノ土地ノ空間若ハ地中ニ電線ヲ施設シ又ハ建造物ノ存在セザル他人ノ土地ニ電線ノ支持物ヲ建設スルコトヲ得

電氣事業者前項ノ規定ニ依リ他人ノ土地ヲ使用セントスル場合ニ於テハ其ノ所有者及占有者ト協議スベシ協議調ハズ又ハ協議ヲ爲スコト能ハザルトキハ其ノ使用ノ範圍ヲ定メ豫メ地方長官ノ許可ヲ受ケテ其ノ工事ニ著手スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ少クモ五日前ニ其ノ旨ヲ土地ノ所有者及占有者ニ通知スベシ

第十條 第六條、第七條及前條ノ場合ニ於テ現ニ生ジタル損失ハ電氣事業者之ヲ補償スベシ

前項ノ補償金額ハ當事者間ノ協議ニ依リ協議調ハズ又ハ協議ヲ爲スコト能ハザルトキハ許可ヲ爲シタル行政官廳之ヲ裁定ス裁定ニ不服アル者ハ其ノ通知ヲ受ケタル日より三月内ニ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得

行政官廳ハ必要アリト認ムルトキハ電

氣事業者ヲシテ損失ノ補償ニ充ツベキ金額ヲ供託セシムルコトヲ得

第十一條 電線ヲ施設シタル土地ノ近接地又ハ第九條ノ規定ニ依リ電線ヲ施設シタル土地ノ所有者又ハ占有者ハ土地ノ使用方法ヲ變更スル爲メ必要アルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ電氣事業者ニ對シ障害ノ豫防又ハ除却ニ必要ナル方法ヲ施設スコトヲ請求スルコトヲ得

前項ノ工事ニ要スル費用ハ命令ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外電氣事業者ノ負擔トス但シ其ノ工事ヲ爲シタル後正當ノ事由ナクシテ豫定ノ變更ヲ爲サザルトキハ請求者ノ負擔トス

第十二條 電氣事業者ハ地中電氣工作物ヲ施設スル場合ニ於テ他人ニ屬スル地中電氣工作物ノ位置ヲ變更スル必要アルトキハ當該工作物ノ效用ヲ妨ゲザル限度ニ於テ其ノ位置ヲ變更シ又ハ其ノ工作物ノ所有者ヲシテ其ノ變更ヲ爲サシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ電氣事業者ハ工作物ノ所有者ト協議スベシ協議調ハズ又ハ協議ヲ爲スコト能ハザルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ主務大臣ノ許可ヲ受ケクベシ

第十三條 電氣工作物相互間及電氣工作物ト其ノ他ノ工作物トノ間ニ於ケル障害防止ノ爲メ必要ナル施設ニ關スル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十四條 前二條ニ規定スル工事又ハ施設ニ關スル費用ノ負擔、損失ノ補償其ノ他ノ事項ハ命令ヲ以テ定ムルモノヲ除クノ外當事者間ノ協議ニ依リ協議調ハズ又ハ協議ヲ爲スコト能ハザルトキハ主務大臣之ヲ裁定ス

電氣工作物ト其ノ他ノ工作物トノ間ニ關スル裁定中負擔金額又ハ補償金額ニ付不服アル者ハ裁定ノ通知ヲ受ケタル

日より三月内ニ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第十五條 電氣事業者ハ正當ノ事由アルニ非ザレバ電氣ノ供給ヲ拒ムコトヲ得ズ

電燈ノ光度、供給點ニ於テ保持スベキ電壓、周波數、電氣工作物其ノ他供給業務ニ關スル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十六條 電氣事業者ハ主務大臣ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ供給事業ノ全部又ハ一部ヲ休止シ又ハ廢止スルコトヲ得ズ

第一條第一號又ハ第三號ノ電氣事業會社ノ解散ノ決議又ハ總社員ノ同意ハ主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

第十七條 電氣事業者電氣料金其ノ他供給條件ヲ設定シ又ハ變更セントスルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ主務大臣ノ認可ヲ受クベシ

主務大臣ハ公益上必要アリト認ムルトキハ電氣事業者ニ對シ電氣料金其ノ他供給條件ニ關シ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第十八條 第一條第一號又ハ第三號ノ電氣事業會社ハ事業擴張ノ場合ニ於テ主務大臣ノ認可ヲ受ケ其ノ事業ニ屬スル電氣工作物施設ノ費用ニ充ツル爲メ株金全額拂込前ト雖モ其ノ資本ヲ増加スルコトヲ得

第十九條 第一條第一號又ハ第三號ノ電氣事業會社ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ其ノ事業ニ屬スル電氣工作物施設ノ費用ニ充ツル爲メ株金全額拂込前ト雖モ其ノ資本ヲ増加スルコトヲ得

但シ社債ノ總額ハ拂込ミタル株金額ノ二倍ヲ超ユルコトヲ得ズ

最終ノ貸借對照表ニ依リ會社ニ現存スル財産ガ拂込ミタル株金額ニ滿タザル

トキハ前項ノ規定ヲ適用セズ
第一項ノ規定ニ依リ募集スル社債ニ付
テハ工場抵當法ニ依リ會社ノ事業ニ屬
スルモノヲ抵當ト爲スコトヲ要ス但シ
特別ノ事情アル場合ニ於テ主務大臣其
ノ必要ナシト認メタルトキハ此ノ限ニ
在ラズ

第二十條 電氣事業者ハ命令ノ定ムル所
ニ依リ主任技術者ヲ選任シ技術ニ關ス
ル事項ヲ擔任セシムベシ
主務大臣ハ主任技術者ガ其ノ職務ヲ怠
リ又ハ其ノ職務ヲ行フニ當リ不當ナル
行爲ヲ爲シタルトキハ其ノ解任ヲ命ズ
ルコトヲ得

第二十二條 第一條第一號又ハ第三號ノ
電氣事業會社ハ命令ノ定ムル所ニ依リ
主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ他
ノ事業ヲ營ムコトヲ得ズ
第二十二條 電氣事業ノ會計ニ關スル事
項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十三條 行政官廳ハ電氣事業者ニ對
シ電氣工作物及其ノ工事並ニ業務及財
產ノ狀況ニ關シ検査ヲ爲シ又ハ報告ヲ
爲サシムルコトヲ得
主務大臣ハ電氣工作物及其ノ工事、業
務並ニ會計ニ關シ電氣事業者ニ對シ改
善、改善其ノ他監督上必要ナル事項ヲ
命ズルコトヲ得

第二十四條 主務大臣ハ公益上必要アリ
ト認ムル場合ニ於テハ電氣設備ノ效用
ヲ増進シ又ハ電氣ノ供給ヲ調節スル爲
メ電氣事業者ニ對シ電氣工作物ノ施設、
變更若ハ共用、電氣ノ流用又ハ工事ニ
關スル期間ノ伸縮ヲ命ズルコトヲ得
前項ノ命令ニ因リ必要ヲ生ジタル工事
費用ノ負擔其ノ他ノ事項ハ關係電氣事
業者ノ協議ニ依リ協議調ハズ又ハ協議
ヲ爲スコト能ハザルトキハ主務大臣之
ヲ裁定ス

第二十五條 電氣事業者ハ主務大臣ノ認

可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ事業ノ全部
又ハ一部ヲ讓渡スコトヲ得ズ
電氣事業者ガ電氣事業ニ屬スルモノノ
全部又ハ一部ヲ以テ設定シタル工場財
團ノ競落人電氣事業者ナルトキハ當然
其ノ事業ヲ承繼ス

第二十六條 電氣事業會社ハ主務大臣ノ
認可ヲ受クルニ非ザレバ合併ヲ爲スコ
トヲ得ズ
第二十七條 左ノ場合ニ於テハ第三條ノ
許可ハ當該範圍ニ付其ノ效力ヲ失フ
一 指定ノ期間内ニ工事施行ノ認可ヲ
申請セズ、工事ニ著手セズ又ハ事業
ヲ開始セザルトキ

二 工事施行ノ認可ナキトキ
三 供給事業ノ全部又ハ一部ニ付廢止
ノ許可ヲ受ケタルトキ
四 電氣事業會社ガ解散シタルトキ
第二十八條 主務大臣ハ左ノ場合ニ於テ
第三條ノ許可ヲ全部若ハ一部ヲ取消シ
又ハ會社ノ取締役其ノ他ノ役員ノ改任
ヲ命ズルコトヲ得

一 電氣事業者ガ法令若ハ法令ニ基キ
テ爲ス處分又ハ許可若ハ認可ニ附シ
タル條件ニ違反シタルトキ
二 電氣事業者ガ其ノ供給區域内ノ一
部分ニ供給ヲ開始シタル後久シキニ
亙リ其ノ殘餘部分ニ對シ電線路其ノ
他供給上必要ナル設備ヲ爲サザルト
キ

三 電氣事業者ガ公益ヲ害スル行爲ヲ
爲シタルトキ
主務大臣ハ前項第一號ノ場合ニ電氣事業
者ノ計算ニ於テ他ノ電氣事業ヲシテ必
要ナル施設又ハ事業ノ管理ヲ爲サシム
ルコトヲ得

第二十九條 國ハ公益上ノ必要ニ因リ第
一條第一號又ハ第三號ノ事業ヲ買收ス
ルコトヲ得
公共團體ハ公益上ノ必要ニ因リ主務大

臣ノ許可ヲ受ケテ前項ノ事業ノ買收ヲ
爲スコトヲ得
前二項ノ規定ニ依リ事業ノ一部ヲ買收
セラルルニ因リテ殘存事業ノ全部又ハ
一部ニ付事業ヲ繼續スルコト能ハザル
トキハ電氣事業者ハ國又ハ公共團體ニ
對シ殘存事業ノ全部又ハ一部ノ買收ヲ
請求スルコトヲ得

前三項ノ規定ニ依リ買收價格、買收範
圍其ノ他買收ノ條件ハ當事者間ノ協議
ニ依リ協議調ハズ又ハ協議ヲ爲スコト
能ハザルトキハ主務大臣之ヲ裁定ス
前項ノ裁定中買收價格ニ付不服アル者
ハ裁定ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ三月内
ニ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第三十條 第一條ニ掲グル事業ヲ除クノ
外電氣施設ヲ爲スモノニ關スル規定ハ
命令ヲ以テ之ヲ定ム
前項ニ規定スルモノノ中重要ナル産業
又ハ公共ノ利益ト爲ルベキ事業ノ爲メ
電氣ノ供給又ハ使用スル事業ニ關シテハ
勅令ノ定ムル所ニ依リ本法ヲ準用ス

第三十一條 國ニ於テ電氣事業ヲ營マン
トスルトキハ當該官廳ハ主務大臣ト協
議スベシ第三條第二項ノ事項ヲ變更セ
ントスルトキ亦同ジ
國ニ於テ電氣事業ニ關シテハ第三
條乃至第五條、第十五條乃至第二十三
條、第二十五條乃至前條及第三十五條
乃至第三十八條ノ規定ヲ適用セズ

國ニ於テ電氣事業ニ付テハ第二十
四條ニ規定スル事項ニ關シ勅令ヲ以テ
別段ノ定ヲ爲スコトヲ得
第三十二條 第二十四條第一項ノ命令其
ノ他電氣事業ニ關スル重要事項ニ付主
務大臣ノ諮問ニ應ズル爲メ電氣委員會ヲ
置ク

電氣委員會ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ
之ヲ定ム
第三十三條 電氣工作物ヲ損壞シ、之ニ

物品ヲ接觸シ又ハ其ノ他ノ方法ヲ以テ
電氣ノ供給又ハ使用ヲ妨害シタル者ハ
五年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金
ニ處ス
前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第三十四條 電氣事業者ノ承諾ヲ得ズシ
テ濫ニ電氣工作物ノ施設ヲ變更シタル
者ハ五百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處
ス
第三十五條 本法若ハ本法ニ基キテ發
スル命令ニ依リ許可若クハ認可ヲ受ケ
テ爲スベキ事項ヲ之ヲ受ケズシテ爲シ
タル者又ハ第十七條第二項若ハ第二十
四條第一項ニ依リ命令ニ違反シタル者
ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十六條 電氣事業者左ノ各號ノ一ニ
該當スルトキハ五百圓以下ノ罰金ニ處
ス
一 第十五條第一項ノ規定ニ違反シタ
ルトキ
二 正當ノ事由ナクシテ第二十三條ノ
規定ニ依リ検査ヲ拒ミ、妨ゲ若ハ忌
避シ又ハ報告ヲ爲サズ若ハ虛偽ノ報
告ヲ爲シ其ノ他行政官廳ノ命ジタル
事項ヲ爲サザルトキ

第三十七條 電氣事業者ハ其ノ代理人、
戶主、家族、雇人其ノ他ノ從業者ガ其
ノ業務ニ關シ本法若ハ本法ニ基キテ發
スル命令又ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ違
反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出デザル
ノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得
ズ

第三十八條 本法又ハ本法ニ基キテ發ス
ル命令ニ依リ電氣事業者ニ適用スベキ
罰則ハ電氣事業者法人ナルトキハ取締
役其ノ他法人ノ業務ヲ執行スル役員
ニ、未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ
其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業
ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未
成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第三十九條 本法又ハ本法ニ基キテ發ス
ル命令ニ依リ電氣事業者ニ適用スベキ
罰則ハ電氣事業者法人ナルトキハ取締
役其ノ他法人ノ業務ヲ執行スル役員
ニ、未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ
其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業
ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未
成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
本法ニ依リ新ニ許可又ハ認可ヲ受クベキ
モノト爲リタル事項ニシテ本法施行ノ際
現ニ存スルモノハ之ヲ本法ニ依リ許可又
ハ認可ヲ受ケタルモノト看做ス

〔國務大臣小泉又次郎君登壇〕

○國務大臣(小泉又次郎君) 只今上程セラ
レマシタ電氣事業法改正案提出ノ趣旨ヲ簡
單ニ辯明致シマス、軌近電氣事業ノ發達ハ
極メテ著シキモノガアリマシテ、國民ノ日
常生活ノ上ニ、將又各種産業上ニ缺クベカ
ラザル關係ヲ有スルニ至リマシタルコトハ、
今更申上ゲルマデモナイノデアリマス、之
ヲ二十年前、現行電氣事業法制定ノ當時ニ
比較致シマスルナラバ、洵ニ隔世ノ感ガア
ルノデアリマス、斯ノ如ク全ク面目ヲ一新
致シマシタ所ノ電氣事業ヲシテ、能ク其使
命ヲ全ウセシメ、以テ國民ノ福利増進ニ資
シテ遺憾ナキヲ期シマスルノニハ、是ガ監
督行政ノ基礎タルベキ法制ヲ能ク現下ノ實
情ニ副ハシメテ、其實現ヲ圖ラネバナラヌ
ト存ズルノデアリマス、御承知ノ如ク歐洲
大戰後ニ於ケル經濟界ノ變動ハ、有ユル産
業ノ根本的整理、合理化ノ必要ニ迫ラレテ
居ルノデアリマス、特ニ電氣事業ハ國民ノ
日常生活ニ直接關係ノアルハ勿論、其他諸
般ノ事業ニ對シ動力ヲ供給スル所ノ、所謂
基礎産業タル性質ニ鑑ミマシテ、其合理的
統制ヲ圖ルノ必要ハ、他ノ事業ニ較ベマシ
テ一層切實ナルモノガアルト存ズルノデア
リマス、本案ハ右ノ趣旨ヲ以チマシテ、電
氣事業ニ對シ監督行政ノ方針ヲ確立シ、事
業統制ノ據ルベキ所ヲ定メ、事業ノ正常ナ
ル發達ヲ期スルガ爲ニ、現行電氣事業法ノ
全部改正ヲ行ハントスルモノデアリマス、
仍テ何卒慎重ニ御審議ノ上、速ニ協賛アラ
ンコトヲ切望致シマス(拍手)

○議長(藤澤幾之輔君) 質疑ヲ許シマス——
倉元要一君

〔倉元要一君登壇〕

○倉元要一君 私ハ只今上程ニ相成リマシ
タ改正法案ニ付テ四五ノ質疑ヲ致シタイ
ト存ジマス、極ク簡潔ニ要領ダケヲ申上ゲ
タイト存ジマス、今逡信大臣ノ御説明ヲ承
リマシテモ、此電氣事業ハ基礎産業デアリ
マシテ、最モ國民經濟ト密接ナル、重大
ナル關係ヲ持ツモノデアリマス、此法案ハ
此見地ニ立ッテ考ヘマスト、吾々ハ慎重ニ考
慮ヲ拂ハナケレバナラヌ問題ト存ズルノデ
アリマス、先ヅ第一ニ私ガ當局ニ伺ヒタイ
コトハ、此法案ノ骨子ハ電力ノ統制ニアル
モノト私共ハ思フノデアアル、此統制ヲ期ス
ルト云フコトハ、電氣事業ノ設備ニ於テ、
諸般ノ施設、其他ニ於テ資本ノ重複ヲ避ケ
ル、設備ノ重複ヲ避ケテ、有無相通ズル所
ノ一ツノ合理化ヲ行フト云フコトニアルコ
トハ論ズルマデモナイコト、存ジマス、左
様ニ考ヘテ參リマスト、此統制ガ如何相成
ルカト云フト、

〔議長退席、副議長著席〕

事業者ハ主トシテ民間ノモノデアリマス、
一般ノ財界ノ狀況ガ好況ニ向ヒ、漸次電力
ヲ要スル所ノ情勢ガ、供給ヨリモ之ヲ補フ
ダケノ電力ガ不足ヲ來スヤウナ場合ガ若シ
アリトシタ時ニ、事業者ハ多ク民間デアリ
マスカラ、此要求ニ應ズル施設ヲ爲ス場合
ニハ、資金ヲ要スル關係ガ生ズルノデアアル、
此時ニ當テ民間ノ事業者ハ、此資金ヲ調達
スルコトニ甚ダ困難ナル場合ガアリマス、
之ヲ政府ガ按配ヲシテ、此資金調達ニマデ
モ保證ヲ與ヘ、便宜ヲ與ヘルダケノ方針ガ
政府ニナクテハ、此統制ノ完全ヲ期スルコ
トハ出來ナイト思フノデアリマス
尙ホ此統制ヲ行フ上ニ付キマシテ附帶シ
テ起ル問題ハ、此事業者ノ間ニ於テ、電力
ノ卸賣ヲスル所ノ事業者、此電力ヲ卸賣ヲ
爲ス事業者ト、他ノ供給ヲ爲ス所ノ事業者
トノ間ニ、紛争ヲ招ク事例ガ從來少クナイ
ノデアリマス、斯ノ如キ場合ニ一般公衆ト

事業者トノ間ニハ、政府ガ其中ニ立ッテ調停
ニ立ツ規定ガアル、然ルニ事業者間ノ紛争
ヲ釀シタ場合ニ、政府ガ進シデニ調停ヲ
スル所ノ勞ヲ取ル規定ハナイノデアリマス、
一方ニ於テ電力ノ供給ヲ受ケル方ノ側カラ
言フテ、モウ少シ供給ヲ受ケタイ、現在ノ供
給量デハ不足ヲ來スカラ、需要ハ益々増進シ
テソレニ伴フダケノ供給ガ足りナイカラ、
供給ヲセヨト言フ場合ニ、之ヲ拒ム場合ガ
アリ、或ハ又反對ニ今マデ供給ヲ受ケテ居
タ方デ、卸賣側ノ事業者ノ方ヘ是レ／＼ダ
ケノ「幾ナ」キロワット時ダケノ供給ヲ
受ケテ居タガ、今後ハ其半分デ宜イト云フ
ヤウナ、突然從來ノ關係ヲ打切ラントスル
ヤウナ場合ガ往々ニ生ズルノデアリマス
ス、斯ノ如キ場合ハ政府ハ進シデ此間ノ調
停ヲ爲シ、事業ノ圓滿ナル發達、之ヲ御考
ヘニナッテ居ルカドウカ、此所見如何ヲ御尋
スルノデアリマス

尙ホ第三ハ第二十四條ノ規定ガ即チ統制
トナルベキ根源ノ條項デアリマスルガ、其
條項ヲ見マスト云フト、此電力ノ根源デア
ル、即チ發電水力——ムツカシイ言葉デ申
シマスナラバ、アナタ方ノ御承知ノヤウニ
發電資源、電氣資源、此資源ト云フコトニ
付テノ統制ヲ付ケル規定ガナイノデアリマ
ス、アノ規定ノ中ニ電氣資源ト云フ四字ヲ
御加ヘニナルナラバ此電力ノ根源デアアル、
是ノ統制ヲ付ケテ行ク所ノ途ガ開ケテ行ク
ノデアリマスケレドモ、此根源ノ電氣資源
カラ生レテ出ル所ノ電力ノ配電、其他ノ按
配ニ付テハ茲ニ規定セラレテ居ル、所ガ其
根本トナル資源ニ付テノ統制ノ規定ヲ缺イ
テ居ルト云フコトハ、甚ダ私共ハ此法案全
體ヲ通ジテ見テ一ツノ缺陷デアルト思フノ
デアリマス、是ハ將來水利、或ハ水力ト申
シマスカ、水利法、水力法ト云フヤウナ、
サウ云フ法案ヲ將來政府ハ此議會ニ提案ス
ルト云フ一面ニハ御考ガア、テ之ヲ左様ニ
御取扱ニナッテ居ルノデアアルカ、其邊ヲハ

キリ御答辯ヲ願ヒタイト存ジマス

第四ニ御尋申上ゲルコトハ、今日財界ノ
不況ニ伴ヒマシテ、電力ノ需要ト云フモノ
ハ漸次減シテ來テ居ル、毎年從來ノ統計ヲ見
マスト云フト、一割以上需要ガ増進シテ居
ル、然ルニ今日ハ財界不況ノ爲ニ是ガ五分
ニ減ジテ居ル狀態デアアルノデアリマス、此
電力ガ只今デハ過剰ニナッテ居ル、供給過多
デアアル、人ニ依ッテハ之ヲ八十一萬「キロワ
ット」ト言ヒ、或ハ七十萬「キロワット」ト言
フ、私共ハ先ヅ大體間違ノナイ數字トシテ
考ヘテ見テ、六十萬「キロワット」或ハ五十萬
「キロワット」、此間ノ過剰電力ト云フモノ
ガ、我國ニアルト見テ居ルノデアアル、此電
力ハ此統制ヲ付ケテ行クト云フ政府ノ此見
地ニ立ッテ考ヘマストナラバ、此餘剩電力ヲ有
效ニ利用スルコトガ、最モ國家經濟ノ上カ
ラ云デモ極メテ必要ナルコト、私共ハ考
ヘル、逡信大臣ハ之ニ對シテ如何ナル御考
ヲ御持チニナッテ居ルカ、私共ハ此過剰電力
ハ鐵道省ガ只今計畫ニナッテ居ル所ノ信濃
川ノ電力、此發電所ヲ御計畫ニナルヤウナ
コトヲ御考ヘニナラナクテモ、此過剰ノ電
力ヲ應用ナサッテ、或ハ中央線ヲ電化スル、
ソレニ依ッテ輸送力ヲ増ス、總テノ運轉經費
モ非常ニ低下スルコトガ出來ル、隨テ他ノ
産業ガ起ル、斯ウ云フ一舉兩得ノ私ハ經濟
的ニ施設ガ出來ルト思フ、殊ニ東海道本線
ノ複々線ナドモ、中央線ノ電化輸送力ノ増
進ニ依ッテ是等ハ緩和セラレルノデアリマ
ス、是等ハ政府當局ニ於テハ如何ニ御研究
ニナッテ居ルノデアアルカ、此餘剩電力ヲ有效
ニ應用スルト云フコト、關聯シテ考ヘマシ
テ、今ノ問題ノ御答辯ヲ願ヒタイト存ジマ
ス
次ニハ此法案ノ中ノ第三十二條ニハ、最
モ統制上ニ必要ナル諮問機關トシテ、電氣
委員會ト云フモノヲ設置ニナルヤウデアリ
マス、此委員會ノ組織運用ト云フコトニ付
テハ、是ハ勅令ヲ以テ定メルトシテ、即チ

命令ニ讓テアルヤウデアリマスガ、此組織ノ内容、諮問スベキ所ノ重要ナル事項ト云フモノハ、現實的ニ斯ウ云フ場合ニ此委員會ニ諮問スルモノナリト云フコトニ付テ、ハッキリ御答辯ヲ願ヒタイと思ヒマス

考ヘニナッテ居ルカ

次ニ伺ヒマスコトハ、政府ハ此統制ヲ御付ケニナリ此見地ニ立ッテ、重要産業、基礎産業ト云フ此見地ニ立ッテ、國民經濟ノ上ニ至大ナル影響ヲ持ツ重大ナル問題デアリカラシテ、將來此電力事業ト云フモノハ、國家自ラガ其經營ニ當ルコトガ國民生活上必要デアアル、是ハ一ツ考ヘ方ニ依ッテハ社會問題トモナル大キナ問題デアアル、將來政府ノ所見ハ漸ク追ウテ國營ヲ實現セシメタイト云フ方針デアアルノカ、サウハ考ヘテ居ナイノデアアルカ、此法案ノ全體ノ建前カラ之ヲ判斷シマスコト云フト、政府ハ之ヲ國家ノ經營ニ移シタイト云フ希望ヲ有セラレヤニ吾々ハ親ヒ見ルノデアリマス、ソコデ此規定ノ中ニ國家ハ公益上必要アル場合ニ之ヲ買收スルコトハ出來ル、又公共團體モ監督官廳ノ許可ヲ受ケテ此電氣事業ヲ買收スルコトガ出來ル、斯ウ云フ規定ガアルノデアリマスガ、公益上必要ナル場合はガ公共團體ノ場合デアッタ時、之ヲドウ云フヤウニ政府ハ御考ヘニナッテ居ルカ、即チ公共團體ガ電氣事業經營ノ任ニ當ルト云フ際ニハ、如何ナル場合ニ之ヲ許可スル方針デアアルノカ、地方公共團體ノ電氣事業ノ經營ニ當テ居ル其實績ニ鑑ミマシテ、政府ノ所見ハ如何アリマスガ、サウシテ地方公共團體ニ此電氣ノ事業ヲ許スト云フヤウニナッテ場合ニ、其地方團體ノ行政區域ト、電氣ヲ供給スル所ノ區域ト云フモノハ必ズシモ一致シナイノデアアル、左様ニ考ヘテ見マスコト云フト、或ハ料金ノ點、或ハ區域ノ點、其他諸般ノ點ハ上ニ今ノ政府ノ統制ヲ行フ所ノ方針ニ反シハセヌカ、此方針ヲ貫クノニ少クトモ邪魔ニナリハセヌカト私共ハ考ヘルノデアリマスガ、眞點ハ政府ハ如何ニ御

考ヘニナッテ居ルカ
次ニ伺ヒタイコトハ電力料金ノ問題デアリマス、是ガ吾々日常ノ生活ノ上カラ考ヘテ、國民全體ノ經濟ニ鑑ミマシテ、最モ重大ナル案件デアアルと思フテ居ルノデアリマス、今日ノ電燈料金ト云フモノハ、電力料金ト云フモノハ、是ハ好況時代ノ多クハ高イ資金ヲ投ジテ出來上ッテ、ソレヲ基礎トシテノ料金デアアルと思フノデアリマス、開ク所ニ依ルト此元ハ水力發電所ノ「キロワット」ノ價ハ五百圓、火力ガ三百圓、是ガ今日デハ水力ガ三百圓位デ、火力ガ百二十圓程度ニ於テ設備ガ出來得ラルルト云フ狀態ニ相成ッテ居ル、斯様ニ一般ノ經濟ノ狀態ガ違ッテ來テ居ル、此各電氣事業者ノ經營スル狀態ガ一々同一デアレバ宜イガ、必ズシモ歩調ガ揃テ同一デアリマス、其事業者ノ内容ガ一々違フノデアリマス、ソコデ此料金ガ甲者ノ方ハ非常ニ高イ、乙者ノ方ハ幾ラカ安イト云フヤウナ、デンド、區々ニ相成ッテ居ルノデアリマス、需要者ノ關係カラ言ヘバ、今日ノ世ノ中ノ經濟狀態カラ見テ、今日ノ電力料金ト云フモノハ非常ニ高イ、殊ニ一般物價ガ二割七分或ハ三割ニ近イダケノ低落ヲ見タ今日カラ之ヲ考ヘマスルト、丁度政府ガ煙草ノ値下モセナイ、鹽ノ値下モセナイ、斯ウ云フコト、關聯シテ考ヘテ見マスルト、一般國民ハ非常ニ無理ナ電力料金ノ負擔ヲシテ居ルト云フ結論ニ達シマス、ソコデ今同第十七條ニ於テ、料金ハ從來出主義ニ依ッテ、其事業者ノ自由デアッタモノヲ、今回政府ガ此料金ヲ決定スル所ノ權限ヲ持ツヤウニナッテデアリマス、此權限ヲ持ツコトハ、考ヘ方ニ依リマスルト自由デアアルベキ事業ヲ束縛シテ、政府ガ勝手ニ料金ヲ定メルト云フコトハ甚ダ喜バシクナイ點デアアルと思フノデアリマスガ、併シサウスルコトガ、國民經濟ノ爲ニ、一般需要者ノ保護ノ爲ニ極メテ必要デアアルト云フコトノ爲ニ、是ダケ重大ナル

權限ヲ政府ガ握ルノデアアル、サウ致シマスルト、政府ハ一々各地ニ於ケル需要者ト事業者トノ間ノ料金ニ對スル値下問題ノ紛擾、是等ハ直チニ政府自ラガ引受ケテ其解決ノ衝ニ當ラナケレバナラヌノデアリマス、サウ云フ決心ヲ政府ハ持ッテ居ルノデアアルカ、是ハ重大ナル問題デアリマス
尙ホ此經過規定ヲ見マスルト、現行法ニ依ッテ手續ヲシタモノ、其他改正法案ノ許可、認可ヲ受ケル其事項ニ付テノ總テノ事ハ、舊法令ニ依ッテ爲シタル手續其他ヲ有効ニ認メテ行クト云フノデアリマスカラ、現在各地ニ於ケル各會社ノ定メテ居ル電燈料ト云フモノハ、政府ハ之ヲ是ナリトシテ御認ニナルノデアリマスガ、何處カ目前ニ或ル紛爭ヲ控ヘテ居ル需要者側ト事業者側、此料金ニ關スル爭ニ付テモ、政府ハ進ンデ之ヲ解決スル意思アルヤ否ヤ、隨テ是ハ政府ハ如何ナル基準ヲ定メテ此料金ヲ裁定ナスノデアアルカ、何ノ基準ニ依ッテ料金ヲ裁定スルノデアアルカ、非常ニムツカシイ問題デアリマスガ、此基準ガ定ッテ居ラナケレバ、甲ノ會社、乙ノ會社、之ニ依ッテ非常ニ違フ、是ハ重大ナル問題デ、是ハ將來ニ禍根ヲ胎ス根源デアアルと思フノデアリマスガ、政府ハ如何ナル基準ニ依ッテ此料金ヲ定メル方ヲ持ッテ居ラレカ、此料金ヲ定メマスル上ニ於キマシテ、此事業會社ノ會計ヲ檢査スルコトガ必要デアアル、此改正案ヲ見マスルト、委員會ノ組織其他ニ付テハ命令ニ之ヲ讓ッテ居ラレル、ソレト同様ニヤハリ此會計ノコトモ省令又ハ勅令、即チ命令ニ之ヲ讓ラレテ居ルヤウデアリマスガ、同ジ事業ノ性質デアアル瓦斯事業ニ對シテ、本期議會ニ政府ノ提出シタル改正法案ノ中ニハ何ト書イテアルカト云フト、其第十八條ノ第二項ニ於テ主務大臣ハ瓦斯事業者ニ對シ瓦斯工作物、業務又ハ利益金ノ處分、銷却其ノ他計理ニ關シ改築、改善其ノ他監督上必要ナル事項ヲ命ズルコトヲ得」ト云フコトガ、

瓦斯事業者ノ方デハ法律ニチヤント規定ガアル、ソレヲ此法案ニハ命令ニ讓ッテ、會計檢査ノ事ヲ全ク輕ク視テ居ラレルヤウデアリマスガ、料金ハ政府ガ決定スル權限ヲ握ル以上ハ、此權限ノ基礎ヲ爲ス所ノ其事業ノ內容狀態ヲ深ク研究考察スル手段ニ出ヅル、此會計檢査ト云フ事ヲ命令ニ讓ッテ、之ヲ輕ク視ルト云フコトハ、甚ダ是ハ當ラヌト思フ、是ハ法律ノ御改正アルベキモノト存スルノデアリマス
大體私ノ質問ハ以上ノ要旨ニ依ッテ盡キテ居ルト思フノデアリマス、尙ホ詳細ノ事ハ委員會ニ於キマシテ十分ニ政府ノ所見ヲ質シタイト存スルノデアリマス(拍手)
〔國務大臣小泉又次郎君登壇〕
○國務大臣(小泉又次郎君) 倉元君ノ御質問ニ對シテ御答致シマス、本案ノ骨子ハ事業統制ニ重投資ヲ防止スルモノデアアルカト云フコトデアリマスガ、御尋ノ通りデアリマス、其他ニ本案ノ骨子ハ、料金認可制度モ其骨子ノ主ナルモノト致シテ居リマス
電力不足ノ場合ハ民營事業者ガ資金ヲ調達ニ相當ニ困ルガ、資金調達ノ方法ニ付テハ、何カ明文ガアルカト云フ仰セデアッタノデアリマスガ、資金調達ニ付キマシテハ一寸今何條デシタヲ發見致シマセヌガ、此條項ノ中ニ事業會社ガ株金ノ全部拂込前ト雖モ増資スルコトガ出來ルト云フ、所謂金融ノ方法ヲ特ニ設ケテ居ルノデアリマスカラ、之ヲ以テ調節ガ出來得ルト信ジテ居リマス
電力ノ卸賣業者ト其他ノ事業者トノ間ニ於テ其契約上ノ破綻ヲ來スカ、若クハ解約スル場合ニ於テ、今マデ卸賣ヲ致シタル事業者ハ直チニ其總テノ設備ガ立廢レニナルデハナイカ、サウ云フ時ニハドノ權限ヲ以テ之ニ發動命令ヲスルカ、其條項モ見當テ居ラヌデハナイカ、斯様ナ御意思ニ何ッテデアリマスガ、其事ヲ明カニハ此處ニハ認メテアリマセヌケレドモ、御承知ノ如ク

第一條第三號ニ於テ「第一號又ハ前號ノ事業ニ電氣ヲ供給スル事業」所謂ハ特定ノ供給ヲ指シタモノデアリマシテ、御間ノ卸賣業者モ電氣事業者ノ中ニ入テ居ルノデアリマス、之ヲ受テマシテ第十七條ニハ「電氣事業者電氣料金其ノ他供給條件ヲ設定シ又ハ變更セントスルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ主務大臣ノ認可ヲ受クベシ、主務大臣ハ公益上必要アリト認ムルトキハ電氣事業者ニ對シ電氣料金其ノ他供給條件ニ關シ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得」此條項ニ於キマシテモ、御尋ノヤウナコトガ發生シタ場合ニハ、主務大臣ハ發動致シテ其裁定ヲ致ス權能ヲ持ツテ居ルト信ジテ居ルノデアリマス、其上ニ第二十四條ニ「主務大臣ハ公益上必要アリト認ムル場合ニ於テハ電氣設備ノ效用ヲ増進シ又ハ電氣ノ需給ヲ調節スル爲メ電氣事業者ニ對シ電氣工作物ノ施設、變更若ハ共用、電氣ノ流用又ハ工事ニ關スル期間ノ伸縮ヲ命ズルコトヲ得」斯様ナ條項ガアリマス、御尋ノ御趣意ノ杞憂ハ解決ガ出來ルト信ジテ居ルノデアリマス

電氣資源ニ付テ何等ノ明文ガナイデハナイカト仰セデアッタノデアリマスガ、ヤハリ此電氣資源ニ付キマシテモ、第二十四條ニ依リマシテ電氣設備ノ效用ヲ増進ストアリマス、此文字ハ資源即チ水ノ利用ニ關係シタ條文デアアルノデゴザイマス、其設備ノ爲ニハ、貯水池等ノ設備ニ依リマシテ、其調節ハ出來得ルト考ヘテ居リマス

電力過剰ニ付テ御質問デアリマシタガ、御質問ノ如ク、現在ニ於テハ幾何カノ電力ハ過剰ニ居ルト思フデ居リマス、餘ッテ居ルナラバ、今回鐵道省ノ信濃川發電所ヲ許ス必要ガナイデハナイカ、ソレヲ利用スルコトガ、即チ電氣統制ノ本旨デハナイカ、斯様ナ御質問ノ御趣意ニ承ク、タノデアリマス、御質問ノ通りデアリマス、併ナガラ我ガ逡信省ノ統計ニ依リマスレ

バ、現在デハ幾何カノ電力ハ過剰致シテ居リマスケレドモ、近キ將來、少クモ昭和十年度カ十一年度ニ至リマス、現在ノ動力デハ不足ヲ告ゲルト云フ計數ガ現ハレテ居ルノデアリマス、之ニ依テ信濃川ハ、申上ゲルマデモナク今日始メ問題デアリマス、前々内閣カラノ問題デアリマシテ、多年ノ懸案デアッタノデアリマス、但シ我ガ逡信省ニ於キマシテハ、其過剰動力ガアルナラバ、何トカシテ之ヲ統制上調節スルノ緊要ヲ認メマシタノデ、其點ニ付テハ特ニ重キヲ置イテ研究ヲ致シマシタ、其結果鐵道省ニ於キマシテモ、近キ將來ニ電力ガ不足ヲ生ズルト云フ計數ヲ持ッテ居リマサルガ故ニ、而モ信濃川ノ此發電所ナルモノハ、昭和十一年即チ十二年度ノ初メニ於テ落成スルノデアリマス、丁度電力ノ不足ヲ生ズルヤウナ時ニ仕上ル、ソレハ是ヤヲ參照致シマシテ、鐵道省デハ自給自足ト云フコトヲ目的ト致シタ、斯様ナ考デアリマス、逡信省デハ之ヲ適當ト認メマシテ許可致シタ次第デアアルノデアリマス、次ニ電氣調査會議ニ掛ケル所ノ諸問題項ハドウデアアルカト、斯様ナ御質問デアリマシタガ、是ハ詳シク申シマス、云フト、隨分細カニ互ルト思フデ居リマス、(簡單簡單ト呼フ者アリ)其點ハ委員會ニツ御譲リヲ願ヒタイト思フデ居リマス

國營ノ意思ガアルカドウカ、簡單ニ申シマス、斯様ナ御質問ノヤウデアッタノデアリマス、又本案ハ國營ヲ前提トシテノ法案デハナイカト、斯様ナ御質問ノ御趣意ト承ッテ居リマシタガ、理想ト致シマシテハ、斯様ナ電氣事業ハ國營ガ最モ理想ニ適フモノデアアルト思フデ居リマス、但シ現在我ガ逡信省ニ於キマシテハ、之ヲ國營ト致ス意思ハ持ッテ居リマセヌ、即チ此統制ガ將來本當ニ行ハレテ居リマセヌ、即チ此統制ガ將來本當ニ行ハレテ參リマシテ、サウシテ二重投資モ省ケ、茲ニ眞ノ統制ト云フモノガ出

來マス以上ハ、或ハ近イ將來ニ於テ、其理想通りノ國營ニナル時期ガ來ナイトモ限ラスト思フデ居リマス、此點ハ是ダケ御答ト致シテ置キマス

國家公益上必要アル場合、又公共團體ガ之ヲ買收スルト云フ時ニハ、統制ノ邪魔ニナラスカト、斯様ナ御質問ノヤウデアリマサルガ、其場合ニ、國家ガ之ヲ必要ト認メタ場合、若クハ公共團體ガ買收ノ必要アリト認メマス時ニ於キマシテ、之ヲ許可致シマス場合ニハ、必ズ其統制ヲ案ストカ、或ハ複雑ナル事情ヲ惹起スト云フヤウナコトノ萬ナイコトニ注意致シマシテ、許可スル時ニハ許可致シタイト思フデ居リマスカラ、決シテ統制ノ邪魔ニナルヤウナコトハナイト考ヘテ居リマス

電力料金ニ付キマシテハ、第十七條ニ認メテアリマス、抑セノ如ク今日ハ事業者ニ依リマシテ一定ノ料金ニテ居リマセヌ、申上ゲルマデモナク、一ツノ事業會社ニ於キマシテモ、都會ト郡村トデハ自ラ料金ヲ異ニ致シテ居ルト云フコトハ、申スマデモナイノデアリマス、是ハ倉元君モ御承知ノ通り、私ハ素人デアリマスケレドモ、調査致ス所ニ依リマス、此電氣事業ト云フモノハ、他ノ一般ノ商工業業ト異リマシテ、特ニ大資本ガ固定致スノデアリマス、時ノ物價ノ騰落ニハ大シタ關係ハナイノデアリマス、殊ニ仰セノ如ク、今日出來テ居リマス、殊ニ電氣事業ト云フモノハ、凡ソ一番景氣ノ好イ物ノ高カッタ時分ニ設備ヲ致シテ居リマス、併シ今日ハ物價指數ガ下ッテ居ルカラ、之ヲ下ゲルノハ當然デハナイカ、是ハ數字ノ上カラハサウデアリマセウケレドモ、今申上ゲマシタル如ク、電氣事業ト云フモノハ、他ノ一般ノ商工業業ト異リタル特殊點ヲ持ッテ居ルト云フ點カラ考ヘマス、直チニ之ヲ下ゲルノガ善イカ思イカト云フコトハ、極メテ重大ナル問題デアリマス、幸ニシテ本案ガ通過致シマスナラ

バ、先程御質問ニナリマシタ其委員會ニ、斯様ナモノハ諮問致シマシテ、權威アリ其委員會ノ答申ヲ得タイト考ヘテ居リマス(簡單々々ト呼フ者アリ)其他ニ二三アリマス、相成ベクハ、是ハ一ツ委員會ノ方ニ御譲リヲ願ヒタイト思ヒマス(拍手)

○倉元要一君 此席デ御許シテ願ヒタイト思ヒマス、今逡信大臣ノ御答辯ヲ承リマシテ、私ハ甚ダ不満足ニ考ヘマスガ、委員會ニ於テ詳細ニ質シタイト存ジマス、併シ唯一點ダケ質問ヲ致シタイ、本案施行ノ期日ハ勅令ニ議ッテ居ラレマスガ、凡ソイツ頃カラ御實施ニナル御考デアリマス、此點ダケヲ簡單ニ御答辯願ヒマス

○國務大臣(小泉又次郎君) 成ベク速ニ施行シタイト思フデ居リマス、申上ゲルマデモナク重要法案デアリマス、之ヲ實施致シマスニハ、相當當局ト雖モ、又電氣事業者ト雖モ、準備ノ豫備知識ノ必要ヲ感ジマス、昭和七年ノ一月カ若クハ本年末ニ於テ、之ヲ實施シタイト云フ考ヲ持ッテ居リマス(拍手)

○副議長(小山松壽君) 質疑ハ終了致シマシタ、日程第二、右議案ノ審査ヲ付託スベキ委員ノ選舉ヲ議題ト致シマス

第二 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

○作田高太郎君 本案ハ議長指名十八名ノ委員ニ付セラレシコトヲ望ミマス

○副議長(小山松壽君) 作田君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

○(異議ナシト呼フ者アリ)

○副議長(小山松壽君) 御異議ナシト認メマス、仍チ動議ノ決シマシタ

日程第三、土地收用法中改正法律案ノ第一讀會ヲ開キマス、齋藤政府委員

第三 土地收用法中改正法律案 (政府提出)

土地收用法中改正法律案
第二條第四號中「索道」ノ下ニ「專用自動車道」ヲ、「下水」ノ下ニ「國立公園」ヲ加フ施行ス

本法中專用自動車道ニ關スル規定ハ自動車交通事業法施行ノヨリ、國立公園ニ關スル規定ハ國立公園法施行ノヨリ之ヲ施行ス

(政府委員齋藤隆夫君登壇)

○政府委員(齋藤隆夫君) 土地收用法中改正法律案、右提出ノ理由ヲ極メテ簡單ニ說明シテ、自動車道事業並自動車運輸事業ノ交通上ニ於ケル地位重要ナルニ至リ、自ラカラン、自動車交通事業法ニ制定シ、自動車運輸事業ノ爲ニハ、必要ナル專用自動車道ノ開設ヲ認メテ、健全ナル發達ヲ圖ラントスルノデアリマス、又國立公園法ニ制定シテ、我國ニ於ケル優秀ナル自然ノ風景地ヲ保護開發シ、以テ國民ノ保健休養乃至ハ教化ニ資セントス、以テ國民ノ關心ニ事業ハ、何レモ公共ノ利益トナルベキ事業デゴザイマシテ、是ガ施設ニ要スル土地ハ、土地收用法ニ依リマシテ收用ス、仍テ茲ニ土地收用法中改正法律案ヲ提出シタノデアリマス、御審議上御協賛アラントヲ望ミマス(拍手)

○副議長(小山松壽君) 日程第四、右議案ノ審查ヲ付託スベキ委員ノ選舉ヲ議題ト致シマス

第四 右議案ノ審查ヲ付託スベキ委員ノ選舉

○作田高太郎君 本案ハ政府提出國立公園法案ノ委員ニ併セテ付託セラレシコトヲ望ミマス

○副議長(小山松壽君) 作田君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

○副議長(小山松壽君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ

日程第五、著作權法中改正法律案ノ第一讀會ヲ開キマス——齋藤政府委員

第五 著作權法中改正法律案 (政府提出、貴族院送付)

著作權法中改正法律案 (小字及ハ貴族院修正)

著作權法中改正法律案中左ノ通修正ス
第一條第一項中「美術」ヲ「美術(音樂ヲ含ム以下之ニ同ジ)」ニ改ム

第十八條 他人ノ著作物ヲ發行又ハ興行スル場合ニ於テハ、○著作人ノ生存中ハ、著作權ヲ有スルト否トニ拘ラズ又其ノ生存中タルト死後タルトニ拘ラズ其ノ同意ナクシテ其ノ氏名稱號ヲ變更又ハ隱匿シ又ハ其ノ著作物ニ改竄其ノ他ノ變更ヲ加ヘ若ハ其ノ題號ヲ改ムルコトヲ得ズ

他人ノ著作物ヲ發行又ハ興行スル場合ニ於テハ、著作人ノ死後ハ、著作權ヲ消滅シタルトシ、其ノ著作物ニ改竄其ノ他ノ變更ヲ加ヘテ著作人ノ意ヲ害シ又ハ其ノ題號ト死後タルトニ拘ラズ其ノ同意ナクシテ改竄、會減其ノ他ノ變更ヲ加ヘ置スルコトヲ得ズ

又ハ其ノ題號ヲ改ムルコトヲ得ズ但シ著作人ノ聲望ヲ害セザルトキハ此ノ限ニ在ラズ

前二項ノ規定ハ第二十條、第二十一條ノ二、第二十二條ノ五第二項及第三十條第一項第二號乃至第六號ノ場合ニ於テモ之ヲ適用ス

第二十條 新聞紙又ハ雜誌ニ掲載シタル經濟上、政治上又ハ宗教上ノ時事問題ヲ論議シタル記事、ハ特ニ轉載ヲ禁ズ(除ク)

ル旨ノ明記ナキトキハ其ノ出所ヲ明示シテ之ヲ他ノ新聞紙又ハ雜誌ニ轉載スルコトヲ得

第二十二條ノ五 文藝、學術又ハ美術ノ範圍ニ屬スル著作物ノ著作權ハ其ノ著作物ノ無線電話ニ依リ放送ヲ許諾スルノ權利ヲ包含ス

無線電信法及之ニ基キ發スル命令ニ依リ主務大臣ノ許可ヲ受ケタル放送無線電話施設者ハ既ニ發行又ハ興行セラレタル他人ノ著作物ヲ放送セントスルトキハ著作人ノ著作物ニ付テハ前項ノ許諾ヲ得

權者ト協議ヲ爲スコトヲ要ス協議ハザルナキ場合ト雖モ之ヲ放送スルコトヲ得但シ相當ノ償金ヲ支拂フコトヲ要ス

ムル相當ノ償金ヲ支拂ヒ其ノ著作物ヲ放送スルコトヲ得

前項ノ償金ノ額ニ付異議アル者ハ民事裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第三十六條ノ二 第十八條ノ規定ニ違反シタル行為ヲ爲シタル者ニ對シテハ著作人ハ著作物タルコトヲ確保シ又ハ○訂正其ノ他

○其ノ聲望ヲ回復スルニ適當ナル處分ヲ請求シ及民法第三編第五章ノ規程ニ從ヒ損害ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得

第十八條ノ規定ニ違反シタル行為ヲ爲シタル者ニ對シテハ著作人ノ死後ニ於テハ著作人ノ父母、配偶者又ハ子ニ於テ其ノ著作物タルコトヲ確保シ又ハ○訂正其ノ他

○其ノ聲望ヲ回復スルニ適當ナル處分ヲ請求スルコトヲ得

前二項ノ規定ニ依リ民事ノ訴訟ニ付テハ前二條ノ規定ヲ準用ス

(政府委員齋藤隆夫君登壇)

○政府委員(齋藤隆夫君) 議案トナテ居リマス、著作權法中改正法律案、理由ヲ大要説明致シマス、過ク昭和三年五月伊太利國羅馬ニ於ケルマニエラ、文學的及美術的著作物保護ニ關シテ、我國カラム其會議ニ代表者ヲ派遣シタルノ後、其改正會議ニ結果、同年六月條約ノ規定ガ時勢ノ進運ニ副フベク改正セラレマシテ、而シテ此改正ニ基キマシテ、國內法タル現行著作權法中ニ多少ノ修正ヲ加ヘル所ノ必要ガゴザイマスルノデ、今回此趣旨ノ一部改正ヲ爲ス

爲ニ本案ヲ提出致シタ次第デアリマス、右條約ノ改正點ハ、何レモ時勢ノ進運ニ應ジタ適當ナル改正トシテ、國內法ニ修正ハマスカラ、隨テ之ニ基ク國内法ニ修正ヲ加ヘマスコトハ、條約上ハ固ヨリ、我國ノ現狀ニ鑑ミマシテ必要デアルト認ムルモノデゴザイマス、改正致シタル最重要ナル點ハ、第一ハ著作人ノ人格權保護ノ完備ヲ期シタコトデアリマス、第二ハ活動寫眞映畫ノ保護ニ關スル規定ヲ新設シタコトデアリマス、第三ハ著作物ヲ「ラヂオ」放送スルノ權能ヲ著作人ノ内容ニ包含サル利益ト確認スルコト同時ニ、著作人ノ私利利益ト社會公共ノ利益トヲ調和セシムル爲メコトデアリマス、第四ハ時事問題ヲ認メタコト席ニ於テナサレタル演説、保護ヲ制限シタコトデアリマス、第五ハ其他轉載禁止等ノ留保ノ記載ガゴザイマセヌトキハ、新聞紙雜誌ノ記事ヲ自由ニ轉載シ得ルコトニ關スル規定ヲ多少修正シタコトデアリマス、尙ホ貴族院ニ於ケル修正ガアレタノデゴザイマス、此修正ト政府原案トハ、此根本ノ趣旨ニ於キマシテハ、大體ニ於テ相違ニシテ所ガゴザイマセヌカラ、政府モ此修正ニ同意シ居ル次第デゴザイマス、何卒御審議上御協賛アラントヲ切望致シマス(拍手)

○副議長(小山松壽君) 質疑ガアリマス、之ヲ許可致シマス——加藤知正君

○加藤知正君 極メテ簡單ニ質問致シマス、只今御提案ニナリマシタ著作權法中改正法律案ハ、中ゲ上ルマデモナク、萬國著作權保護同盟條約、即チ修正「ベルヌ」條約ニ基キマシテ、茲ニ此改正案ヲ御提出ニ相成タノデアリマス、是ガ爲ニ著作人ガ其著作權ノ擁護ヲ得ル上ニ於キマシテ、一段ノ進歩ヲ見ルコトヲ得マシタコトハ、深ク之ヲ欣ブ次第デアリマス、併ナガラ、此改正法律案ヲ見マスルト、四章五十一條ニ亙ル中、僅ニ十箇條ノ修正ニ過ギナイノデアリマス、此點ニ於テ、改正案デ、十分著作人ノ著作權ヲ擁護シ得ルコトヲ御考デ、著作人ノ利益ヲ徹底シ得ルコトヲ云フ御考ハナ

イカ 第二ニハ今カラ五年前、昭和二年、五十二議會ニ對シマシテ、現内閣ハ出版法ト新

ヒマス第三ハ出版權法ヲ制定スルモ思定ハシタカト思フ御尋デアリマスガ、是意ニシテタイト思フテ居リマス、御承知ノ如ク今日ニ於テハ出版權法ガアリマセヌガ爲ニ、著作權者ト出版者トノ間ノ權利關係ガ甚ダ曖昧デゴザイマス、辛ウジテ民法ノ規定ニ依リテ、之ヲ補足シテ居ルノデアリマス、出版權者ノ權利ハ詔リ著作者ニ對スル出版ノ權利ヲ保護セントスルノデアリマスカラシテ、著作權法ヲ根本的ニ改正スルニアラザレバ、出版權法ト云フモノヲ制定スルコトガ出來ナイデアリマスカラシテ、此兩者ヲ併セテ成ベク早く實行シタイト思フテ居リマス（拍手）

○副議長（小山松壽君） 田中憲政大臣（國務大臣田中隆三君） 文部省ニ關スル御尋ニ付テ御答ヲ致シマス、現行法ノ第三十條ニ依リテ教科書ノ爲ニ他人ノ著作物ヲ拔萃輯録スルコト云フ特權ハ、新法ニ於テモ何等變ル所ハアリマセヌ、現行ノ通りデアリマス、此度ノ改正ハ少シモソレニ觸レテ居リマセヌ、唯今マデ不明デアリマシタ著作物ト出版者トノ間ニ、今度ハ今御指摘ニナリマシタ十八條ノ規定ガ貴院ノ修正ニ依リテ加ハリマシタガ、ソレハ法文自體ニ明カナル如ク、著作者ノ死亡前ト死亡後トニ分ケマシテ、死亡前ニ於テハ或事項ヲ限リテ其承諾ヲ要スルコト、死亡ニ於テハ、極ク些細ナク改竄等ニ付テハ、何等ノ承諾ヲ求ムルコトナクシテ自由ニ之ヲ許シテ居ルコト云フ、今マデナカッタ規定ガ一ツ加タノデアリマス、是ハ全く別ノ事デアリマシテ、教科書等ニ應用スル第三十條ノ規定ハ、前中上ゲル通り、ハッキリト從來ノ通りニナシテ居リマスカラ、御安心下サルコトヲ望ミマス、ソレカラ司法大臣カラモ御答ガアルカモ知レキマセヌガ、ヤハリ文部省ニ關係アルコトニ付キマシテ、寄附強要ノ事ニ御議論ガ及ンダヤウデアリマスガ、今日マデ承諾スル寄附事件ハ五件バカリゴザイマスカ、ソレハ何レモ任意ニ進ンデ寄附ヲシタコトニ相成ッテ居リマスカラ、左様ニ御承知ヲ願ヒマス

○副議長（小山松壽君） 渡邊司法大臣（國務大臣子爵渡邊千冬君登壇）

○國務大臣（子爵渡邊千冬君） 御答ヲ致シマス、若シ公務員ガ職權ヲ濫用ナシマシテ寄附ナル行爲ヲ行ハシメマシタラバ、是ハ明カニ刑法第百九十三條ノ規定ニ違反シタモノデアリマス、併ナカラ今日マデ其事

